

横浜市子ども・若者実態調査
市民生活実態調査

(報告書)

平成30年3月

横浜市

<目次>

第1章 調査概要

1. 調査の趣旨	1
2. 調査の全体構造と目的	1
3. 調査手法	1

第2章 アンケート調査の結果について

1. 子ども・若者実態調査(15～39歳)の結果について	
1-1. 回収結果	3
1-2. 対象者の属性	3
1-3. ひきこもり群の出現率	3
1-4. 過去にひきこもり状態であったと思われる群の出現数	6
2. 市民生活実態調査(40～64歳)の結果について	
2-1. 回収結果	7
2-2. 対象者の属性	7
2-3. ひきこもり群の出現率	7
2-4. 過去にひきこもり状態であったと思われる群の出現数	9
3. 単純集計結果の主なポイント	10
4. ひきこもり群等に関する傾向の分析.....	33

参考資料

1. アンケート調査票	1
2. 単純集計結果	15
3. クロス集計結果	50

第1章 調査概要

1. 調査の趣旨

本市では、子ども・若者の健全育成の推進に取り組むとともに、ひきこもり等の困難を抱える子ども・若者の自立支援施策の充実に取り組んでいます。

施策や事業の推進にあたり、15～39歳の子ども・若者の生活状態及び困難を抱える若者のニーズや課題を把握するため、平成24年度以来2回目となる「横浜市子ども・若者実態調査」を実施しました。

今回、ひきこもりの長期化や高齢化が社会的に問題視されていることを踏まえ、15～39歳の子ども・若者を対象とする「横浜市子ども・若者実態調査」にあわせ、40～64歳の方を対象に、「横浜市子ども・若者実態調査」と同内容の「市民生活実態調査」を実施しました。今後の施策を検討する際の基礎資料として活用します。

2. 調査の全体構造と目的

一般市民調査	<p>(1) アンケート調査</p> <p>目的：本市の子ども・若者（15～39歳）及び40～64歳の方の生活状態及び困難を抱える方のニーズや課題の把握</p> <ul style="list-style-type: none">① 基礎数値の把握（ひきこもり数、各種リスクを抱える方の数）② 市民の現在の生活状況、ふだん考えていること、抱えている悩み・課題等や実態の傾向分析
施設利用者調査	<p>(2) 支援機関におけるヒアリング調査</p> <p>目的：困難事例の実態把握及び有効な施策・支援方法の検討</p> <ul style="list-style-type: none">① 困難を抱える子ども・若者の意識や実態についての事例検証・分析② 有効な支援方法・プログラムの抽出

※ アンケート調査により把握したいデータ

(1) ひきこもり群

- ① ひきこもり群の人数
- ② 属性（性別、年齢、居住区、家庭状況など）
- ③ きっかけ
- ④ 相談支援についての経験・意見等
- ⑤ 過去の経験や人間関係、生きがい、就業意欲等の意識

(2) 子ども・若者及び40～64歳の方一般

- ① ふだんの生活、就業・就学状況等
- ② ふだんの考え方・気持ちの傾向、悩み・課題等
- ③ 過去の経験や人間関係、生きがい、就業意欲等の意識

3. 調査手法

(1) アンケート調査

- ① 調査対象 : a 横浜市内に居住する満15歳以上39歳以下の男女個人
b 横浜市内に居住する満40歳以上64歳以下の男女個人
- ② 標本数 : a 3,000標本
b 3,000標本
- ③ 標本抽出方法 : 住民基本台帳から無作為抽出

- ④方 法 : 郵送配付・訪問及び郵送回収
(調査票を郵送後、調査員が訪問回収。希望者等は郵送回答)
- ⑤調査時期 : 平成 29 年 7 月 28 日～11 月 30 日
- ⑥有効回答数 : a 1,004 人 (33.5%)
b 1,327 人 (44.2%)

(2) 支援機関ヒアリング調査 (困難を抱える当事者等)

- ①標 本 数 : 32 事例
- ②対 象 機 関 : 青少年相談センター、サポートステーション、地域ユースプラザ
- ③調査の方法 : 支援団体・機関等の紹介を通じて現在支援を受けている当事者及び過去に支援を受けていた方への聞き取り
- ④事 例 集 : 支援団体・機関等がこれまでに対応したケースの分析等
- ⑤調査時期 : 平成 29 年 10 月～11 月
- ⑥公表時期 : 平成 30 年 5 月頃を目途に公表予定

1章 アンケート調査の結果について

1 子ども・若者実態調査（15～39歳）の結果について

1-1. 回収結果

有効回収数（率） 1,004人（33.5%）

1-2. 対象者の属性

※ 無回答、不正回答、不明等は、集計から除いています。

(1) 性別

総数：1,002人 男性：434人（43.3%） 女性：568人（56.7%）

(2) 年齢

総数：1,004人 15～19歳：171人（17.0%） 20～24歳：168人（16.7%）
25～29歳：162人（16.1%） 30～34歳：227人（22.6%）
35～39歳：276人（27.5%）

1-3. ひきこもり群の出現率

ひきこもり群及びひきこもり親和群については、平成27年度に内閣府が実施した「若者の生活に関する調査」による定義を用いた。

本調査におけるひきこもり群は、

Q14 「あなたはふだんどのくらい外出しますか」について、下記の5～8に当てはまる者

- ・「5 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のみときだけ外出する」
- ・「6 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」
- ・「7 自室からは出るが、家からは出ない」
- ・「8 自室からはほとんど出ない」

かつ

Q16 「あなたが現在の状態となつてどのくらい経ちますか」について、6か月以上（選択肢2～9）と回答した者

であつて、

Q17 「あなたが現在の状態となつたきっかけは何ですか」で、

- ・「7 病気（病名： ）」を選択し、病名に統合失調症又は身体的な病気を記入した者、
- ・「8 妊娠した」を選択した者、
- ・「10 その他（ ）」を選択し、（ ）に自宅で仕事をしている旨や出産・育児をしている旨を記入した者

又は

Q8 「あなたは現在働いていますか」で、

- ・「10 専業主婦・主夫」
- ・「12 家事手伝いをしている」と回答した者

Q13 「あなたがふだんご自宅にいるときによくしていることすべてに○をつけてください」で、「8 家事・育児をする」を選択した者

を除いた人数 14人〔男性：10人、女性4人〕（有効回答数に占める割合 1.39%）。

なお、平成 29 年 1 月 1 日現在の横浜市の年齢別人口において、15～39 歳は 1,046 千人なので、市内のひきこもり群の推計数は $1,046 \text{ 千人} \times 1.39\% = \text{約 } 15,000 \text{ 人}$ となる。

<ひきこもり群（14 人）の状況>

ア Q1「あなたの性別をお答えください。（○はひとつだけ）」について

	24 年度調査	29 年度調査
男性	6 人	10 人
女性	4 人	4 人
合計	10 人	14 人

イ Q3「あなたの年齢をお答えください。（○はひとつだけ）」について

	24 年度調査	29 年度調査
15～19 歳	1 人	5 人
20～29 歳	4 人	5 人
30～39 歳	5 人	4 人
合計	10 人	14 人

ウ Q15「現在の状態になったのは、あなたが何歳の頃ですか。（数字で具体的に）」について

	24 年度調査	29 年度調査
10 代	2 人	9 人
20 代	6 人	4 人
30 代	2 人	1 人
合計	10 人	14 人

エ Q16「あなたが現在の状態となってどのくらい経ちますか。（○はひとつだけ）」について

	24 年度調査	29 年度調査
6 か月以上～1 年未満	3 人	2 人
1 年以上～3 年未満	2 人	3 人
3 年以上～5 年未満	2 人	3 人
5 年以上～7 年未満	1 人	0 人
7 年以上～10 年未満	2 人	1 人
10 年以上～20 年未満	項目なし (29 年度調査で 項目新設)	5 人
20 年以上～30 年未満		0 人
30 年以上		0 人
合計	10 人	14 人

オ Q17「あなたが現在の状態になったきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)」について

	24年度調査 (n=10)	29年度調査 (n=14)
不登校	1人	4人
受験に失敗した	0人	2人
就職活動がうまくいかなかった	2人	1人
職場になじめなかった	1人	0人
人間関係がうまくいかなかった	2人	6人
病気	0人	4人
その他	7人	3人

【参考1】前回本市調査及び内閣府調査との比較

調査実施年度	横浜市		内閣府	
	24年度	29年度	21年度(*1)	27年度(*2)
標本数	3,000人	3,000人	5,000人	5,000人
回収数 (率=回収数/標本数)	1,386人 (46.2%)	1,004人 (33.5%)	3,287人 (65.7%)	3,115人 (62.3%)
ひきこもり状態にある方 (有効回答数に占める割合)	10人 (0.72%)	14人 (1.39%)	59人 (1.79%)	49人 (1.57%)
ひきこもり状態にある方の 推計人数	約 8,000人	約 15,000人	約 69.6万人	約 54.1万人

*1) 内閣府：平成21年度 若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）

*2) 内閣府：平成27年度 若者の生活に関する調査

【参考2】ひきこもり親和群

(1) 定義

家や自室に閉じこもりたいと思うことがある等、心理的にはひきこもり群と同じ意識傾向を持っているが、**ひきこもりの状態ではない者**

(2) 推計値

ひきこもり親和群は、

Q34 「次にあげられたことについて、あなた自身にあてはまる番号に〇をつけてください」で、

- ・「20 家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちがわかる」
- ・「21 自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある」
- ・「22 嫌な出来事があると、外に出たくなくなる」
- ・「23 理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う」

の4項目がすべて「1 はい」又は1項目のみ「2 どちらかといえばはい」と答えた者

の中から、「ひきこもり群」を除いた者の人数 69人〔男性：27人、女性42人〕（有効回答数に占める割合 6.87%）。

市内のひきこもり親和群の推計数は $1,046 \text{ 千人} \times 6.87\% = \text{約 } 72,000 \text{ 人}$ となる。

1-4. 過去にひきこもり状態（注1）であったと思われる群の出現数（注2）

平成27年度に内閣府が実施した「若者の生活に関する調査」を参考に、以下のように定義する。

Q24 「あなたは過去に6か月以上連続して、以下のような状態になったことはありますか」について、下記の1～4に当てはまる者

- ・「1 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」
- ・「2 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」
- ・「3 自室からは出るが、家からは出ない」
- ・「4 自室からはほとんど出ない」

であって、

Q27 「その状態になったきっかけは何ですか」について、

- ・「7 病気（病名： ）」を選択し、病名に統合失調症又は身体的な病気を記入した者、
- ・「8 妊娠した」を選択した者、
- ・「10 その他（ ）」を選択し、（ ）に自宅で仕事をしている旨や出産・育児をしている旨を記入した者

を除いた人数 58人

（注1） ここでいう「ひきこもり状態」と3ページの「ひきこもり群」（該当人数14名）は定義が異なる。「ひきこもり群」についての定義は3ページ参照。

（注2） 平成27年度に内閣府が実施した「若者の生活に関する調査」では、本人アンケートに加え、家族アンケートを実施しており、上記Q24に該当する者から上記Q27または以下の条件に該当する者を除いている。

本人票「あなたは今までに6ヵ月以上連続して、以下のような状態になったことはありますか」（本市調査ではQ24が該当）について、

「1 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」を選択し、かつ

家族票で家族が「対象者の方は今までに6か月以上連続して、以下のような状態になったことはありますか」について、

「1～4のような状態（※）に6か月以上連続してなったことはない」と回答した者

- ※ 1. 趣味の用事の時だけ外出する
- 2. 近所のコンビニなどには出かける
- 3. 自室からは出るが、家からは出ない
- 4. 自室からほとんど出ない

2 市民生活実態調査（40～64 歳）の結果について

2-1. 回収結果

有効回収数（率） 1,327 人（44.2%）

2-2. 対象者の属性

※ 無回答、不正回答、不明等は、集計から除いています。

(1) 性別

総数：1,325 人 男性：577 人（43.5%） 女性：748 人（56.5%）

(2) 年齢

総数：1,327 人 40～44 歳：264 人（19.9%） 45～49 歳：302 人（22.8%）
50～54 歳：253 人（19.1%） 55～59 歳：253 人（19.1%）
60～64 歳：255 人（19.2%）

2-3. ひきこもり群の出現率

ひきこもり群及びひきこもり親和群については、平成 27 年度に内閣府が実施した「若者の生活に関する調査」による定義を用いた。

本調査におけるひきこもり群は、

Q14 「あなたはふだんどのくらい外出しますか」について、下記の 5～8 に当てはまる者

- ・「5 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事するときだけ外出する」
- ・「6 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」
- ・「7 自室からは出るが、家からは出ない」
- ・「8 自室からはほとんど出ない」

かつ

Q16 「あなたが現在の状態となってどのくらい経ちますか」について、6 か月以上（選択肢 2～9）と回答した者

であって、

Q17 「あなたが現在の状態となったきっかけは何ですか」で、

- ・「7 病気（病名： ）」を選択し、病名に統合失調症又は身体的な病気を記入した者、
- ・「8 妊娠した」を選択した者、
- ・「10 その他（ ）」を選択し、（ ）に自宅で仕事をしている旨や出産・育児をしている旨を記入した者

又は

Q8 「あなたは現在働いていますか」で、

- ・「10 専業主婦・主夫」
- ・「12 家事手伝いをしている」と回答した者

Q13 「あなたがふだんご自宅にいるときによくしていることすべてに○をつけてください」で、「8 家事・育児をする」を選択した者

を除いた人数 12 人〔男性：6 人、女性 6 人〕（有効回答数に占める割合 0.90%）

平成 29 年 1 月 1 日現在の横浜市の年齢別人口において、40～64 歳は 1,311 千人なので、市内の 40～64 歳のひきこもり群の推計数は、1,311 千人×0.90＝ 約 12,000 人 となる。

<ひきこもり群（12人）の状況>

ア Q1「あなたの性別をお答えください。（○はひとつだけ）」について

	24年度調査	29年度調査
男性		6人
女性		6人
合計		12人

イ Q3「あなたの年齢をお答えください。（○はひとつだけ）」について

	24年度調査	29年度調査
40～49歳		4人
50～59歳		5人
60～64歳		3人
合計		12人

ウ Q15「現在の状態になったのは、あなたが何歳の頃ですか。（数字で具体的に）」について

	24年度調査	29年度調査
10代		0人
20代		4人
30代		1人
40代		4人
50代		3人
60代		0人
合計		12人

エ Q16「あなたが現在の状態となってどのくらい経ちますか。（○はひとつだけ）」について

	24年度調査	29年度調査
6か月以上～1年未満		0人
1年以上～3年未満		1人
3年以上～5年未満		1人
5年以上～7年未満		1人
7年以上～10年未満		2人
10年以上～20年未満		5人
20年以上～30年未満		2人
30年以上		0人
合計		12人

オ Q17「あなたが現在の状態になったきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)」について

	24年度調査 (n=10)	29年度調査 (n=12)
不登校		1人
職場になじめなかった		4人
人間関係がうまくいかなかった		5人
病気		4人
その他		1人

【参考】ひきこもり親和群

(1) 定義

家や自室に閉じこもりたいと思うことがある等、心理的にはひきこもり群と同じ意識傾向を持っているが、**ひきこもりの状態ではない者**

(2) 推計値

ひきこもり親和群は、

Q34 「次にあげられたことについて、あなた自身にあてはまる番号に〇をつけてください」で、

- ・「20 家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちがわかる」
- ・「21 自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある」
- ・「22 嫌な出来事があると、外に出たくなくなる」
- ・「23 理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う」

の4項目がすべて「1 はい」又は1項目のみ「2 どちらかといえばはい」と答えた者の中から、「(広義の) ひきこもり群」を除いた者の人数 34人〔男性：12人、女性 22人〕(有効回答数に占める割合 2.56%)

市内のひきこもり親和群の推計数は $1,311 \text{ 千人} \times 2.56\% = \underline{\text{約 34,000 人}}$ となる。

2-4. 過去にひきこもり状態(注1)であったと思われる群の出現数(注2)

平成27年度に内閣府が実施した「若者の生活に関する調査」を参考に、以下のように定義する。

Q24 「あなたは過去に6か月以上連続して、以下のような状態になったことはありますか」について、下記の1~4に当てはまる者

- ・「1 ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」
- ・「2 ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」
- ・「3 自室からは出るが、家からは出ない」
- ・「4 自室からはほとんど出ない」

であって、

Q27 「その状態になったきっかけは何ですか」で、

- ・「7 病気(病名：)」を選択し、病名に統合失調症又は身体的な病気を記入した者、
- ・「8 妊娠した」を選択した者、
- ・「10 その他()」を選択し、()に自宅で仕事をしている旨や出産・育児をしている旨を記入した者

を除いた人数 31人

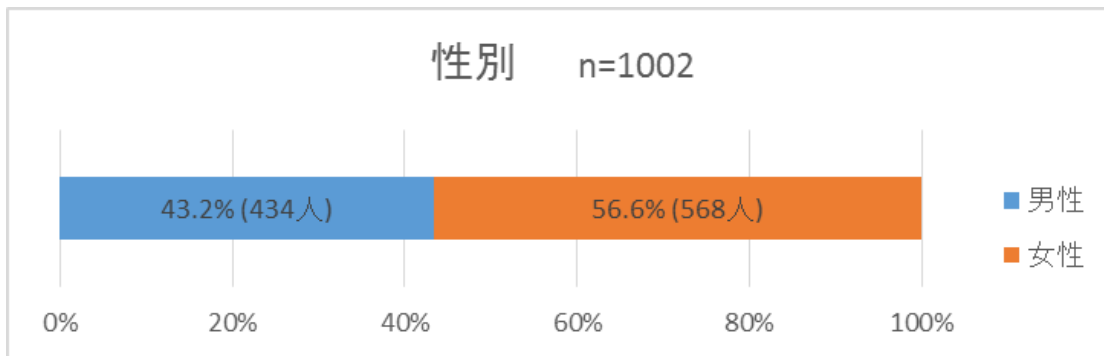
(注1) ここでいう「ひきこもり状態」と7ページの「ひきこもり群」(該当人数12名)は定義が異なる。「ひきこもり群」についての定義は7ページ参照。

(注2) 内閣府調査では家族票があったため、定義が異なる(詳細は6ページ参照)。

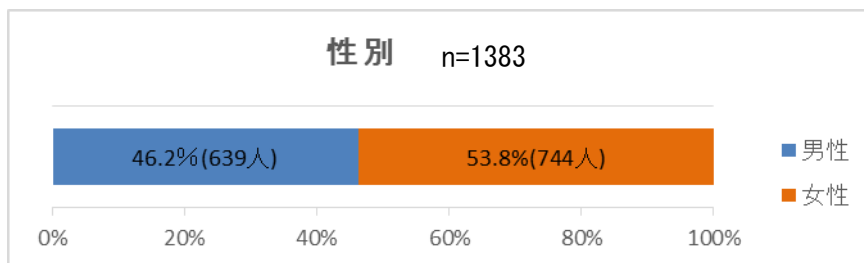
3. 単純集計結果の主なポイント

(1) Q1「あなたの性別をお答えください（○はひとつだけ）」について

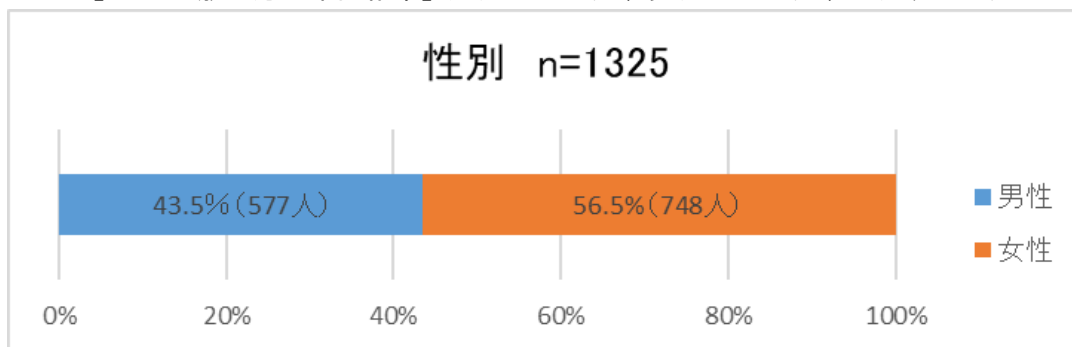
・【15～39 歳の方の集計結果】男性が 434 人、女性が 568 人、無回答が 2 人であった。



【参考】前回（平成 24 年度）調査

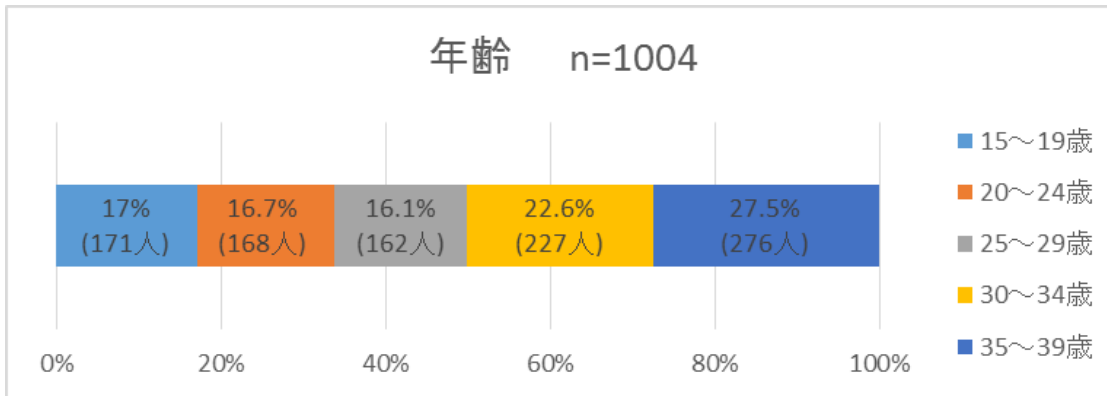


・【40～64 歳の方の集計結果】男性が 577 人、女性が 748 人、無回答が 2 人であった。

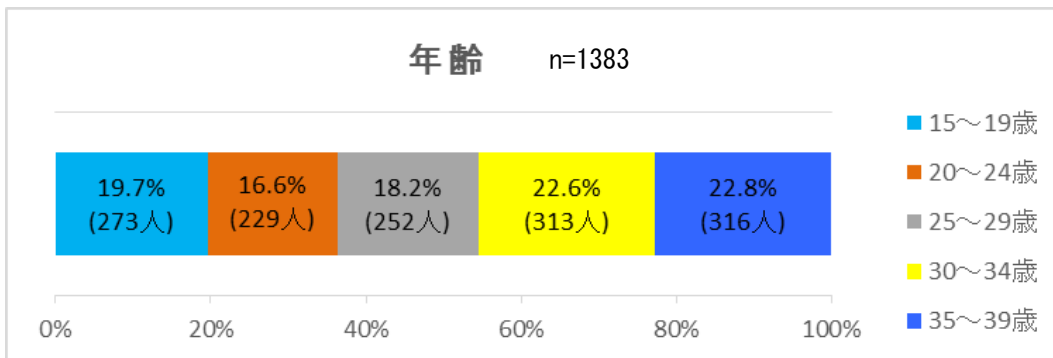


(2) Q3「あなたの年齢をお答えください。(〇はひとつだけ)」について

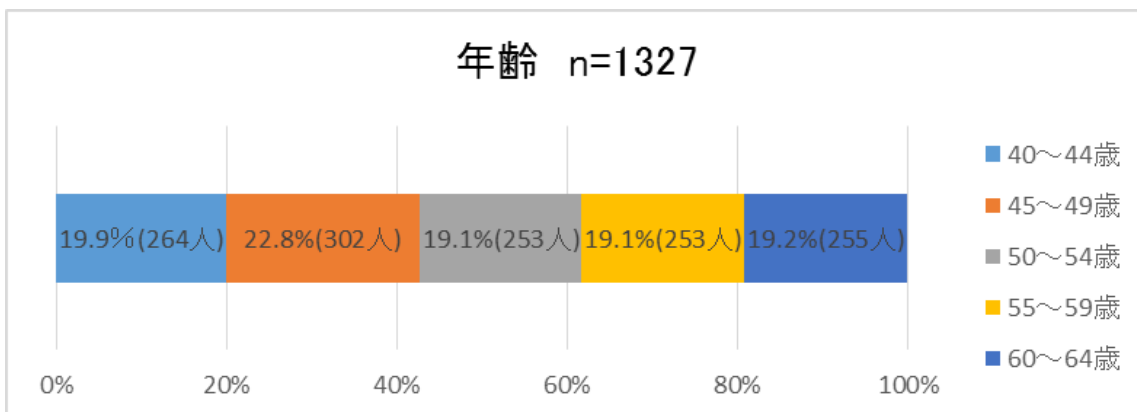
・【15～39 歳の方の集計結果】15～19 歳が 171 人、20～24 歳が 168 人、25～29 歳が 162 人、30～34 歳が 227 人、35～39 歳が 276 人であった。



【参考】前回（平成 24 年度）調査



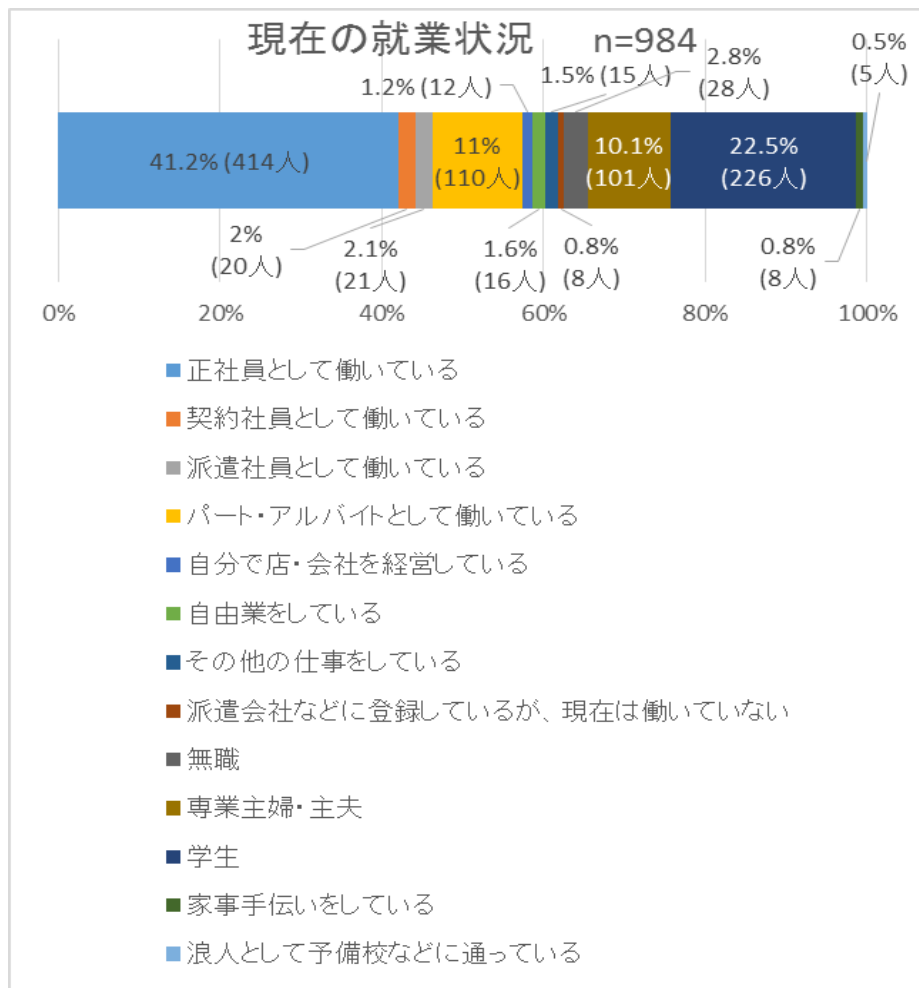
・【40～64 歳の方の集計結果】40～44 歳が 264 人、45～49 歳が 302 人、50～54 歳が 253 人、55～59 歳が 253 人、60～64 歳が 255 人であった。



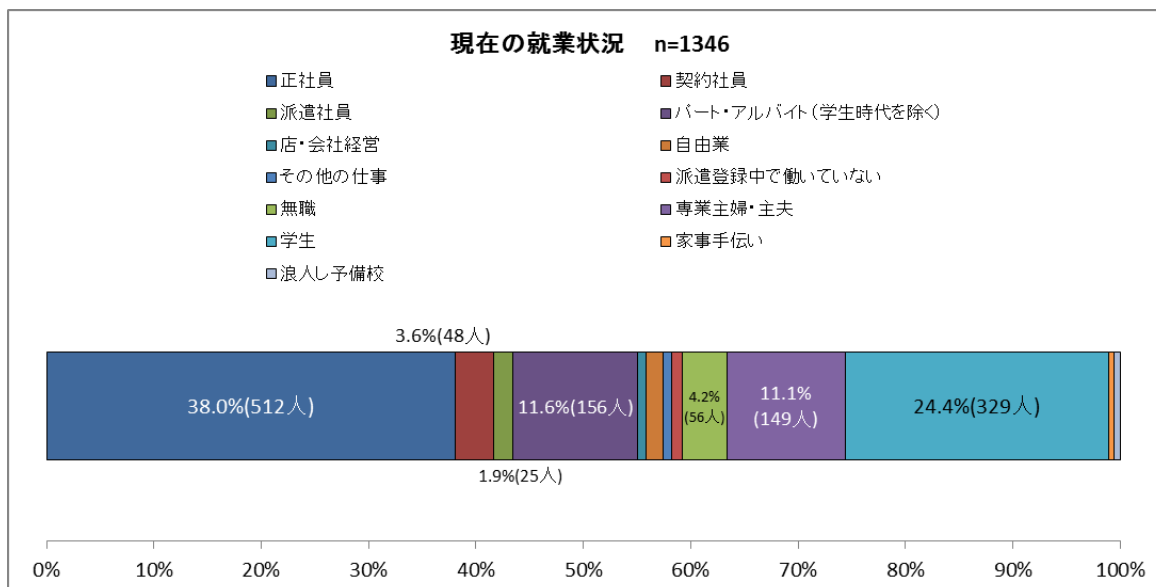
(3) Q8「あなたは現在働いていますか。(〇はひとつだけ)」について

【15～39歳の方の集計結果】

- 働いていると回答(※)した者は60.6%であった。
 ※「正社員」「契約社員」「派遣社員」「パート・アルバイト(学生時代を除く)」「店・会社経営」「自由業」「その他の仕事」の合計
- 就労の形態を見ると、「正社員として働いている」者は41.2%、「契約社員として働いている」「派遣社員として働いている」「パート・アルバイト(学生のアルバイトは除く)として働いている」者の合計は15.1%であった。

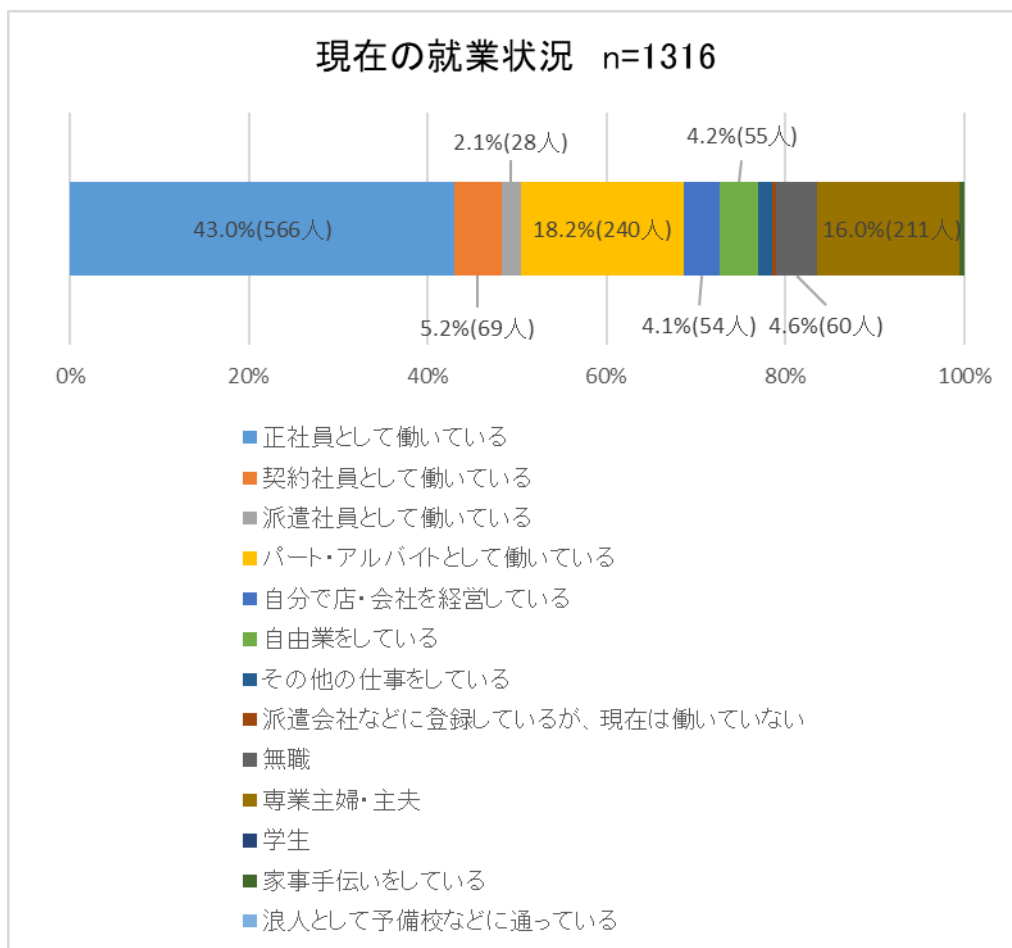


【参考】前回(平成24年度)調査



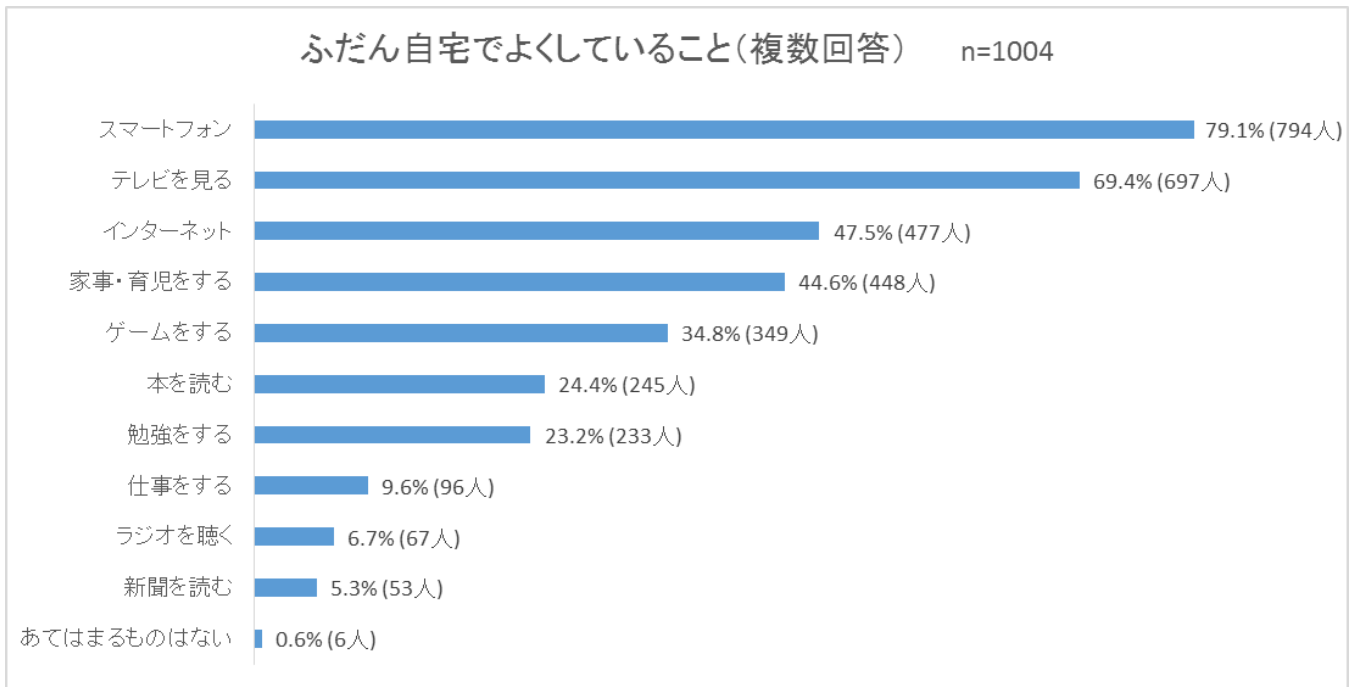
【40～64 歳の方の集計結果】

- 働いていると回答（※）した者は 78.4%であった。
 ※「正社員」「契約社員」「派遣社員」「パート・アルバイト（学生時代を除く）」「店・会社経営」「自由業」「その他の仕事」の合計
- 就労の形態を見ると、「正社員として働いている」者は 43.0%、「契約社員として働いている」「派遣社員として働いている」「パート・アルバイト（学生のアルバイトは除く）として働いている」者の合計は 25.5%であった。

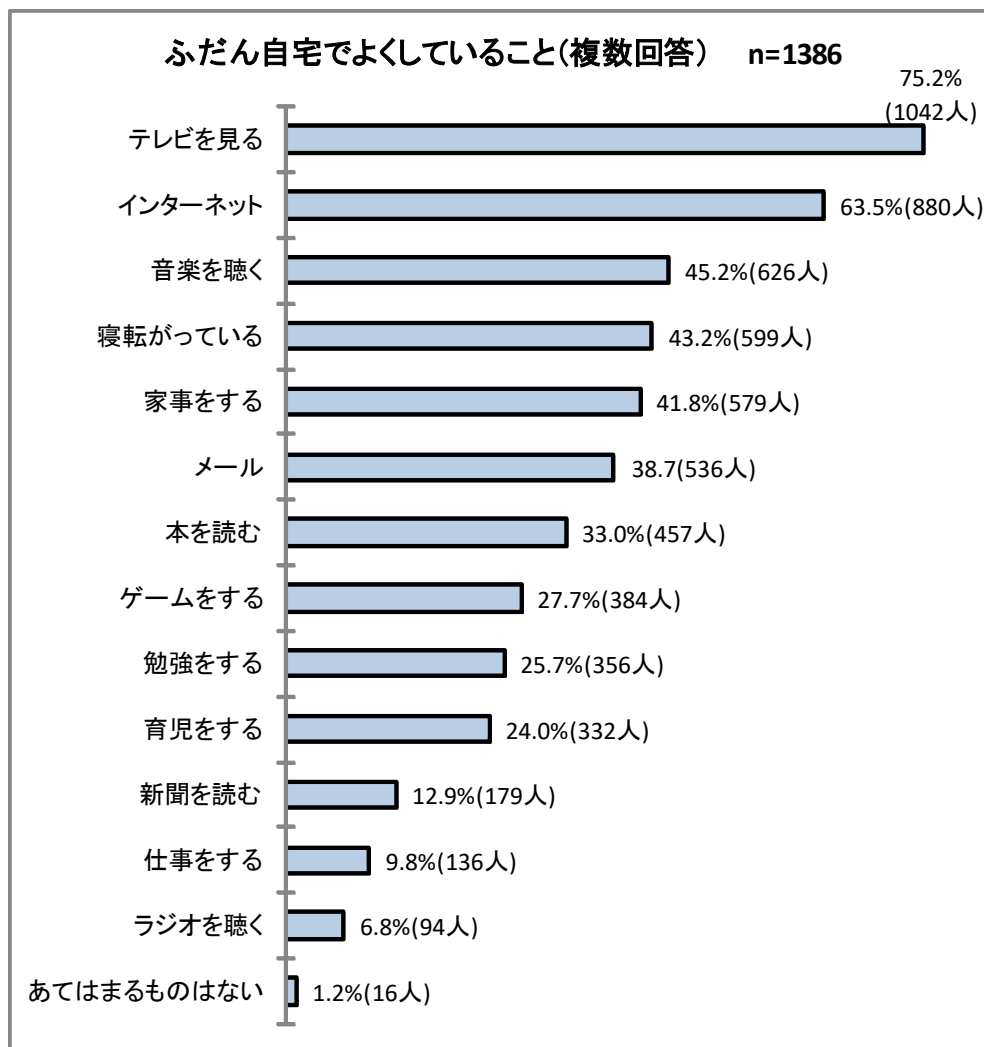


(4) Q13「あなたがふだんご自宅にいるときによくしていることすべてに○をつけてください。
(○はいくつでも)」について

・【15～39歳の方の集計結果】上位5位までの回答は、「スマートフォン(79.1%)」「テレビを見る(69.4%)」「インターネット(47.5%)」「家事・育児をする(44.6%)」「ゲームをする(34.8%)」であった。



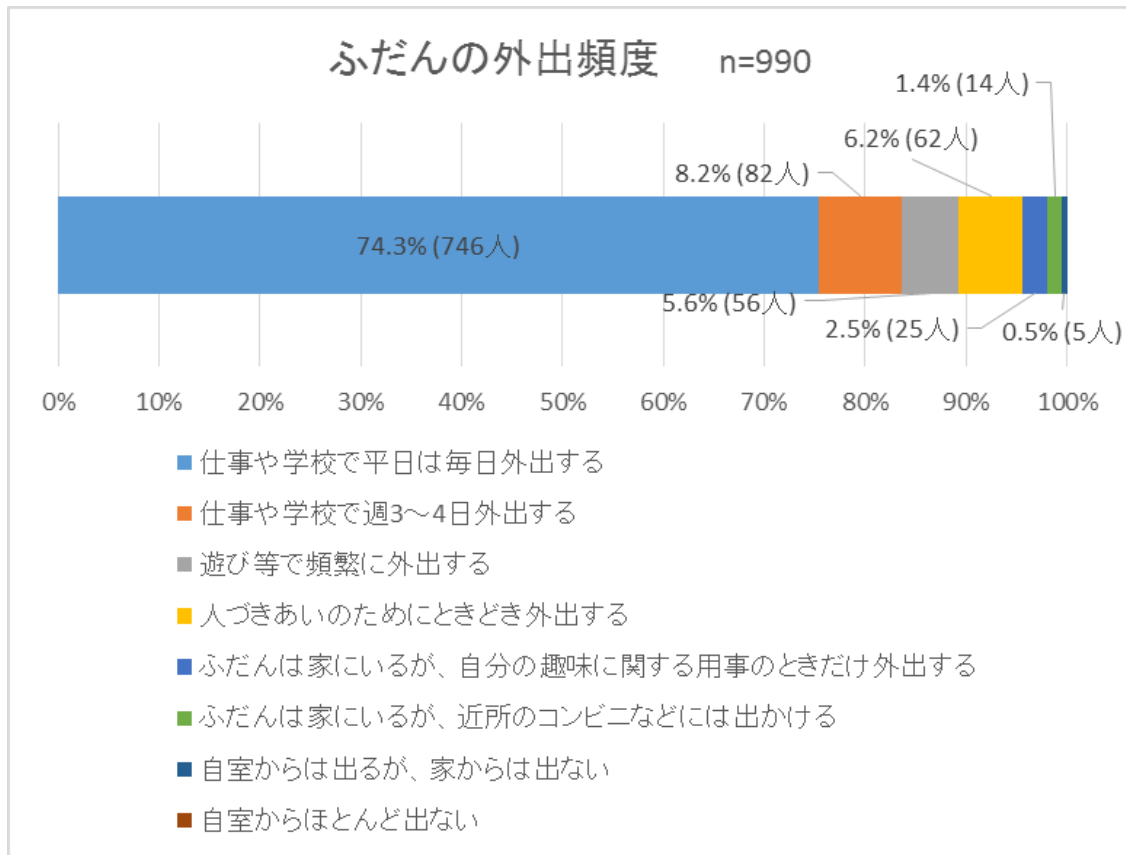
【参考】 前回(平成24年度)調査



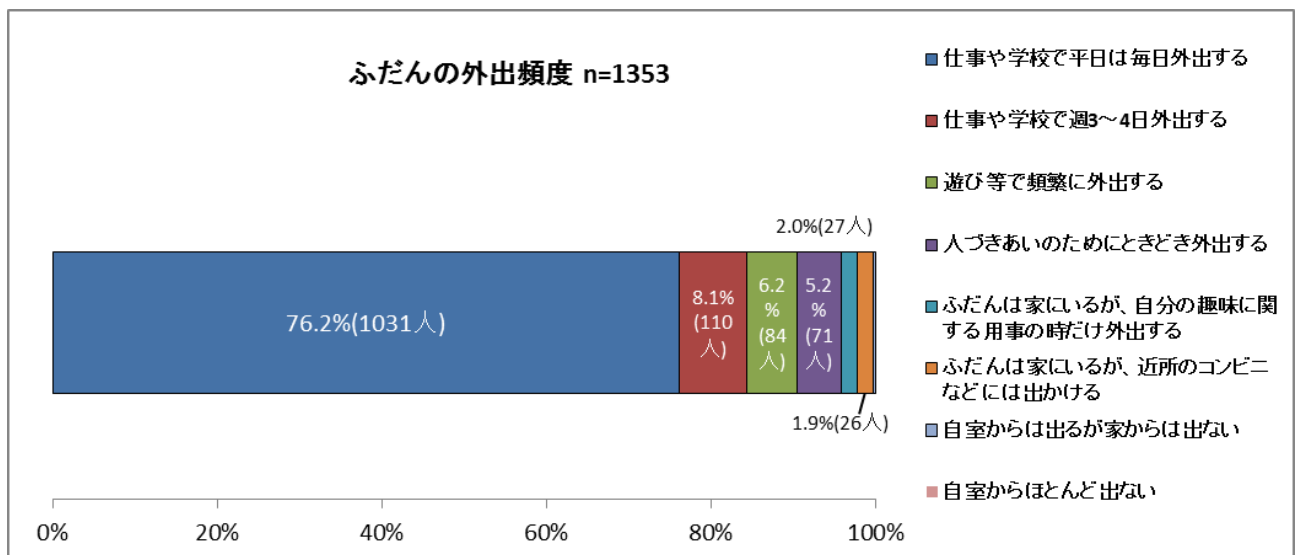
(5) Q14「あなたはふだんどのくらい外出しますか。(〇はひとつだけ)」について

【15～39歳の方の集計結果】

- ・「仕事や学校で平日は毎日外出する」と回答した者は74.3%、「仕事や学校で週3～4日外出する」と回答した者は8.2%であった。
- ・「自室からは出るが、家からは出ない」と回答した者は0.5%であった。「自室からほとんど出ない」と回答した者はいなかった。

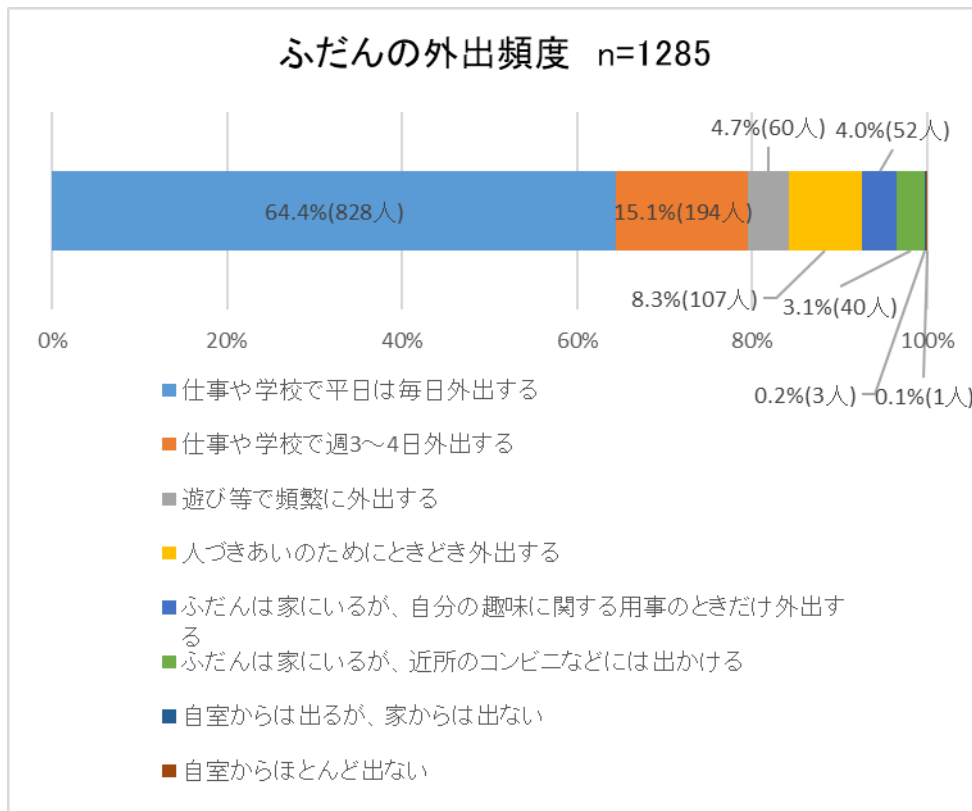


【参考】前回（平成24年度）調査



【40～64 歳の方の集計結果】

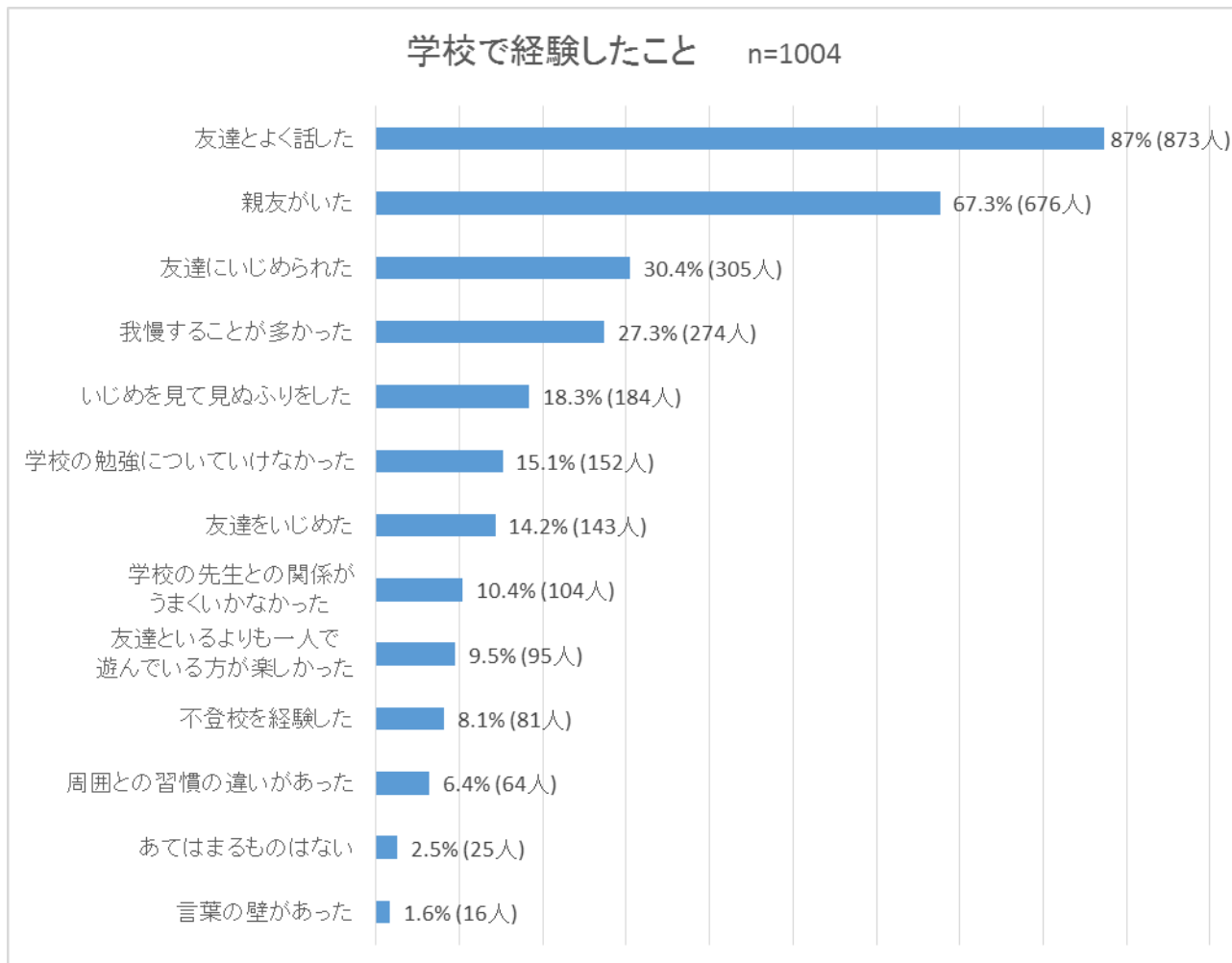
- ・「仕事や学校で平日は毎日外出する」と回答したものは 64.4%であった。「仕事や学校で週3～4日外出する」と答えたものは 15.1%であった。
- ・「自室からは出るが、家からは出ない」と回答したものは 0.2%、「自室からほとんど出ない」と回答したものは 0.1%であった。



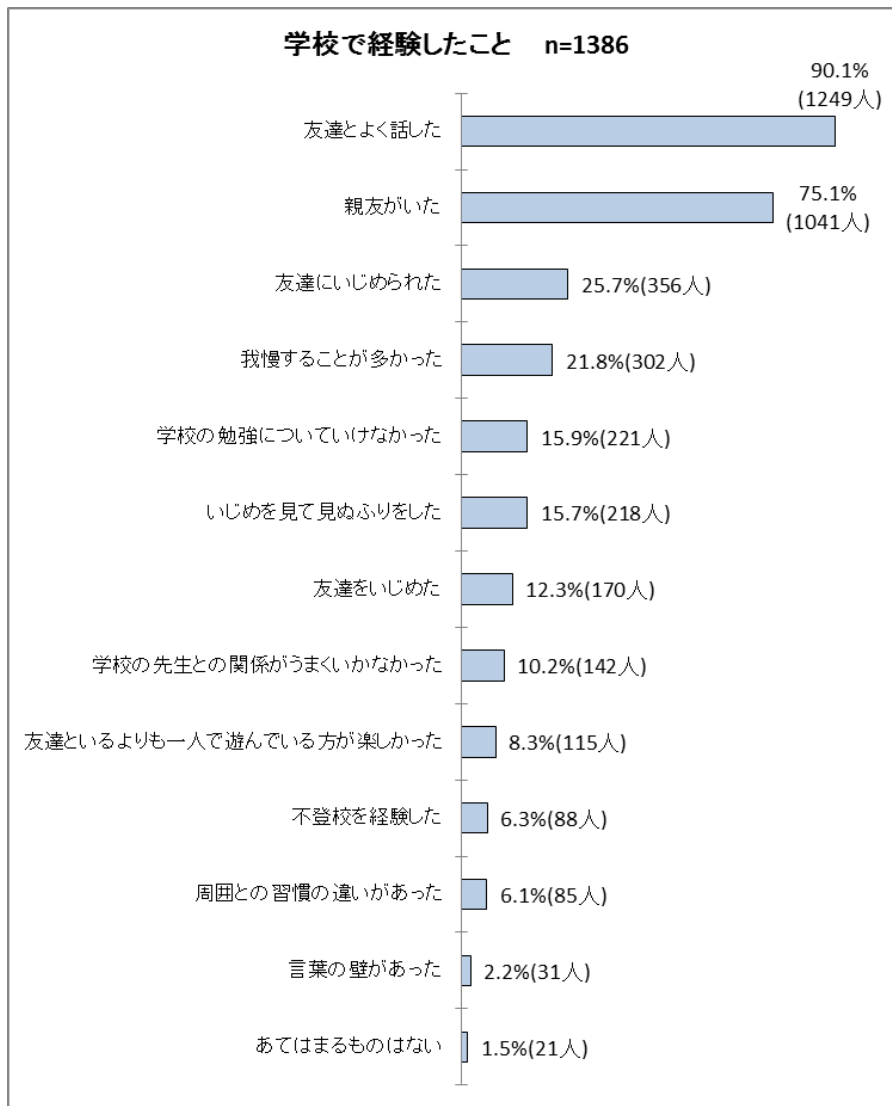
(6) Q31 「あなたは小学校や中学校の頃に、学校で次のような経験をしたことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)」について

【15～39歳の方の集計結果】

- ・「友達にいじめられた」者は 30.4%、「友達をいじめた」者は 14.2%であった。
- ・「学校の勉強についていけなかった」者は 15.1%であった。
- ・「不登校を経験した」者は 8.1%であった。



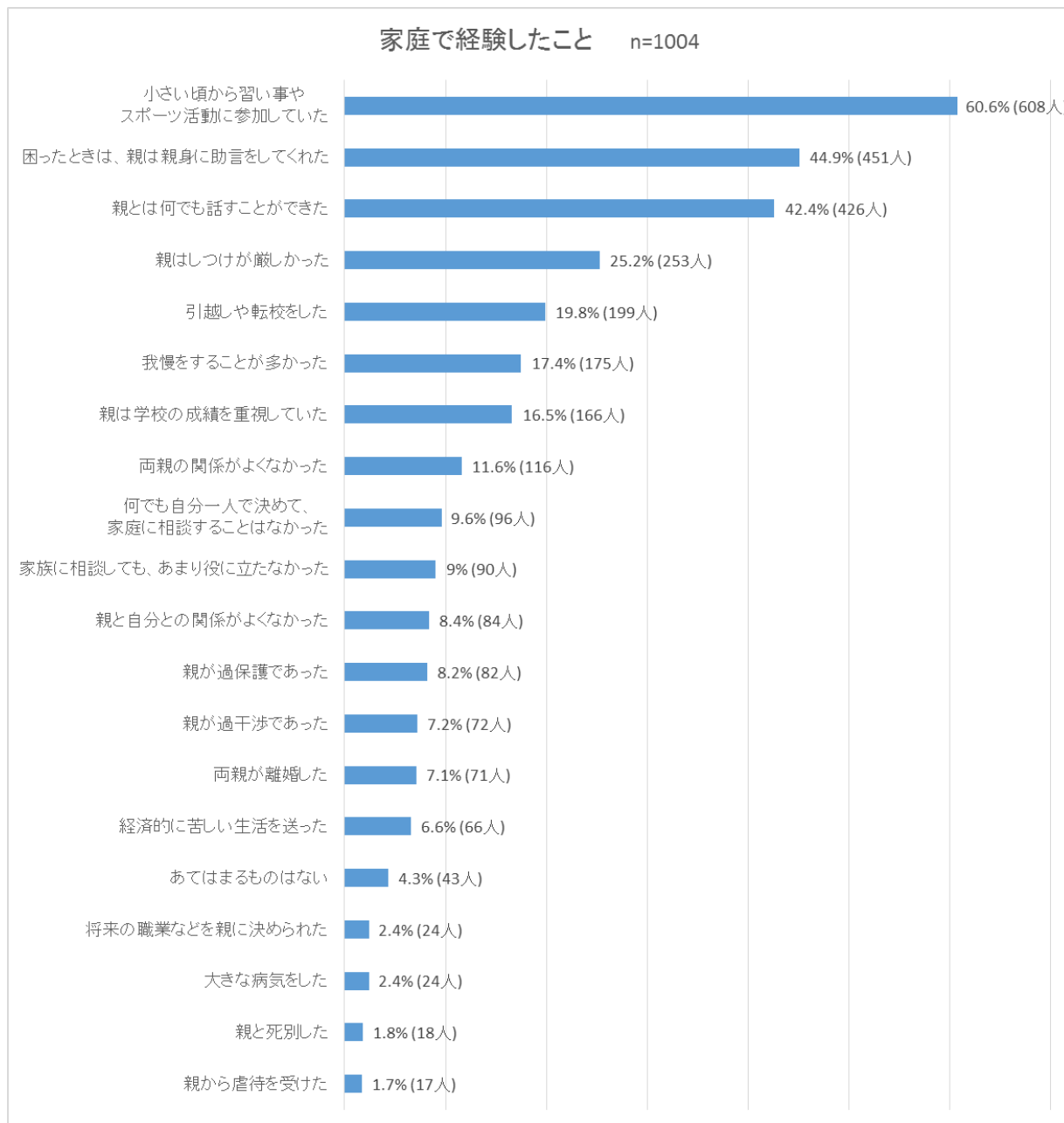
【参考】 前回（平成 24 年度） 調査



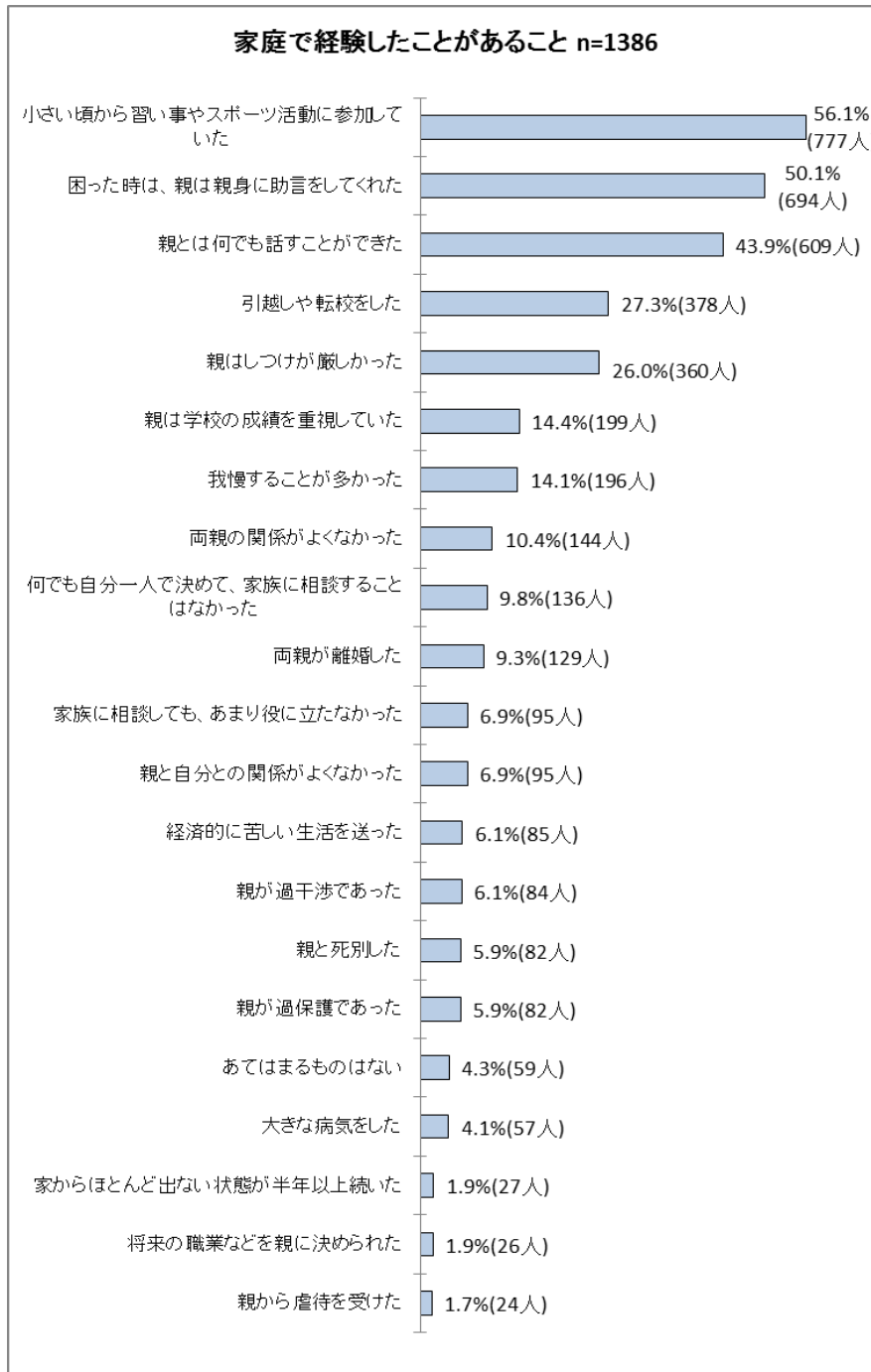
(7) Q32 「あなたは小学校や中学校の頃に、家庭で次のような経験をしたことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)」について

【15～39歳の方の集計結果】

- ・「小さい頃から習い事やスポーツ活動に参加していた」者は 60.6%であった。
- ・「我慢をすることが多かった」者は 17.4%であった。
- ・「経済的に苦しい生活を送った」者は 6.6%であった。
- ・「親から虐待を受けた」者は 1.7%であった。



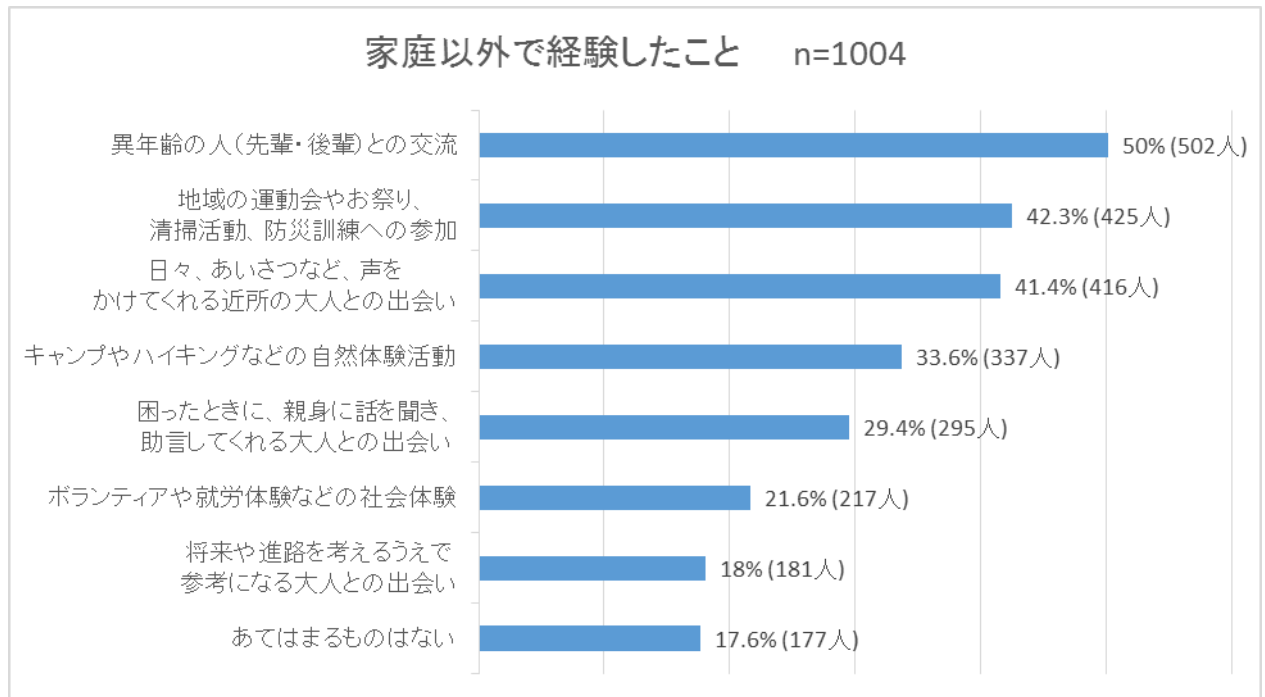
【参考】 前回（平成 24 年度） 調査



(8) Q33「あなたは小学校や中学校（部活動も含む）の頃に、家庭以外で次のような経験をしたことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）について

【15～39 歳の方の集計結果】

- ・上位3位までの回答は、「異年齢の人（先輩・後輩）との交流（50.0%）」「地域の運動会やお祭り、清掃活動、防災訓練への参加（42.3%）」「日々、あいさつなど、声をかけてくれる近所の大人との出会い（41.4%）」であった。

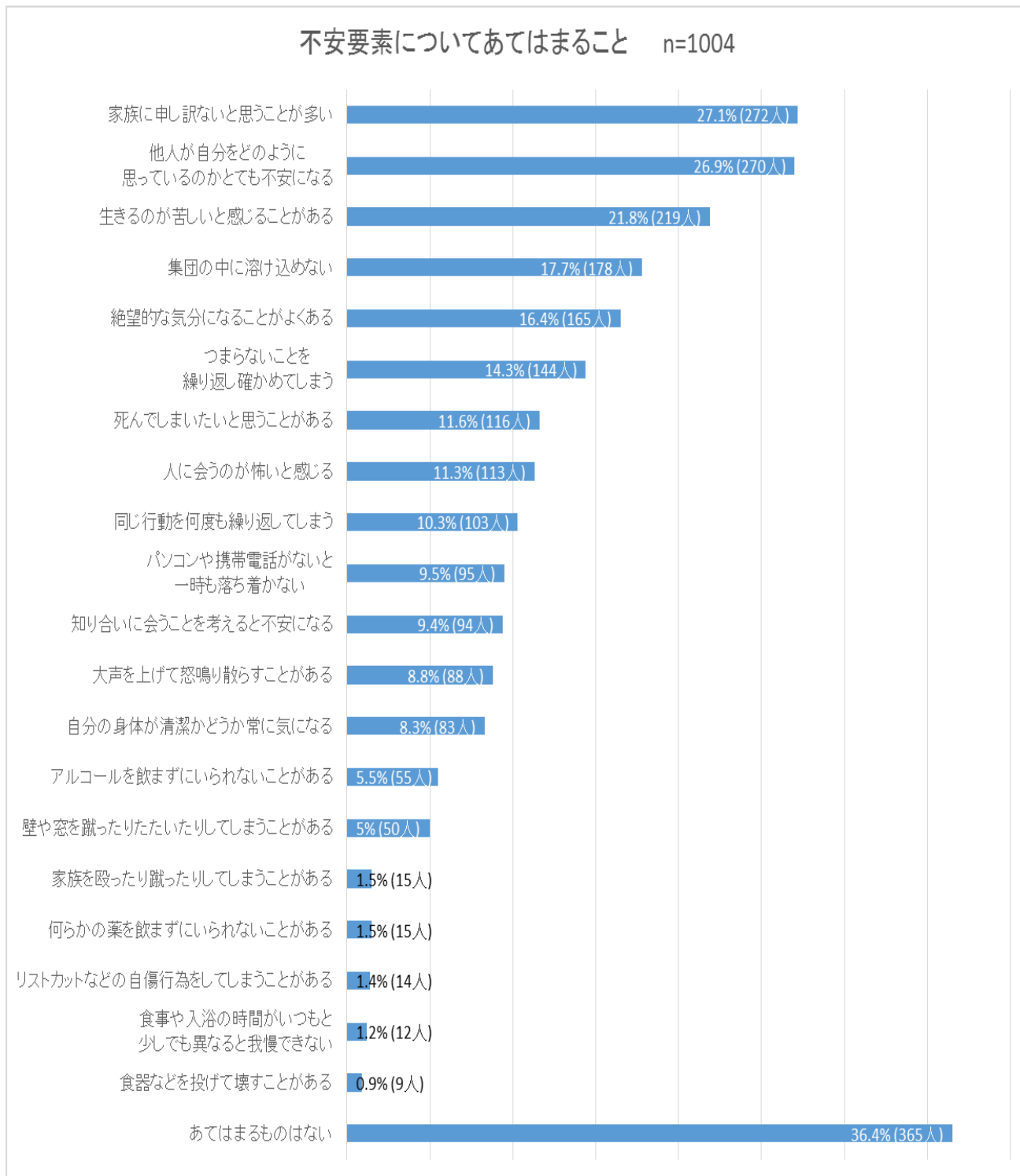


※今回新設項目

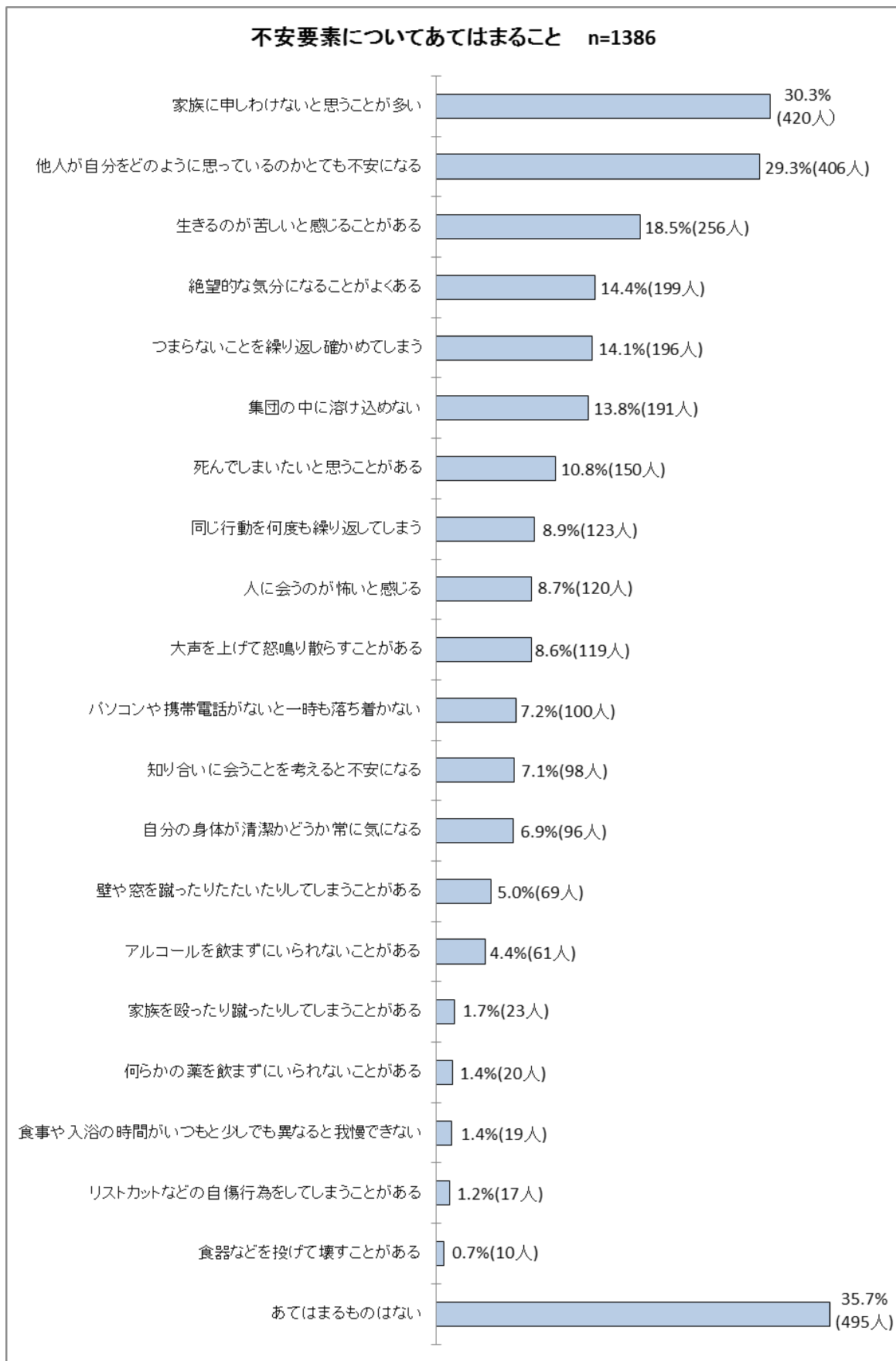
(9) Q35「次にあげられたことの中で、あなた自身にあてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)」について

【15～39歳の方の集計結果】

・「あてはまるものはない(36.4%)」を除いた上位5位までの回答は、「家族に申しわけないと思うことが多い(27.1%)」「他人が自分をどのように思っているのかとても不安になる(26.9%)」「生きるのが苦しいと感じることがある(21.8%)」「集団の中に溶け込めない(17.7%)」「絶望的な気分になることがよくある(16.4%)」となった。

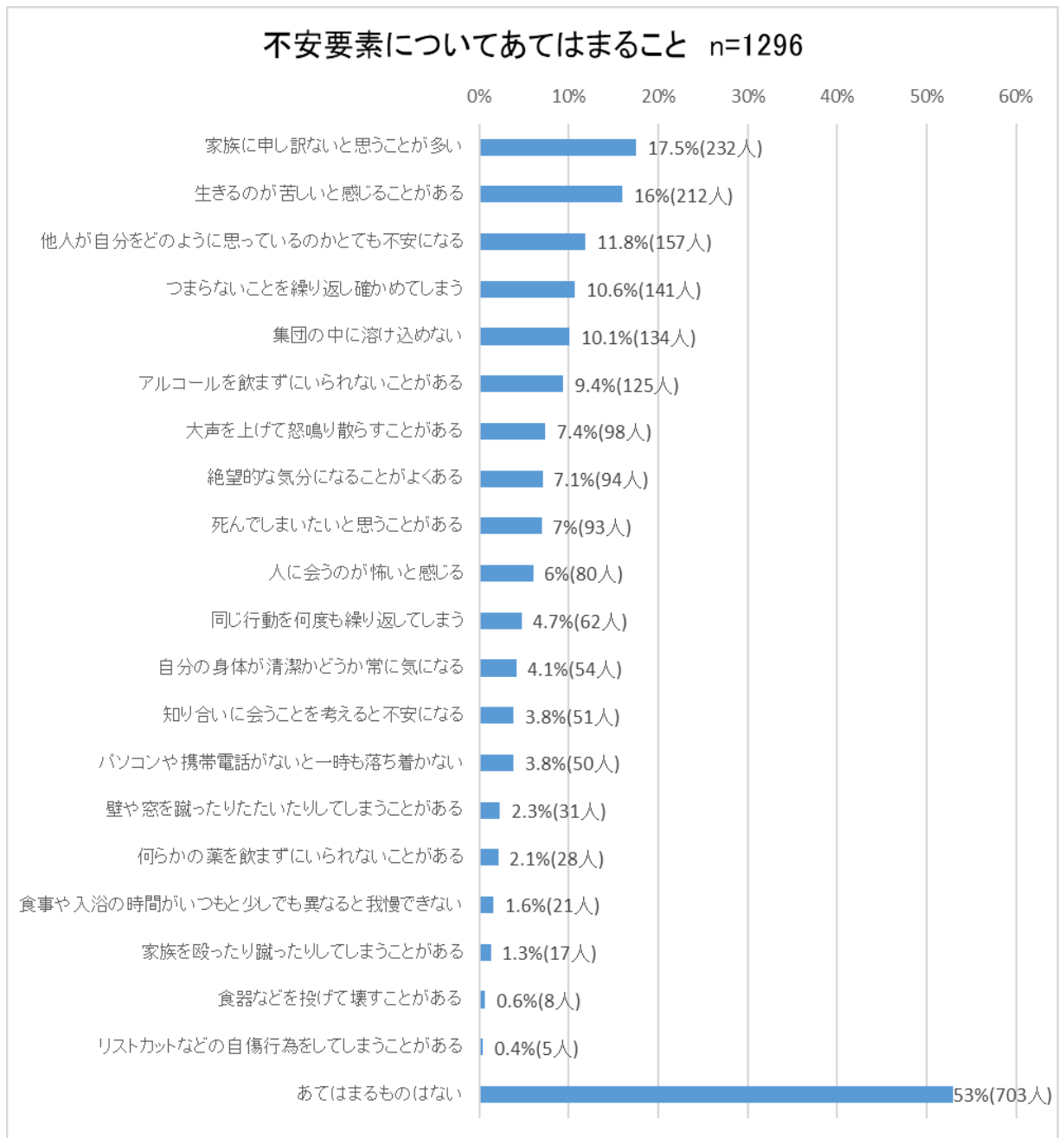


【参考】 前回（平成 24 年度）調査



【40～64 歳の方の集計結果】

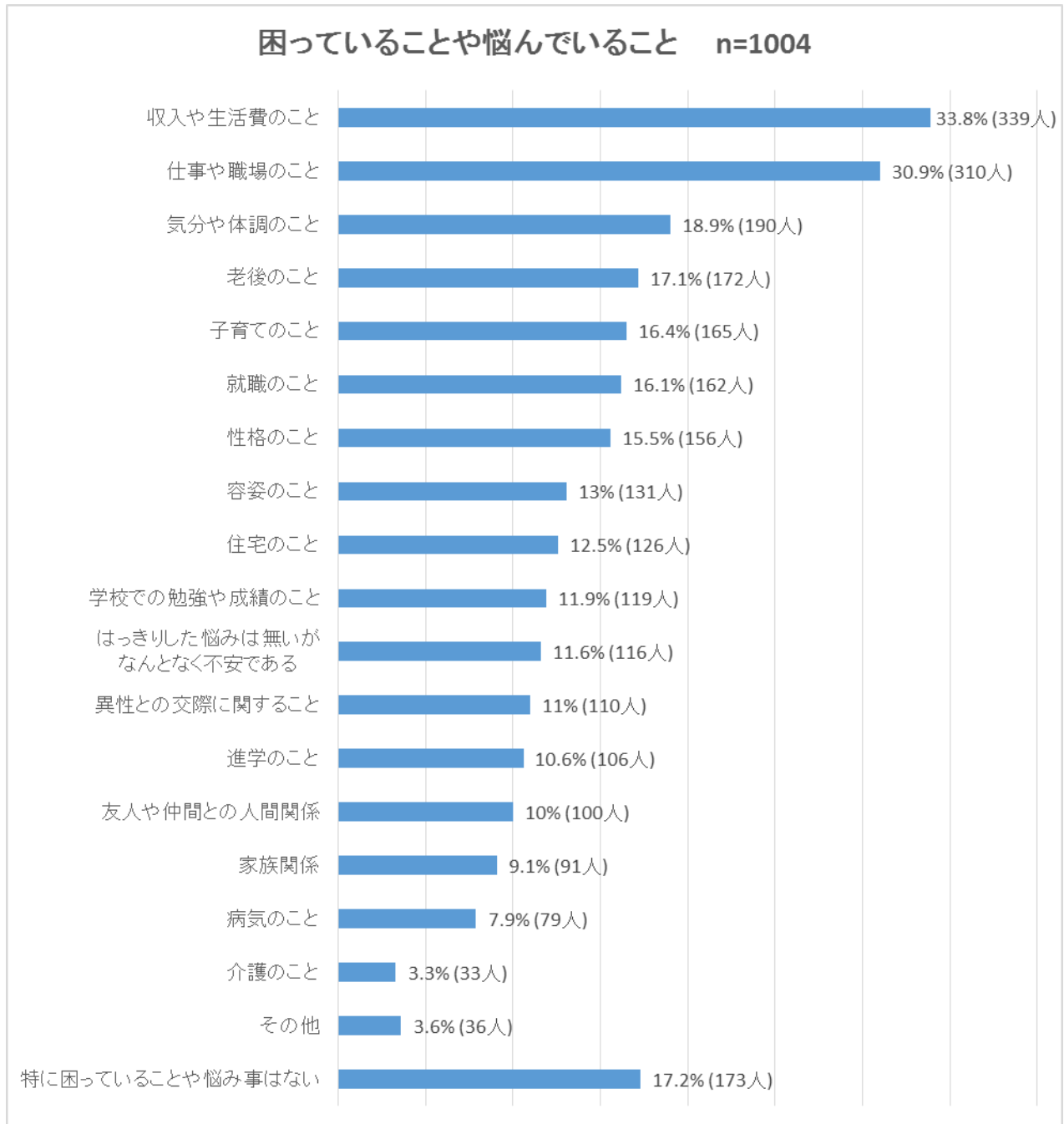
- ・「あてはまるものはない」(53.0%)を除いた上位3位までの回答は、「家族に申し訳ないと思うことが多い」(17.5%)、「生きるのが苦しいと感じることがある」(16.0%)、「他人が自分をどのように思っているのかとても不安になる」(11.8%)となった。



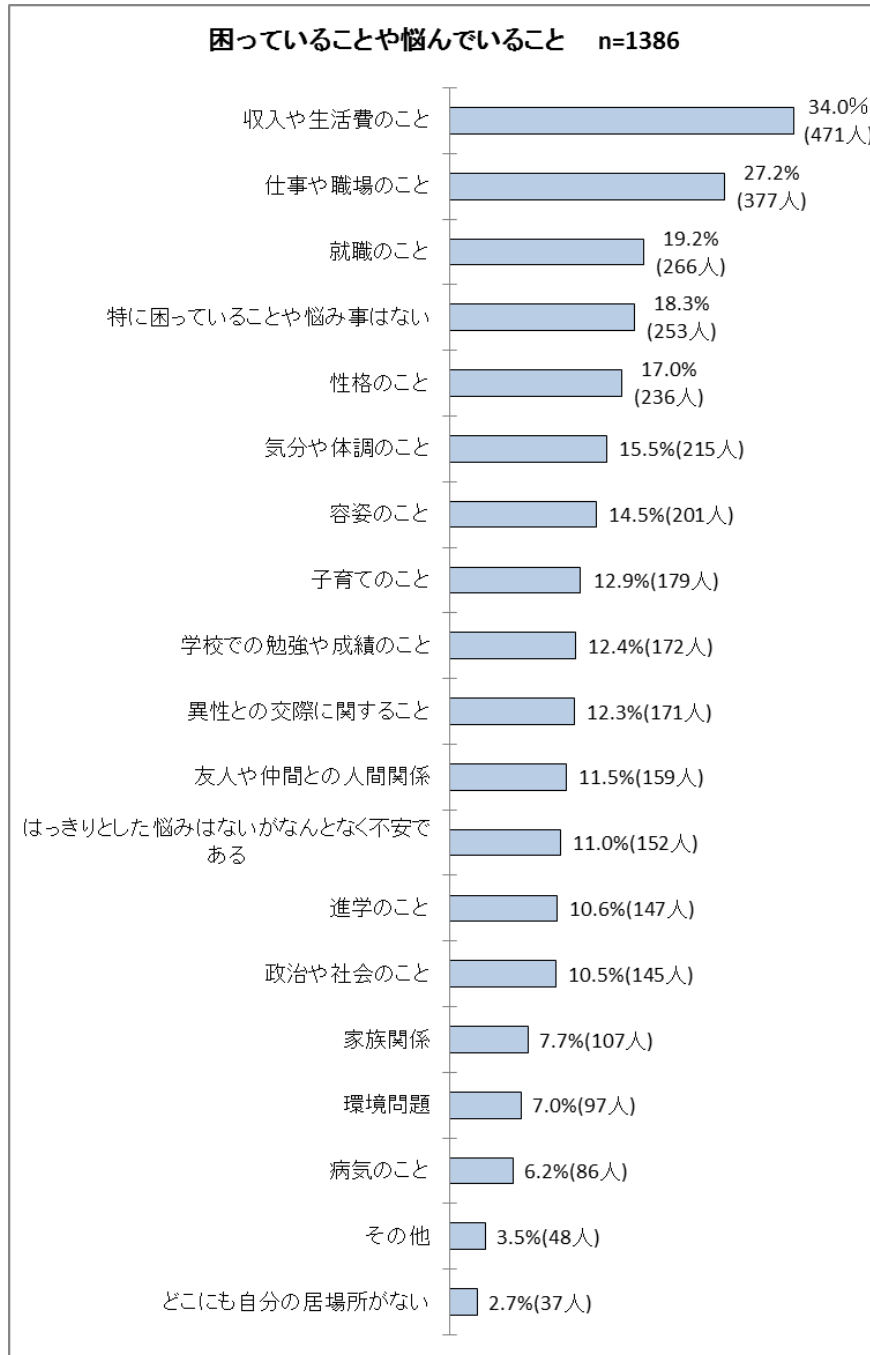
(10) Q38「あなたは現在困っていることや悩んでいることがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)」について

【15～39歳の方の集計結果】

・「特に困っていることや悩み事はない(17.2%)」を除いた上位5位までの回答は、「収入や生活費のこと(33.8%)」「仕事や職場のこと(30.9%)」「気分や体調のこと(18.9%)」「老後のこと(17.1%)」「子育てのこと(16.4%)」となった。

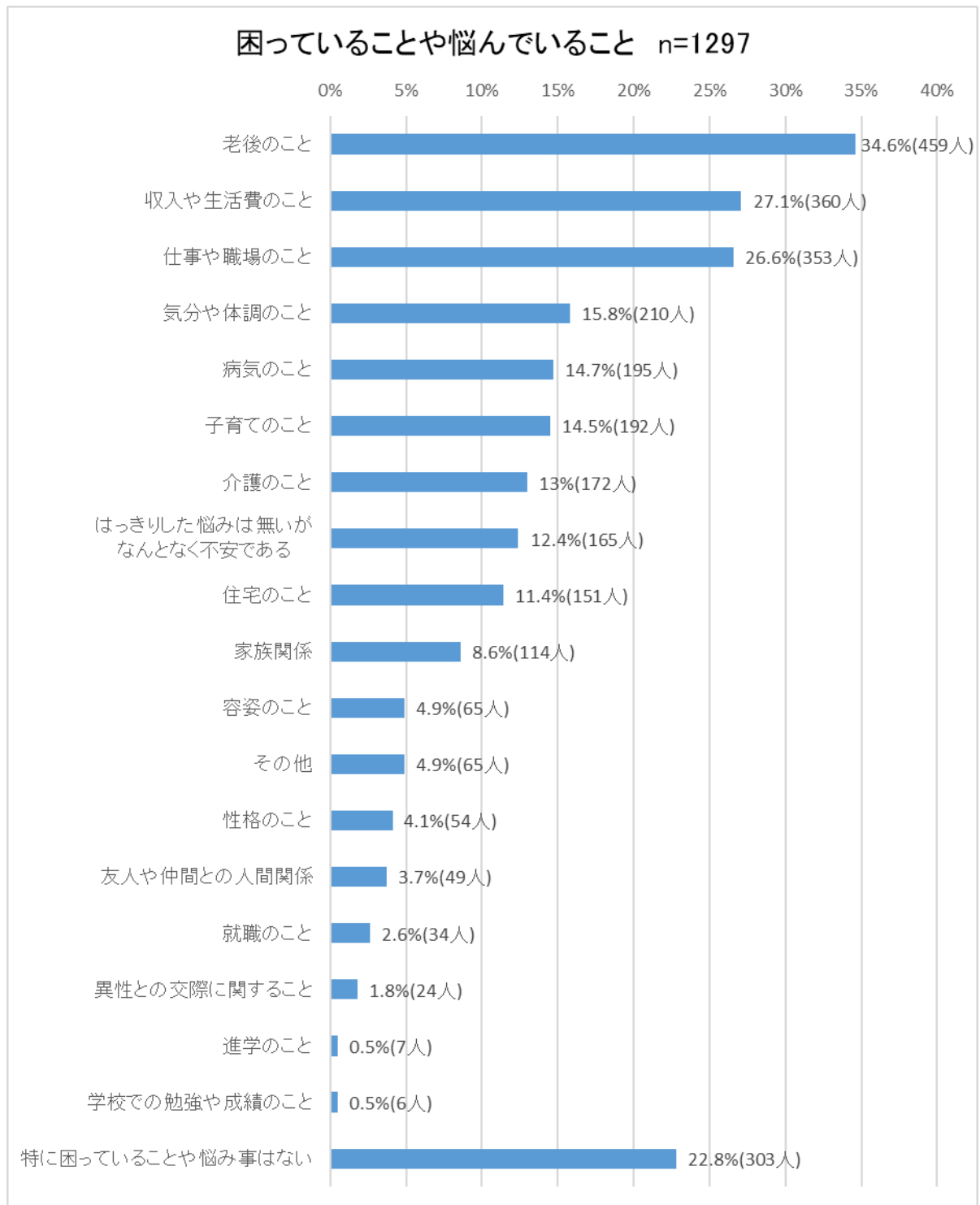


【参考】 前回（平成 24 年度）調査



【40～64 歳の方の集計結果】

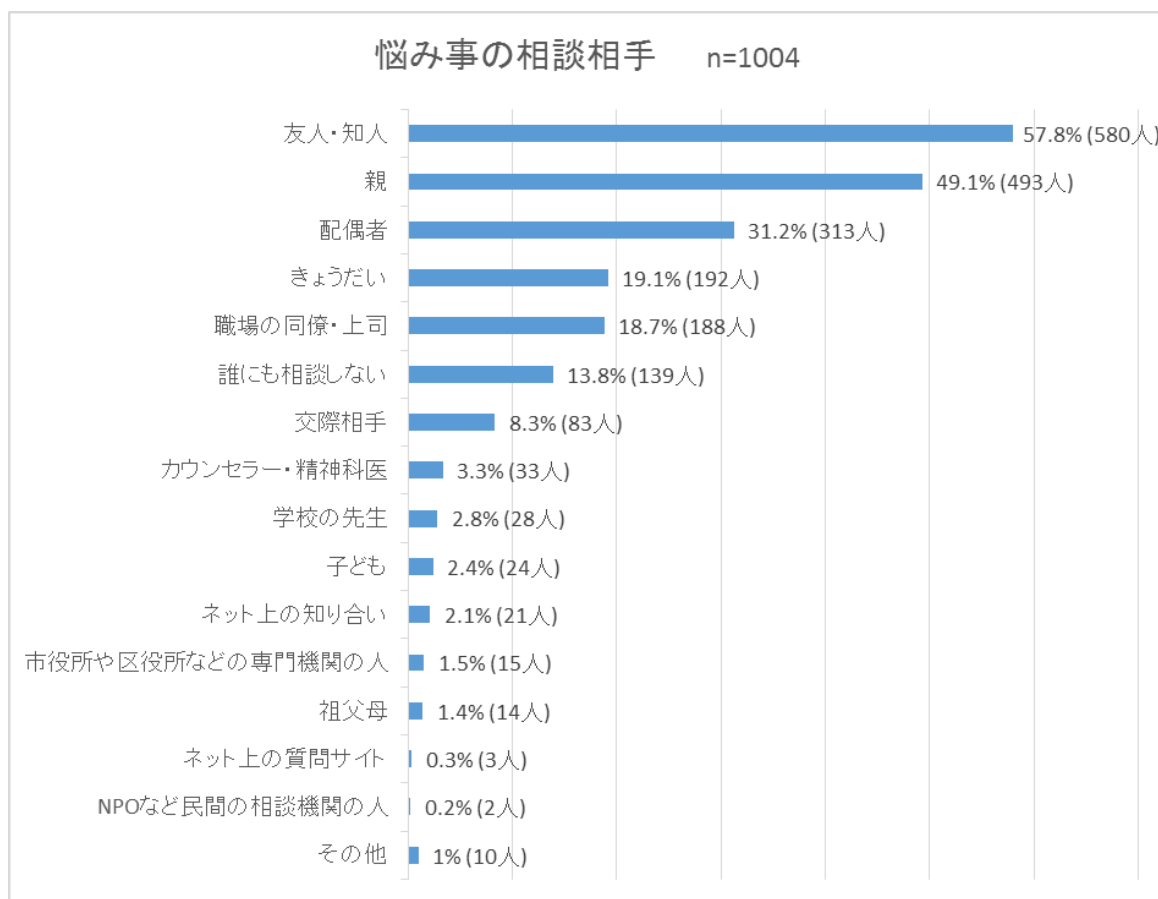
- ・「老後のこと」を選択した者は 34.6%、「収入や生活費のこと」を選択した者は 27.1%、「仕事や職場のこと」を選択したものは 26.6%であった。
- ・「特に困っていることや悩み事はない」を選択した者は 22.8%であった。



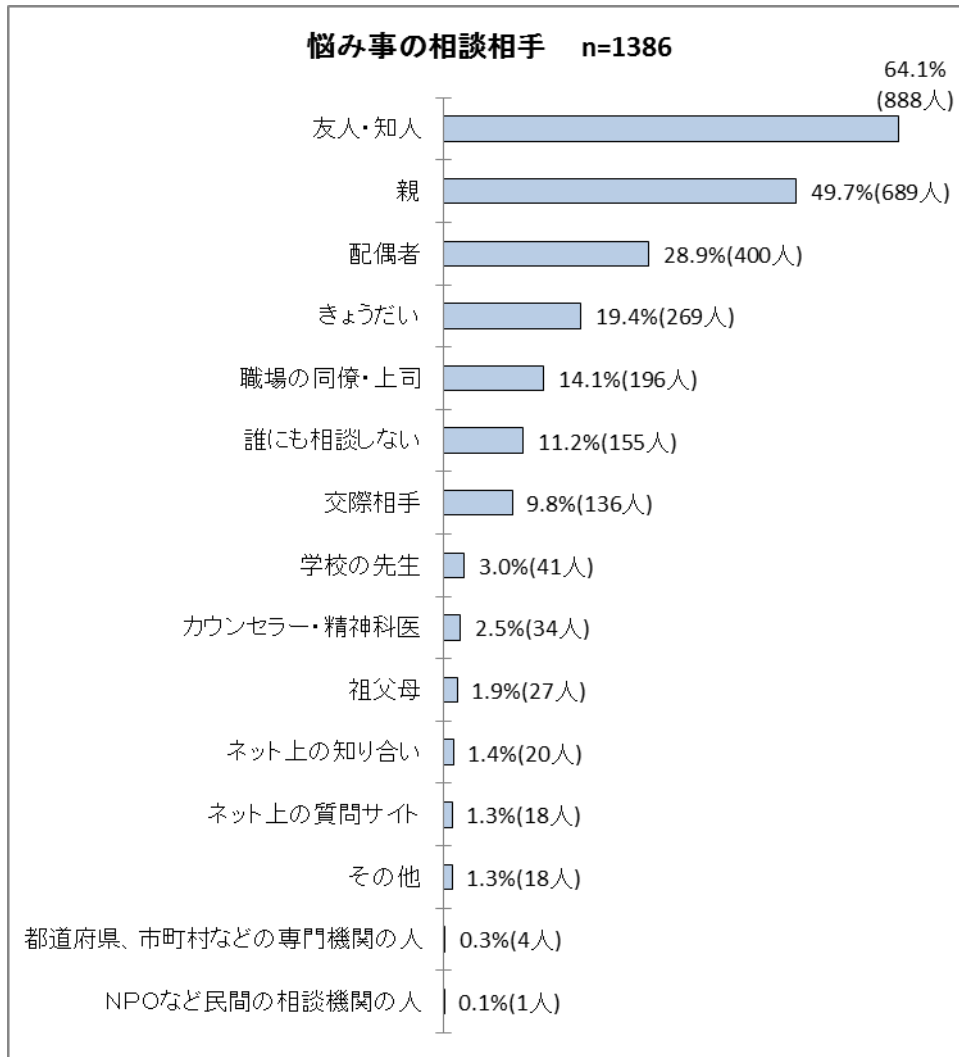
(11) Q40「あなたはふだん悩み事を誰に相談しますか。(〇はいくつでも)」について

【15～39歳の方の集計結果】

- ・上位5位までの回答は、「友人・知人 (57.8%)」「親 (49.1%)」「配偶者 (31.2%)」「きょうだい (19.1%)」「職場の同僚・上司 (18.7%)」となった。
- ・機関に相談する者は、「市役所や区役所などの専門機関の人 (1.5%)」「NPOなど民間の相談機関の人 (0.2%)」であった。
- ・「誰にも相談しない」と回答した者は13.8%であった。

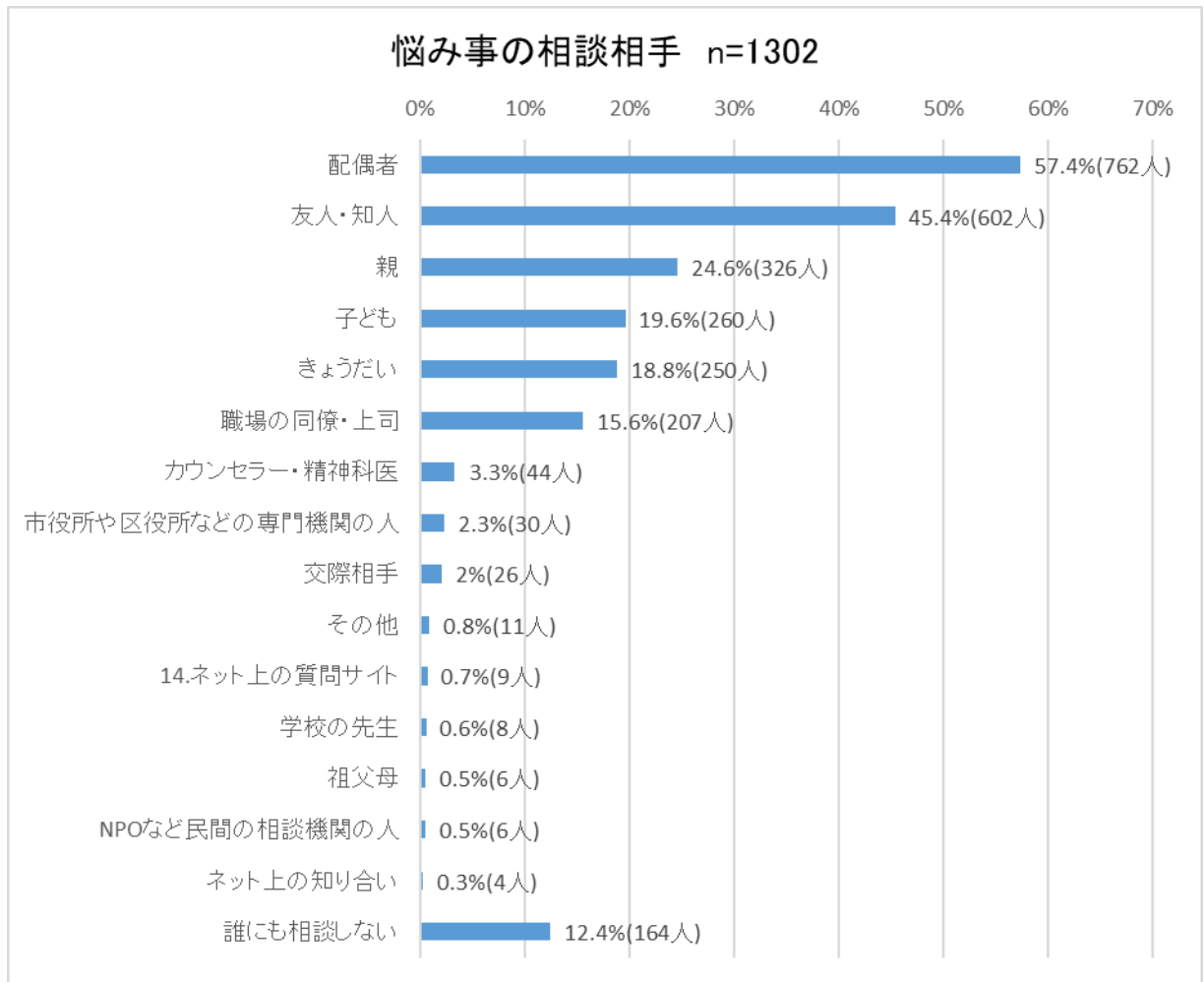


【参考】 前回（平成 24 年度） 調査



【40～64 歳の方の集計結果】

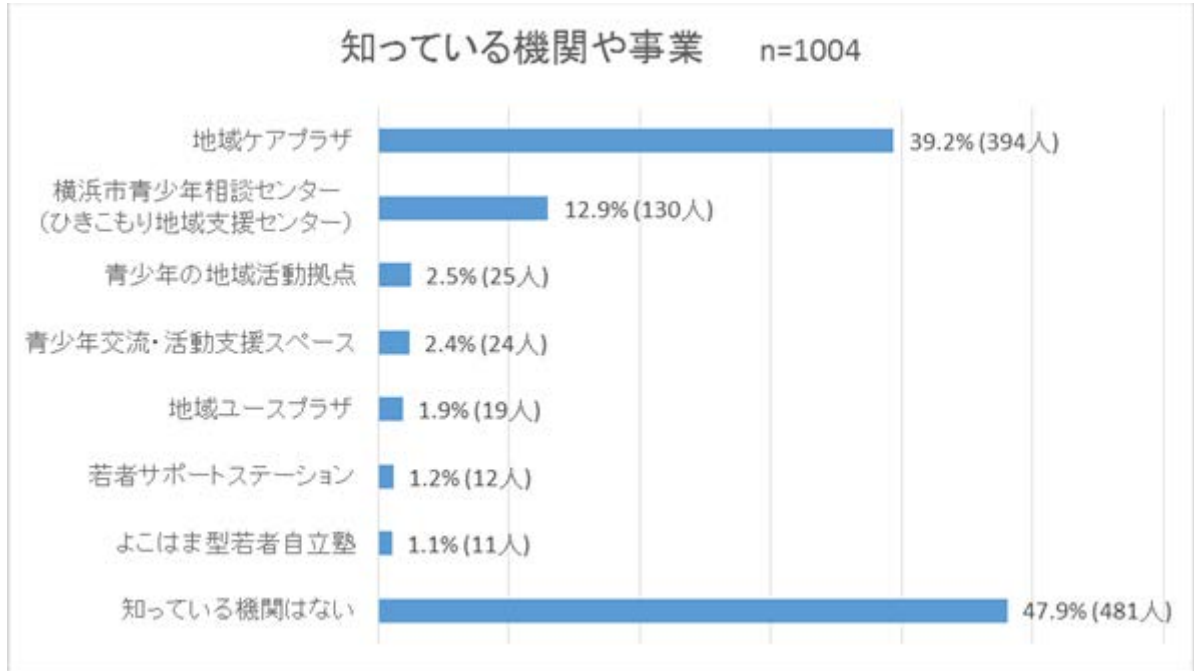
- ・「配偶者」を選択した者は 57.4%であった。
- ・「友人・知人」を選択した者は 45.4%であった。



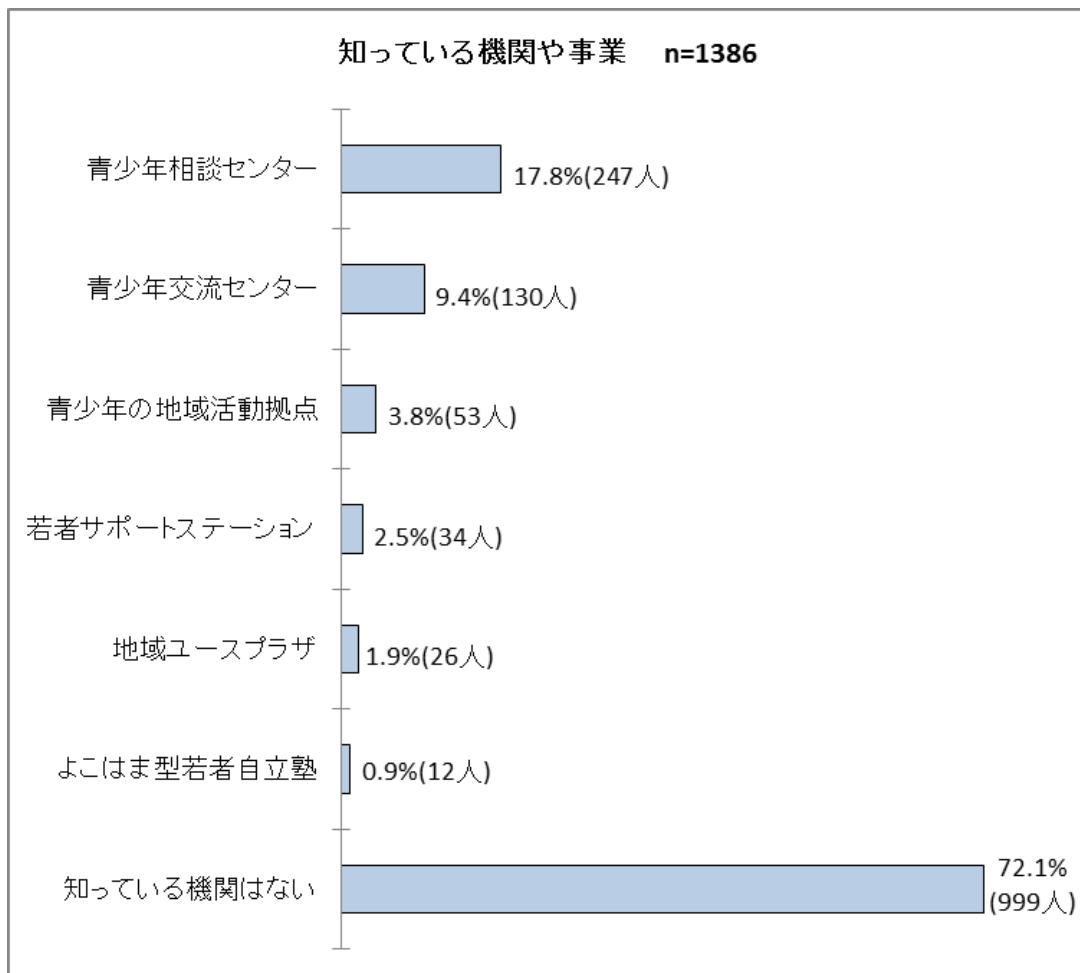
(12) Q41「あなたは以下の機関や事業を知っていますか。知っている項目に○をつけてください。(○はいくつでも)」について

【15～39歳の方の集計結果】

- ・「地域ケアプラザ (39.2%)」「青少年相談センター (12.9%)」のほかは、3%未満の認知率であった。
- ・「知っている機関は無い」者は47.9%であった。

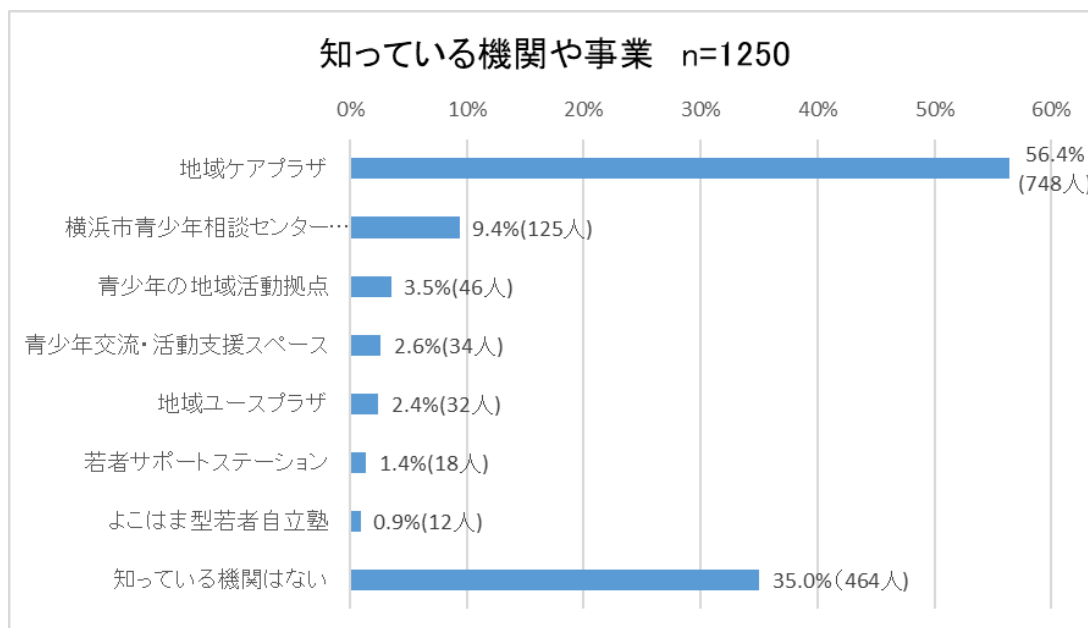


【参考】前回（平成24年度）調査



【40～64 歳の方の集計結果】

・「地域ケアプラザ」を選択した者は 56.4%であった。



4. ひきこもり群等に関する傾向の分析

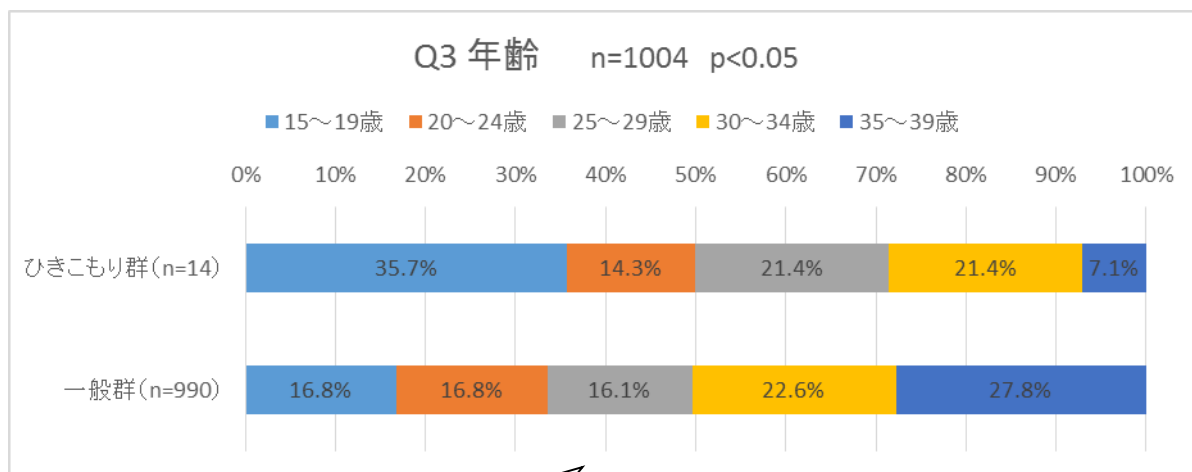
比較検討を行った対象群

- (1) ひきこもり群（15～39歳：14人、40～64歳：12人）とひきこもり群以外の一般群（15～39歳：990人、40～64歳：1315人）
- (2) 15～39歳と40～64歳の年齢層間の比較

(1) ひきこもり群と一般群の比較検討

① 基本情報

[1] 15～39歳のひきこもり群については、特に、15～19歳の若い年齢層が多い。

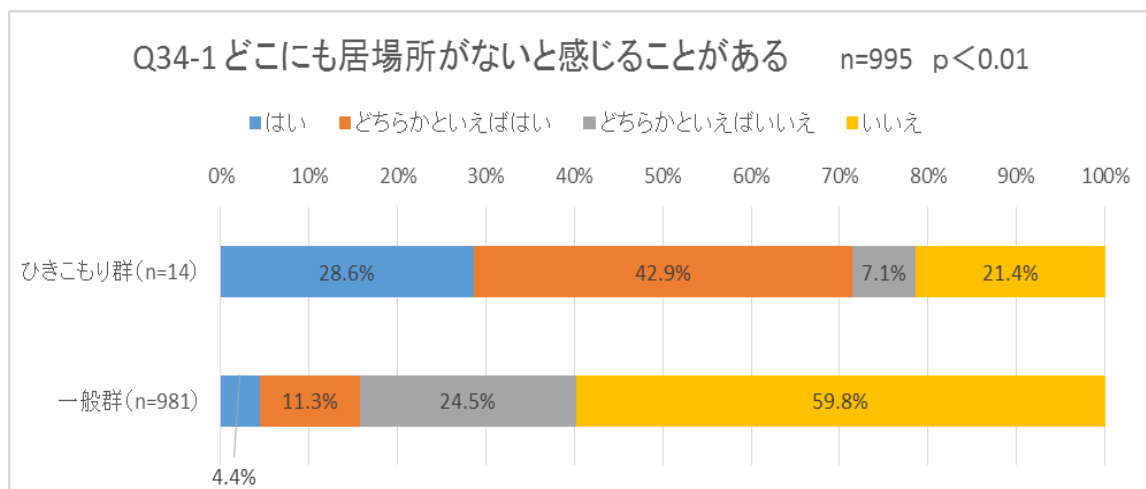


回答者の年齢は、ひきこもり群では「15～19歳」が35.7%、「35～39歳」が7.1%であった。それに対し、一般群は「15～19歳」が16.8%、「35～39歳」が27.8%であった。ひきこもり群は特に、15～19歳の若い年齢層が多い傾向があった。(p<0.05)

ひきこもり * Q3: 年齢		15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	合計
ひきこもり群 (n=14)	人数	5人	2人	3人	3人	1人	14人
	割合	35.7%	14.3%	21.4%	21.4%	7.1%	100.0%
一般群 (n=990)	人数	166人	166人	159人	224人	275人	990人
	割合	16.8%	16.8%	16.1%	22.6%	27.8%	100.0%
合計	人数	171人	168人	162人	227人	276人	1,004人
	割合	17.0%	16.7%	16.1%	22.6%	27.5%	100.0%

② 考え方の傾向

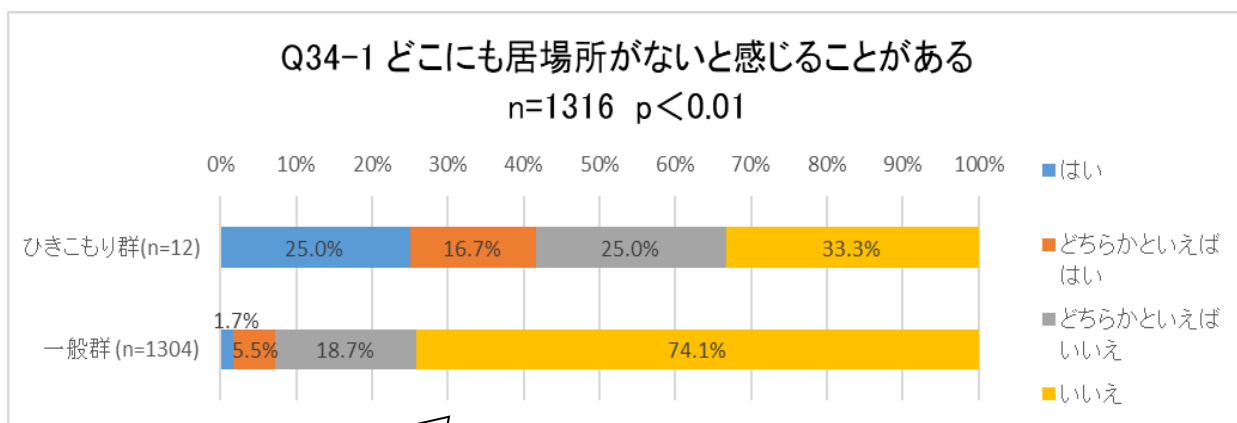
- [1] 15～39歳のひきこもり群については、どこにも居場所がないと感じることがある者の割合が高い。



「どこにも居場所がないと感じることがある」という質問に対して、「はい」または「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群は71.5%、一般群は15.7%であった。ひきこもり状態にある若者は、一般群と比べて、どこにも居場所がないと感じる割合が高い傾向があった。(p<0.01)

ひきこもり * Q34-1.どこにも居場所がないと感じることがある						
		はい	どちらかとい えばはい	どちらかとい えばいいえ	いいえ	合計
ひきこもり群 (n=14)	人数	4人	6人	1人	3人	14人
	割合	28.6%	42.9%	7.1%	21.4%	100.0%
一般群 (n=981)	人数	43人	111人	240人	587人	981人
	割合	4.4%	11.3%	24.5%	59.8%	100.0%
合計	人数	47人	117人	241人	590人	995人
	割合	4.7%	11.8%	24.2%	59.3%	100.0%

[2] 40～64歳のひきこもり群についても、どこにも居場所がないと感じることがある者の割合が高い。

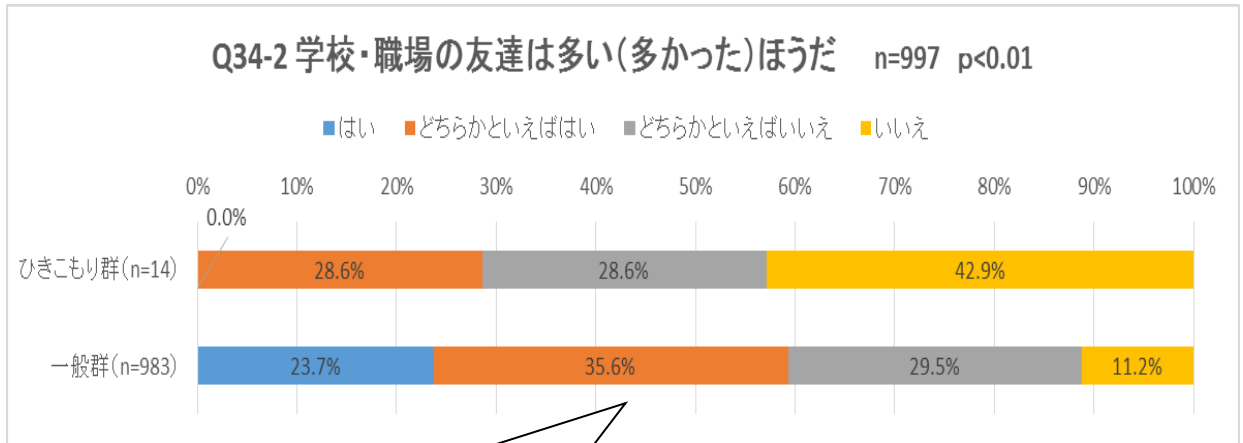


居場所がないと感じるかという質問に「はい」又は「どちらかといえばはい」と答える割合が、ひきこもり群では41.7%であるのに対し、一般群では7.2%と、ひきこもり群は一般群に比べ、居場所がないと感じる割合が高い傾向にありました。(p<0.01)

ひきこもり群vs一般群×Q34：自分自身にどれ位あてはまるか-1.どこにも居場所がないと感じることがある

	はい	どちらかとい えはい	どちらかとい えいいえ	いいえ	合計
ひきこもり 人数	3人	2人	3人	4人	12
群(n=12) 割合	25.0%	16.7%	25.0%	33.3%	100.0%
一般群 人数	22人	72人	244人	966人	1304
(n=1304) 割合	1.7%	5.5%	18.7%	74.1%	100.0%
合計 人数	25	74	247	970	1316
割合	1.9%	5.6%	18.8%	73.7%	100.0%

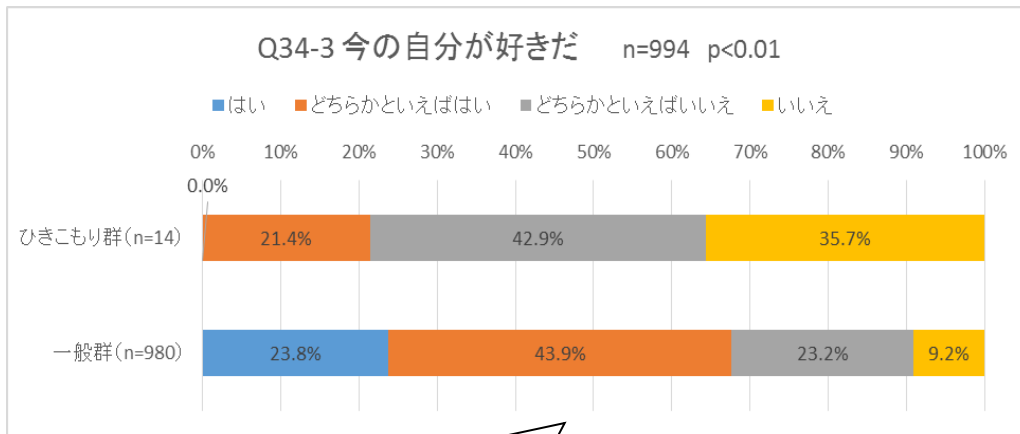
[3] 15～39歳のひきこもり群については、学校・職場の友達が多い（多かった）と感じている者の割合が低い。



「学校・職場の友達が多い（多かった）ほうだ」という質問に対して、ひきこもり群は、「はい」と答えたものはいなかった。「どちらかといえばはい」と答えた者は28.6%であった。一般群は、「はい」または「どちらかといえばはい」と答えた人は、59.3%であった。ひきこもり状態にある若者は、一般群と比べて、学校・職場の友達が多い（多かった）ほうだと感じている者の割合が低い傾向があった。(p<0.01)

ひきこもり * Q34-2.学校・職場の友達が多い(多かった)ほうだ		はい	どちらかとい えればはい	どちらかとい えればいい	いいえ	合計
ひきこもり群(n=14)	人数	0	4	4	6	14
	割合	0.0%	28.6%	28.6%	42.9%	100.0%
一般群(n=983)	人数	233	350	290	110	983
	割合	23.7%	35.6%	29.5%	11.2%	100.0%
合計	人数	233	354	294	116	997
	割合	23.4%	35.5%	29.5%	11.6%	100.0%

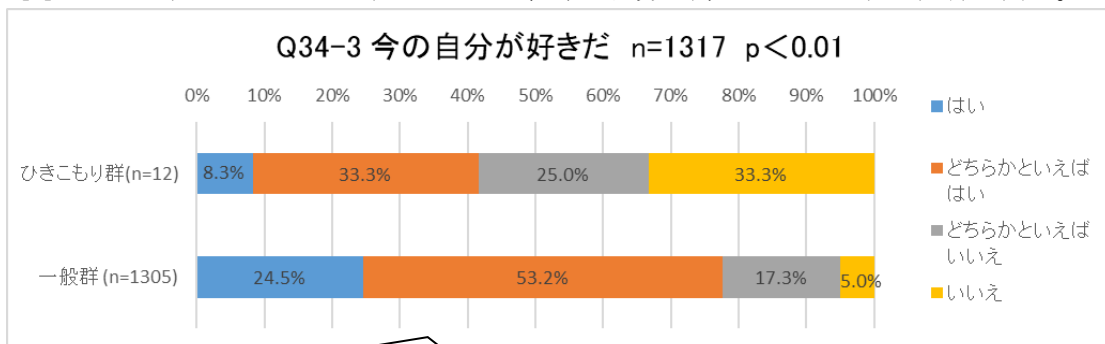
[4] 15～39歳のひきこもり群については、今の自分が好きではない者の割合が高い。



「今の自分が好きだ」という質問に対して、ひきこもり群は、「はい」と答えたものはいなかった。「どちらかといえばはい」と答えた者は21.4%であった。一般群は、「はい」または「どちらかといえばはい」と答えた人は、67.7%であった。
ひきこもり状態にある若者は、一般群と比べて、今の自分が好きと感じる割合が低い傾向があった。(p<0.01)

ひきこもり * Q34-3.今の自分が好きだ		はい	どちらかとい えばはい	どちらかとい えばいいえ	いいえ	合計
ひきこもり群(n=14)	人数	0人	3人	6人	5人	14人
	割合	0.0%	21.4%	42.9%	35.7%	100.0%
一般群(n=980)	人数	233人	430人	227人	90人	980人
	割合	23.8%	43.9%	23.2%	9.2%	100.0%
合計	人数	233人	433人	233人	95人	994人
	割合	23.4%	43.6%	23.4%	9.6%	100.0%

[5] 40～64歳のひきこもり群についても、今の自分が好きではない者の割合が高い。

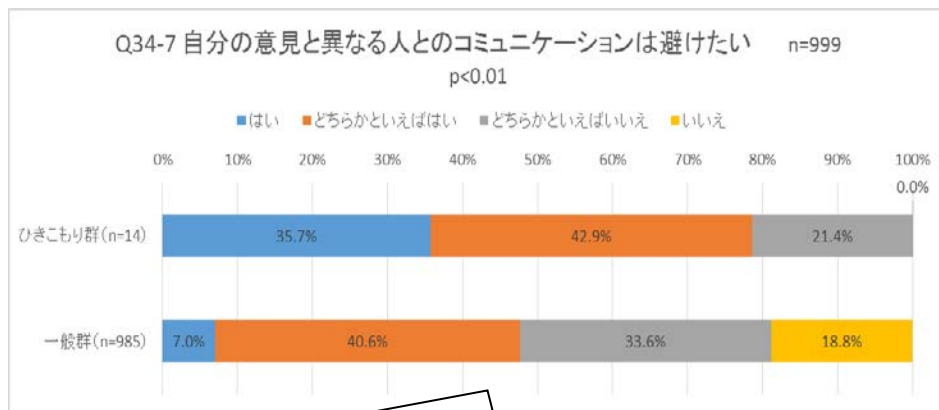


今の自分が好きかという質問に「はい」又は「どちらかといえばはい」と答える割合が、一般群では77.7%であるのに対し、ひきこもり群では41.6%と、ひきこもり群は一般群に比べ、今の自分が好きと感じる割合が低い傾向があった。(p<0.01)

ひきこもり群vs一般群×Q34: 自分自身にどれ位あてはまるか-3.今の自分が好きだ

	はい	どちらかとい えばはい	どちらかとい えばいいえ	いいえ	合計
ひきこもり 群(n=12)	1人 8.3%	4人 33.3%	3人 25.0%	4人 33.3%	12
一般群 (n=1305)	320人 24.5%	694人 53.2%	226人 17.3%	65人 5.0%	1305
合計	321 24.4%	698 53.0%	229 17.4%	69 5.2%	1317

[6] 15～39 歳のひきこもり群については、自分の意見と異なる人とのコミュニケーションを避けたい者の割合が高い。



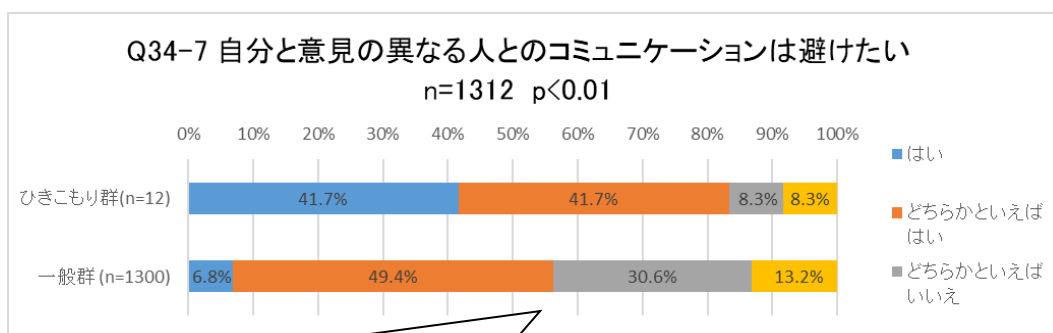
「自分の意見と異なる人とのコミュニケーションを避けたい」という質問に対して、「はい」または「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群は 78.6%、一般群は 47.6%であった。

ひきこもり状態にある若者は、一般群と比べて、自分の意見と異なる人とのコミュニケーションを避けたいと感じている割合が高い傾向があった。(p<0.01)

ひきこもり * Q34-7.自分と意見の異なる人とのコミュニケーションは避けたい

		はい	どちらかといえばはい	どちらかといえばいいえ	いいえ	合計
ひきこもり群(n=14)	人数	5人	6人	3人	0人	14人
	割合	35.7%	42.9%	21.4%	0.0%	100.0%
一般群(n=985)	人数	69人	400人	331人	185人	985人
	割合	7.0%	40.6%	33.6%	18.8%	100.0%
合計	人数	74人	406人	334人	185人	999人
	割合	7.4%	40.6%	33.4%	18.5%	100.0%

[7] 40～64 歳のひきこもり群についても、自分の意見と異なる人とのコミュニケーションを避けたい者の割合が高い。

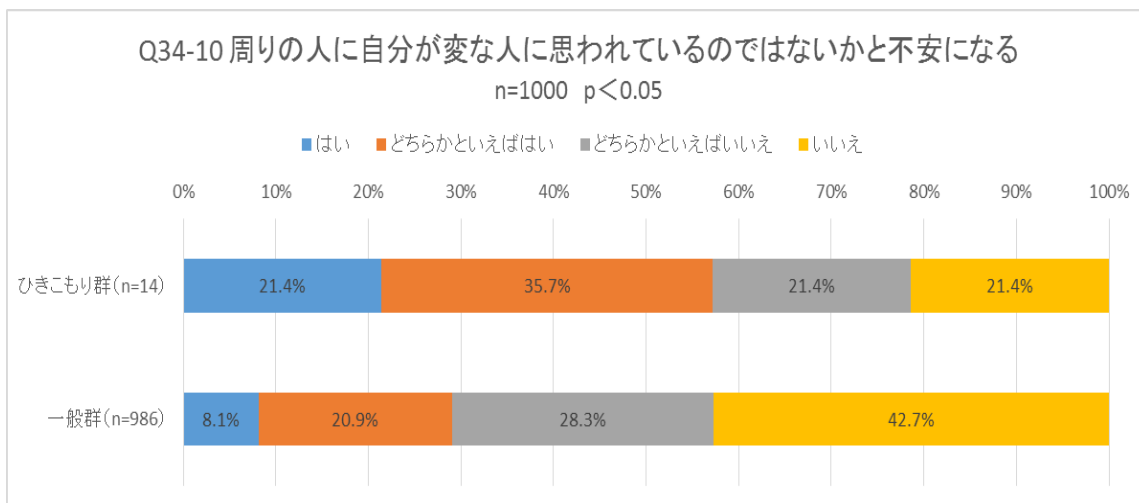


自分と意見の異なる人とのコミュニケーションは避けたいかという質問に「はい」と答える割合が、ひきこもり群では 41.7%であるのに対し、一般群では 6.8%と、ひきこもり群は一般群に比べ、自分と意見の異なる人とのコミュニケーションは避けたい傾向があった。(p<0.01)

ひきこもり群vs一般群 × Q34: 自分自身にどれ位あてはまるか-7.自分と意見の異なる人とのコミュニケーションは避けたい

	はい	どちらかといえばはい	どちらかといえばいいえ	いいえ	合計
ひきこもり群(n=12)	5人	5人	1人	1人	12
割合	41.7%	41.7%	8.3%	8.3%	100.0%
一般群(n=1300)	89人	642人	398人	171人	1300
割合	6.8%	49.4%	30.6%	13.2%	100.0%
合計	94	647	399	172	1312
割合	7.2%	49.3%	30.4%	13.1%	100.0%

[8] 15～39 歳のひきこもり群については、周りの人に自分が変な人に思われているのではないかと不安になる者の割合が高い。

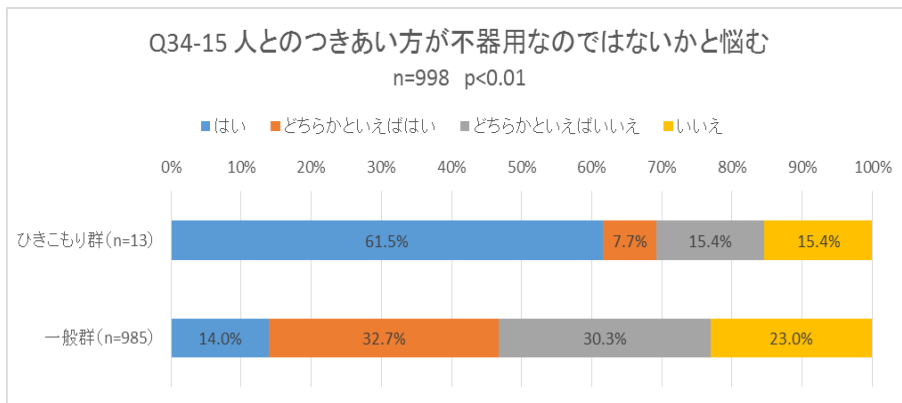


「周りの人に自分が変な人に思われているのではないかと不安になる」という質問に対して、「はい」または「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群は 57.1%、一般群は 29.0%であった。

ひきこもり状態にある若者は、一般群と比べて、周りの人に自分が変な人に思われているのではないかと不安になると感じている割合が高い傾向があった。(p<0.05)

ひきこもり * Q34-10.周りの人に自分が変な人に思われているのではないかと不安になる						
		はい	どちらかとい えればはい	どちらかとい えればいいえ	いいえ	合計
ひきこもり群(n=14)	人数	3人	5人	3人	3人	14人
	割合	21.4%	35.7%	21.4%	21.4%	100.0%
一般群(n=986)	人数	80人	206人	279人	421人	986人
	割合	8.1%	20.9%	28.3%	42.7%	100.0%
合計	人数	83人	211人	282人	424人	1,000人
	割合	8.3%	21.1%	28.2%	42.4%	100.0%

[9] 15～39 歳のひきこもり群については、人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む者の割合が高い。

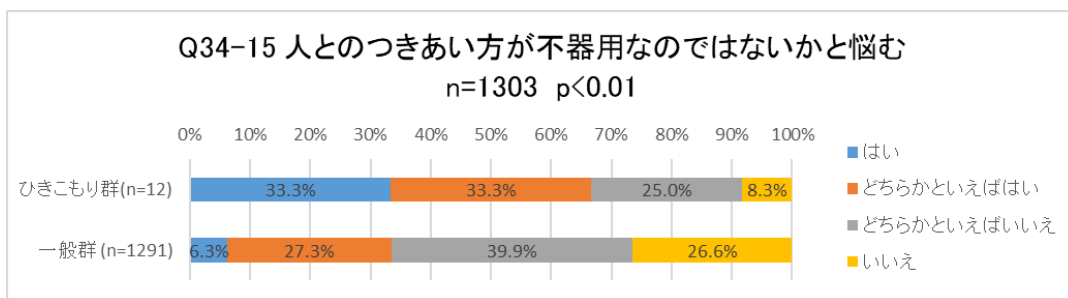


「人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む」という質問に対して、「はい」または「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群は 69.2%、一般群は 46.7%であった。ひきこもり状態にある若者は、一般群と比べて、人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む割合が高い傾向があった。(p<0.01)

ひきこもり * Q34-15.人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む

		はい	どちらかといえばはい	どちらかといえばいいえ	いいえ	合計
ひきこもり群 (n=13)	人数	8人	1人	2人	2人	13人
	割合	61.5%	7.7%	15.4%	15.4%	100.0%
一般群 (n=985)	人数	138人	322人	298人	227人	985人
	割合	14.0%	32.7%	30.3%	23.0%	100.0%
合計	人数	146人	323人	300人	229人	998人
	割合	14.6%	32.4%	30.1%	22.9%	100.0%

[10] 40～64 歳のひきこもり群についても、人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む者の割合が高い。

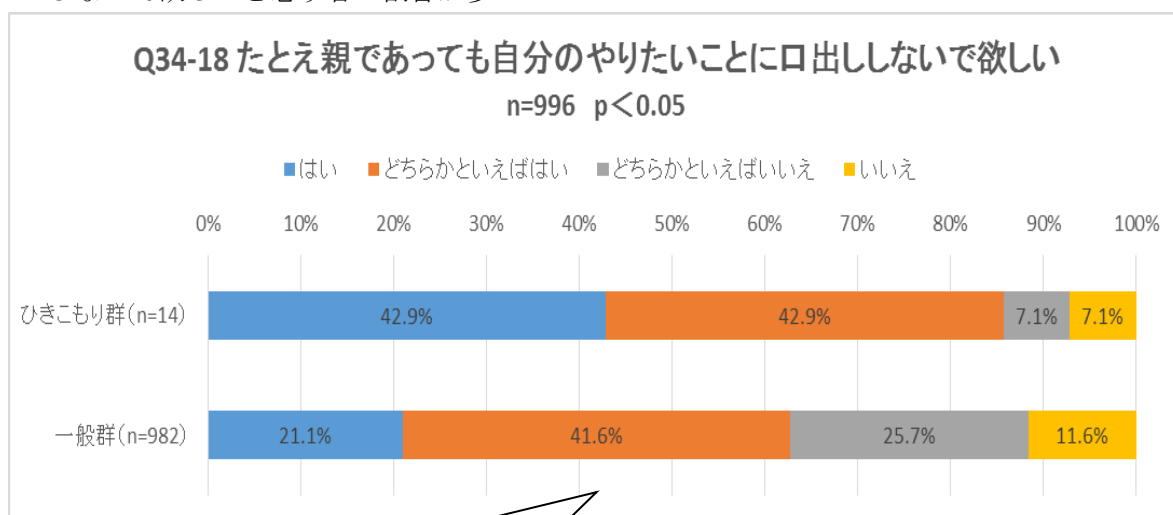


「人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む」という質問に対して、「はい」または「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群は 66.7%、一般群は 46.7%であった。ひきこもり状態にある若者は、一般群と比べて、人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む割合が高い傾向があった。(p<0.01)

人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む

		はい	どちらかといえばはい	どちらかといえばいいえ	いいえ	合計
ひきこもり群 (n=12)	人数	4人	4人	3人	1人	12人
	割合	33.3%	33.3%	25.0%	8.3%	100.0%
一般群 (n=1291)	人数	81人	352人	515人	343人	1291人
	割合	6.3%	27.3%	39.9%	26.6%	100.0%
合計	人数	85人	356人	518人	344人	1303人
	割合	6.5%	27.3%	39.8%	26.4%	100.0%

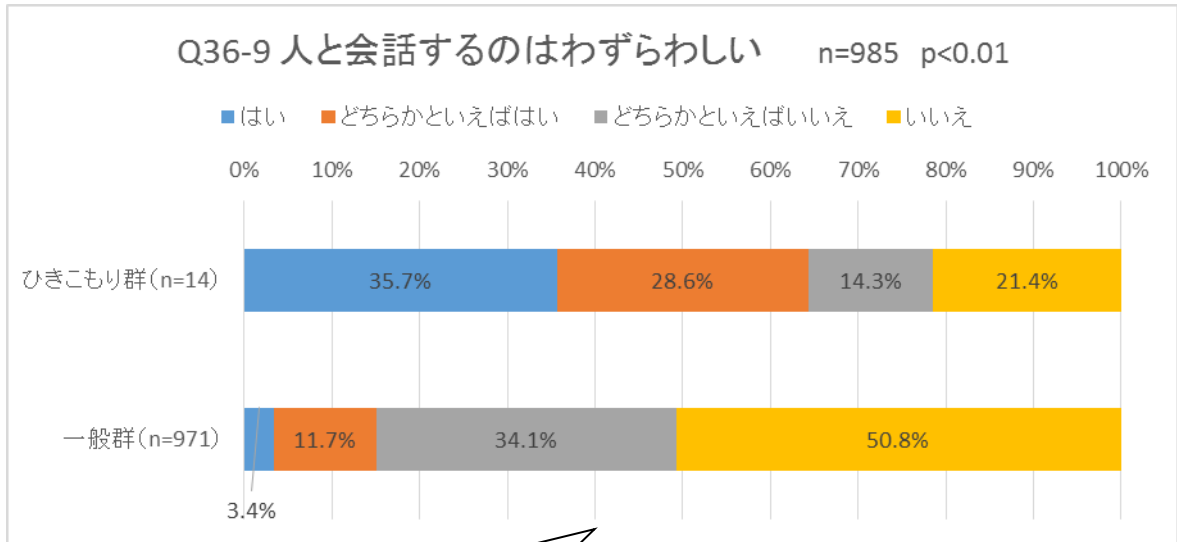
[11] 15～39歳のひきこもり群については、たとえ親であっても自分のやりたいことに口出ししないで欲しいと思う者の割合が多い



「たとえ親であっても自分のやりたいことに口出ししないで欲しい」という質問に対して、「はい」または「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群は85.8%、一般群は62.7%であった。

ひきこもり状態にある若者は、一般群と比べて、たとえ親であっても自分のやりたいことに口出ししないで欲しいと感じる割合が高い傾向があった。(p<0.05)

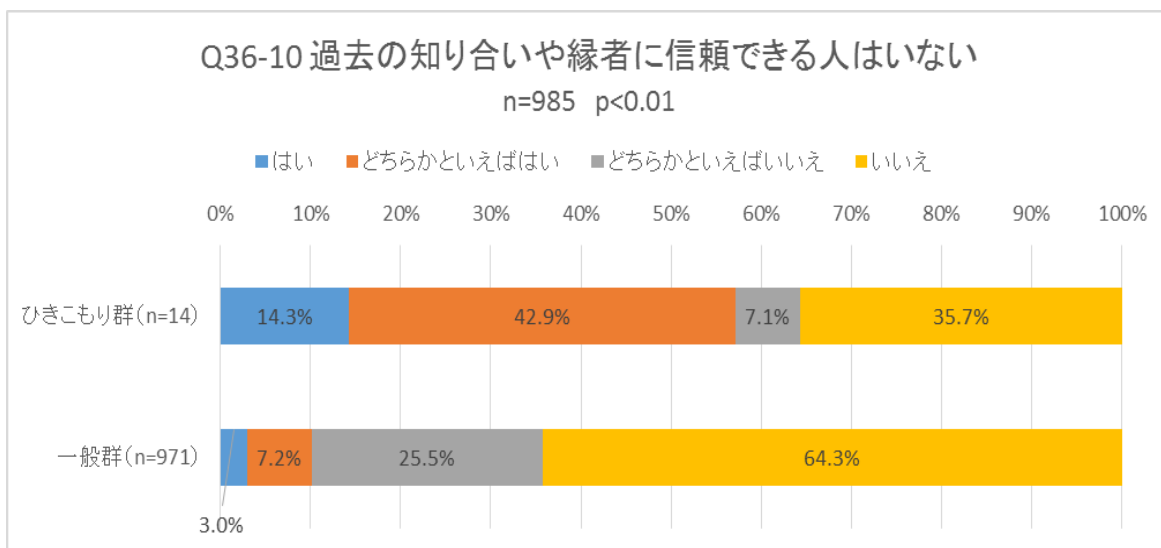
[12] 15～39歳のひきこもり群については、人と会話するのはわずらわしいと感じる者の割合が高い



「人と会話するのはわずらわしい」という質問に対して、「はい」または「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群は64.3%、一般群は15.1%であった。ひきこもり状態にある若者は、一般群と比べて、人と会話するのはわずらわしいと感じる割合が高い傾向があった。(p<0.01)

ひきこもり * Q36-9.人と会話するのはわずらわしい						
		はい	どちらかとい えればはい	どちらかとい えればいいえ	いいえ	合計
ひきこもり群 (n=14)	人数	5人	4人	2人	3人	14人
	割合	35.7%	28.6%	14.3%	21.4%	100.0%
一般群 (n=971)	人数	33人	114人	331人	493人	971人
	割合	3.4%	11.7%	34.1%	50.8%	100.0%
合計	人数	38人	118人	333人	496人	985人
	割合	3.9%	12.0%	33.8%	50.4%	100.0%

[13] 15～39歳のひきこもり群については、過去の知り合いや縁者に信頼できる人はいない

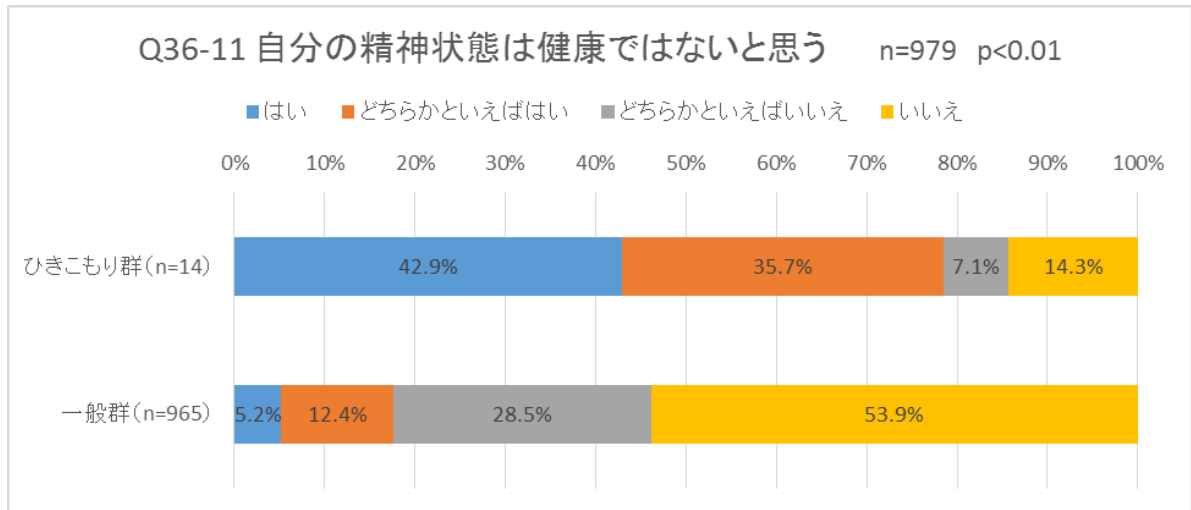


「過去の知り合いや縁者に信頼できる人はいない」という質問に対して、「はい」または「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群は57.2%、一般群は10.2%であった。ひきこもり状態にある若者は、一般群と比べて、人と会話をするのはわずらわしいと感じる割合が高い傾向があった。(p<0.01)

ひきこもり * Q36-10.過去の知り合いや縁者に信頼できる人はいない

		はい	どちらかとい えばはい	どちらかとい えばいいえ	いいえ	合計
ひきこもり群 (n=14)	人数	2人	6人	1人	5人	14人
	割合	14.3%	42.9%	7.1%	35.7%	100.0%
一般群 (n=971)	人数	29人	70人	248人	624人	971人
	割合	3.0%	7.2%	25.5%	64.3%	100.0%
合計	人数	31人	76人	249人	629人	985人
	割合	3.1%	7.7%	25.3%	63.9%	100.0%

[14] 15～39歳のひきこもり群については、自分の精神状態を健康ではないと思う者の割合が高い。

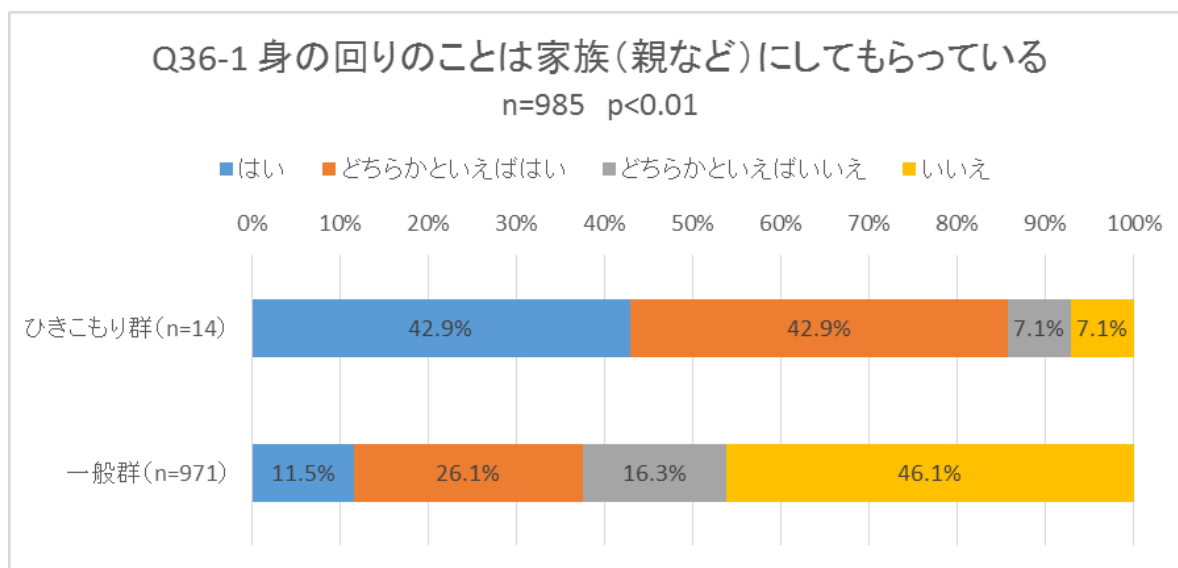


「自分の精神状態を健康ではないと思う」という質問に対して、「はい」または「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群は78.6%、一般群は17.6%であった。ひきこもり状態にある若者は、一般群と比べて、自分の精神状態を健康ではないと思う割合が高い傾向があった。(p<0.01)

ひきこもり * Q36-11.自分の精神状態は健康ではないと思う						
		はい	どちらかとい えばはい	どちらかとい えばいいえ	いいえ	合計
ひきこもり群(n=14)	人数	6人	5人	1人	2人	14人
	割合	42.9%	35.7%	7.1%	14.3%	100.0%
一般群(n=965)	人数	50人	120人	275人	520人	965人
	割合	5.2%	12.4%	28.5%	53.9%	100.0%
合計	人数	56人	125人	276人	522人	979人
	割合	5.7%	12.8%	28.2%	53.3%	100.0%

③ 生活状況

[1] 15～39歳のひきこもり群については、身の回りのことは親などの家族にしてもらっている。

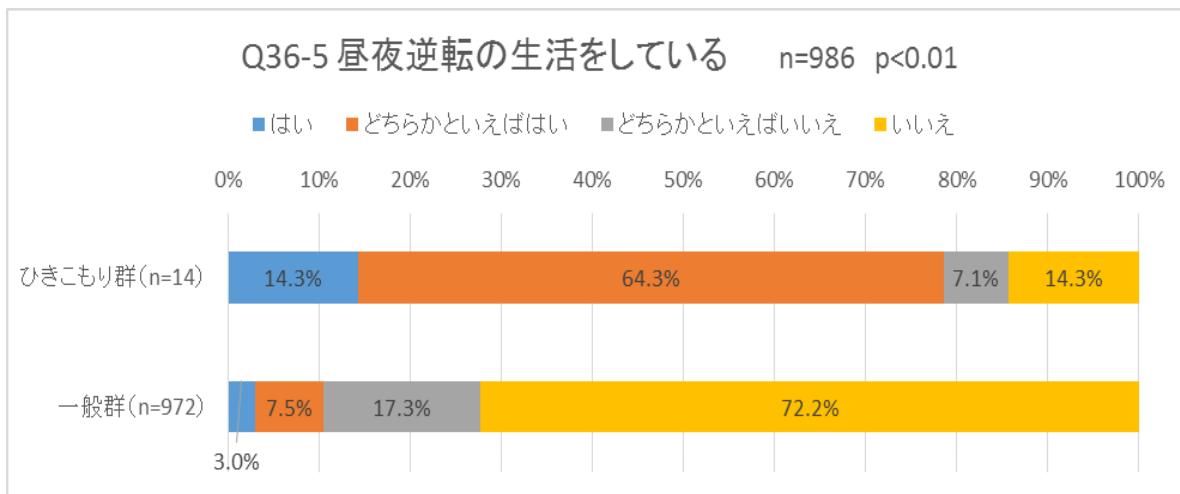


「身の回りのことは家族(親など)にしてもらっている」という質問に対して、「はい」または「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群は85.8%、一般群は37.6%であった。

ひきこもり状態にある若者は、一般群と比べて、身の回りのことを親などの家族にしてもらっている割合が高い傾向があった。(p<0.01)

ひきこもり* Q36-1.身の回りのことは家族(親など)にもらっている						
		はい	どちらかといえ ばはい	どちらかといえ ばいいえ	いいえ	合計
ひきこもり群(n=14)	人数	6人	6人	1人	1人	14人
	割合	42.9%	42.9%	7.1%	7.1%	100.0%
一般群(n=971)	人数	112人	253人	158人	448人	971人
	割合	11.5%	26.1%	16.3%	46.1%	100.0%
合計	人数	118	259	159	449	985
	割合	12.0%	26.3%	16.1%	45.6%	100.0%

[2] 15～39歳のひきこもり群については、生活が昼夜逆転している者の割合が高い

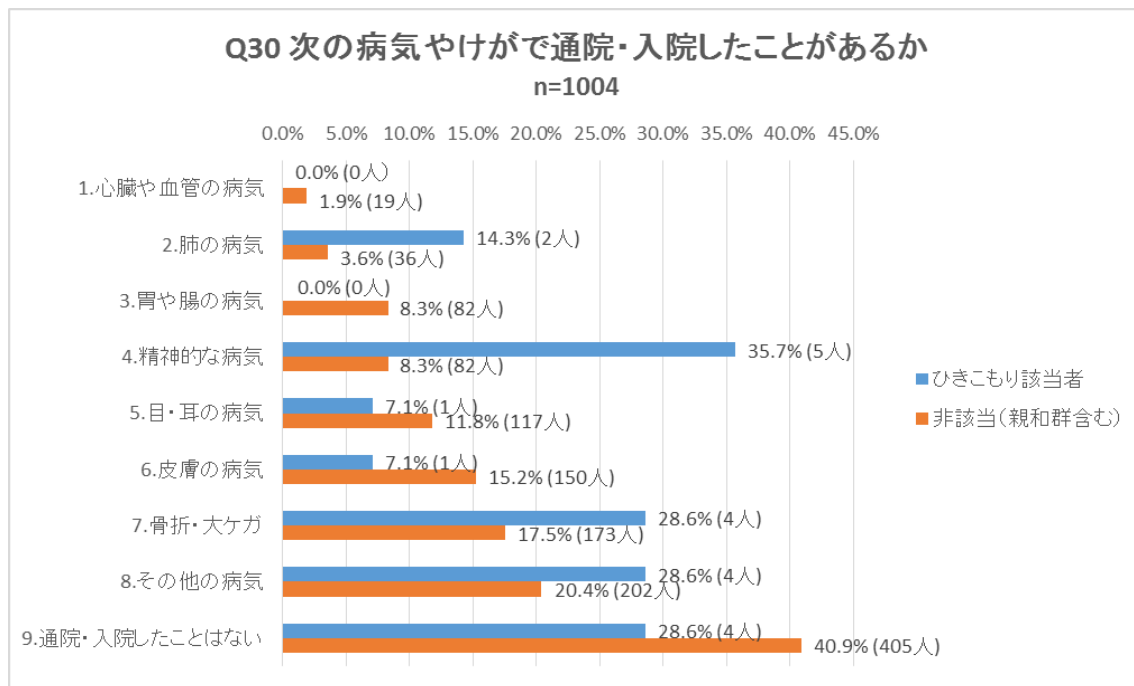


「昼夜逆転の生活をしている」という質問に対して、「はい」または「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群は78.6%、一般群は10.5%であった。ひきこもり状態にある若者は、一般群と比べて、生活が昼夜逆転している割合が高い傾向があった。(p<0.01)

ひきこもり * Q36-5.昼夜逆転の生活をしている		はい	どちらかといえ ばはい	どちらかといえ ばいいえ	いいえ	合計
ひきこもり群(n=14)	人数	2人	9人	1人	2人	14人
	割合	14.3%	64.3%	7.1%	14.3%	100.0%
一般群(n=972)	人数	29人	73人	168人	702人	972人
	割合	3.0%	7.5%	17.3%	72.2%	100.0%
合計	人数	31人	82人	169人	704人	986人
	割合	3.1%	8.3%	17.1%	71.4%	100.0%

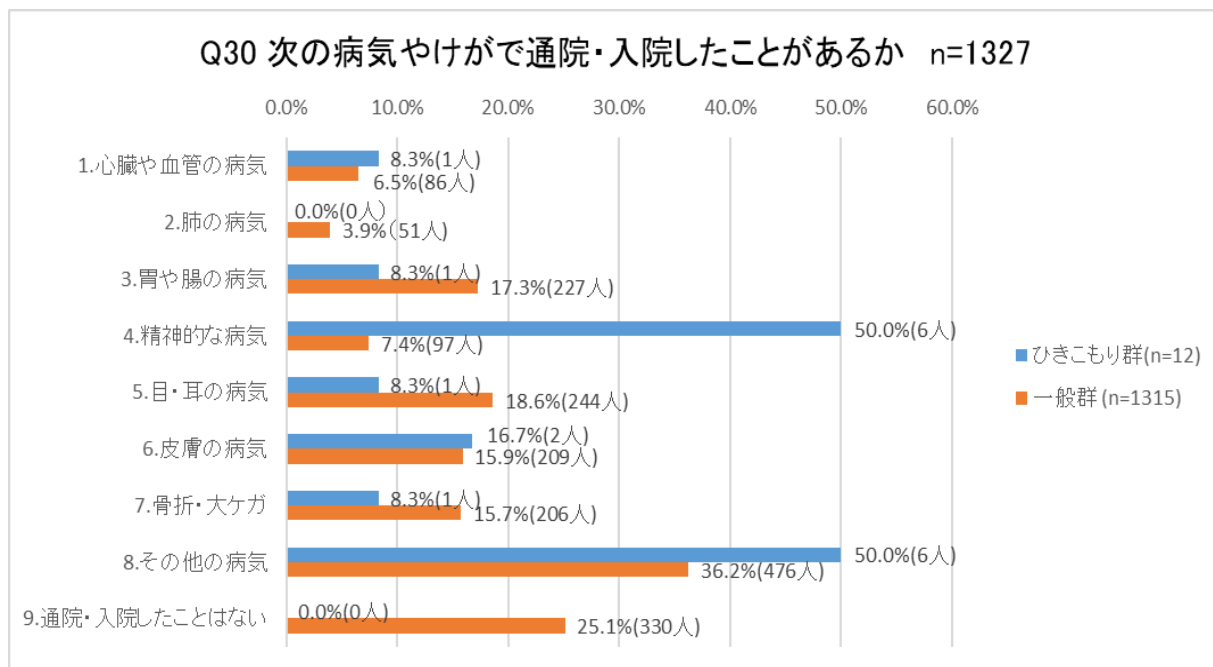
④ 過去の経験

[1]統計上の有意差の検定はできなかったものの、15～39歳のひきこもり群と一般群を比較すると、精神的な病気による通院・入院を経験した割合がひきこもり群では35.7%、一般群では8.3%であった。



ひきこもり * Q30: 次の病気やけがで通院・入院したことがあるか		心臓や血管の病気	肺の病気	胃や腸の病気	精神的な病気	目・耳の病気	6皮膚の病気	骨折・大ケガ	その他の病気	通院・入院したことはない	合計
ひきこもり群 (n=14)	人数	0	2	0	5	1	1	4	4	4	14
	割合	0.0%	14.3%	0.0%	35.7%	7.1%	7.1%	28.6%	28.6%	28.6%	100.0%
一般群 (n=990)	人数	19	36	82	82	117	150	173	202	405	990
	割合	1.9%	3.6%	8.3%	8.3%	11.8%	15.2%	17.5%	20.4%	40.9%	100.0%
合計	人数	19	38	82	87	118	151	177	206	409	1004
	割合	1.9%	3.8%	8.2%	8.7%	11.8%	15.0%	17.6%	20.5%	40.7%	100.0%

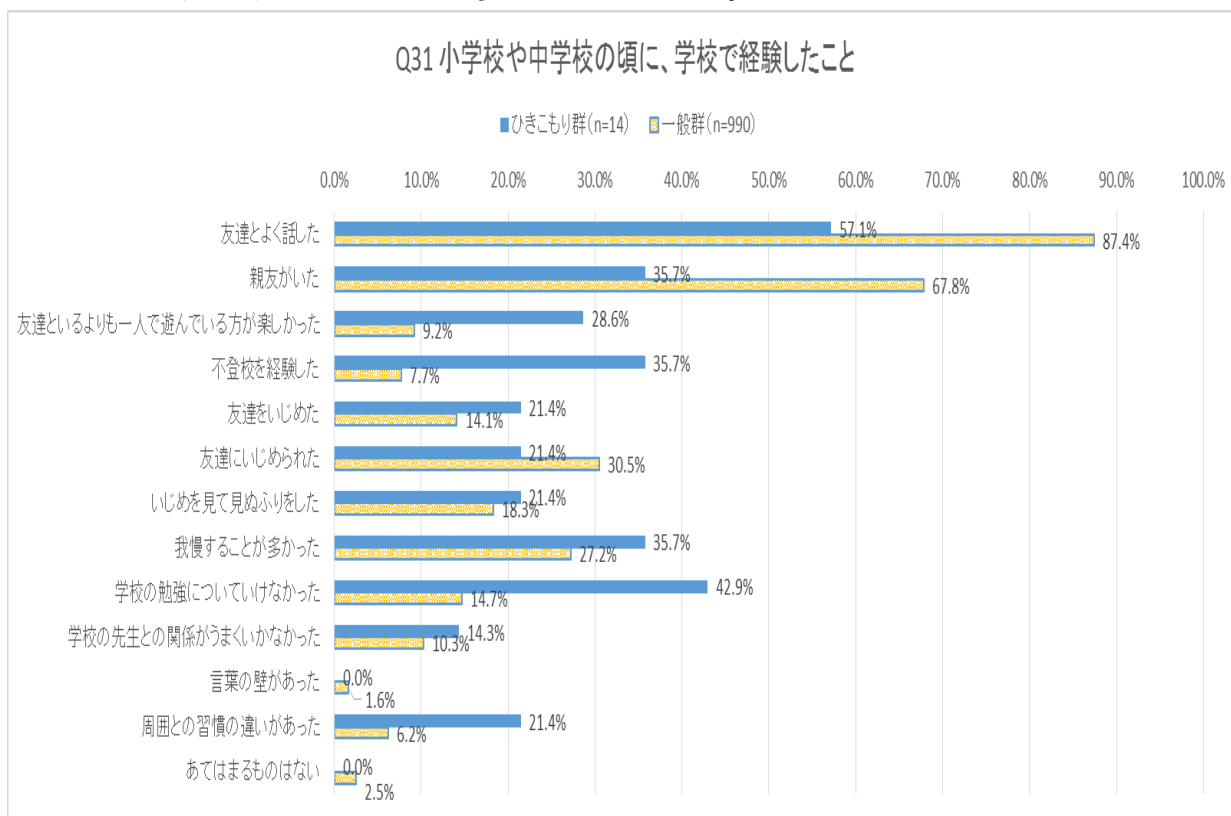
[2] 統計上の有意差の検定はできなかったものの、40～64歳のひきこもり群と一般群を比較すると、精神的な病気による通院・入院を経験した割合がひきこもり群では50%、一般群では7.4%であった。



ひきこもり群vs一般群×Q30: 次の病気やけがで通院・入院したことがあるか

	1.心臓や血管の病気	2.肺の病気	3.胃や腸の病気	4.精神的な病気	5.目・耳の病気	6.皮膚の病気	7.骨折・大ケガ	8.その他の病気	9.通院・入院したことはない	合計
ひきこもり 人数	1人	0人	1人	6人	1人	2人	1人	6人	0人	12
ひきこもり 割合	8.3%	0.0%	8.3%	50.0%	8.3%	16.7%	8.3%	50.0%	0.0%	100.0%
一般群 人数	86人	51人	227人	97人	244人	209人	206人	476人	330人	1315
一般群 割合	6.5%	3.9%	17.3%	7.4%	18.6%	15.9%	15.7%	36.2%	25.1%	100.0%
合計 人数	87	51	228	103	245	211	207	482	330	1327
合計 割合	6.6%	3.8%	17.2%	7.8%	18.5%	15.9%	15.6%	36.3%	24.9%	100.0%

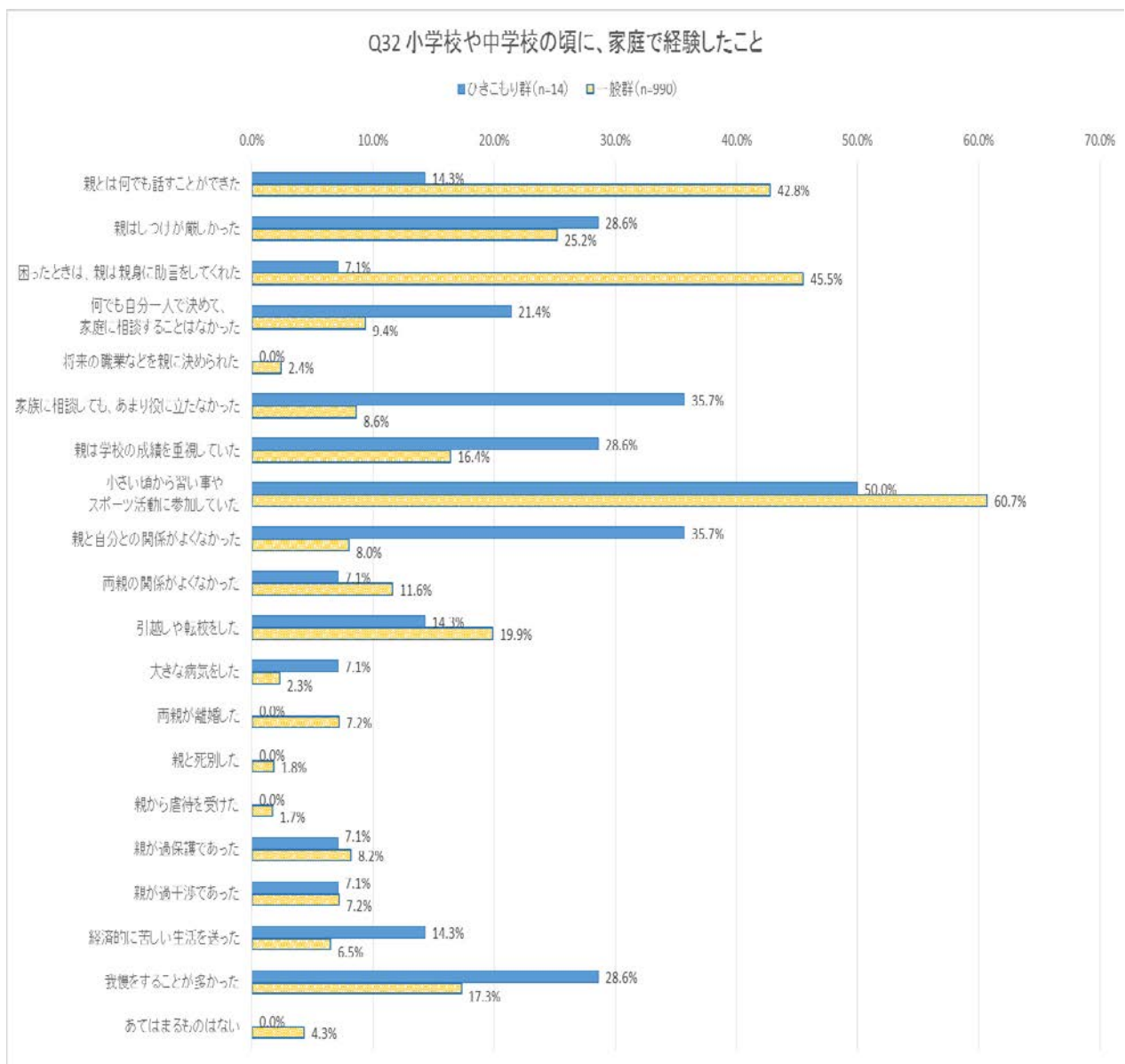
[3]統計上の有意差の検定はできなかったものの、小学校や中学校の頃に、学校で経験したこととして、15～39歳のひきこもり群は、一般群に比べ、「友達とよく話した」「親友がいた」経験が少なく、「不登校」や「学校の勉強についていけない」など、学校生活で課題を抱えていたことが多いことがわかった。



ひきこもり * Q31: 小中学生の頃、学校で経験したこと		友達とよく話した	親友がいた	友達というよりも一人で遊んでいる方が楽しかった	不登校を経験した	友達をいじめた	友達にいじめられた
ひきこもり群 (n=14)	人数	8人	5人	4人	5人	3人	3人
	割合	57.1%	35.7%	28.6%	35.7%	21.4%	21.4%
一般群 (n=990)	人数	865人	671人	91人	76人	140人	302人
	割合	87.4%	67.8%	9.2%	7.7%	14.1%	30.5%
合計	人数	873人	676人	95人	81人	143人	305人
	割合	87.0%	67.3%	9.5%	8.1%	14.2%	30.4%

いじめを見て見ぬふりをした	我慢することが多かった	学校の勉強についていけなかった	学校の先生との関係がうまくいかなかった	言葉の壁があった	周囲との習慣の違いがあった	あてはまるものはない	合計
3人	5人	6人	2人	0人	3人	0人	14人
21.4%	35.7%	42.9%	14.3%	0.0%	21.4%	0.0%	100.0%
181人	269人	146人	102人	16人	61人	25人	990人
18.3%	27.2%	14.7%	10.3%	1.6%	6.2%	2.5%	100.0%
184人	274人	152人	104人	16人	64人	25人	1,004人
18.3%	27.3%	15.1%	10.4%	1.6%	6.4%	2.5%	100.0%

[4]統計上の有意差の検定はできなかったものの、小学校や中学校の頃に、家庭で経験したこととして、15～39歳のひきこもり群は、一般群に比べ、「家族に相談しても、あまり役に立たなかった」「親と自分との関係がよくなかった」経験が多く、「親とは何でも話すことができた」「困ったときは、親は親身に助言をしてくれた」経験が少ないなど、家族関係に課題を抱えていたことが多いことがわかった。

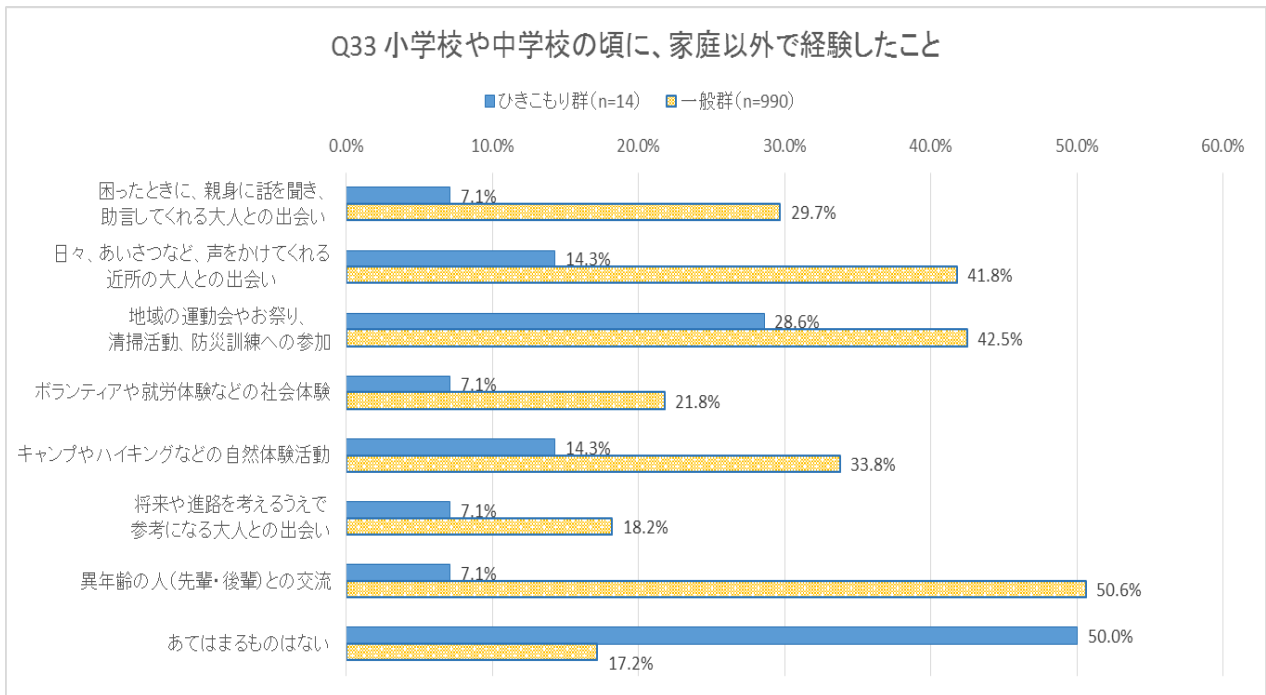


ひきこもり* Q32: 小中学生の頃、家庭で経験したこと								
		親とは何でも話すことができた	親はしつげが厳しかった	困ったときは、親は親身に助言してくれた	何でも自分一人で決めて、家庭に相談することはなかった	将来の職業などを親に決められた	家族に相談しても、あまり役に立たなかった	親は学校の成績を重視していた
ひきこもり群 (n=14)	人数	2人	4人	1人	3人	0人	5人	4人
	割合	14.3%	28.6%	7.1%	21.4%	0.0%	35.7%	28.6%
一般群 (n=990)	人数	424人	249人	450人	93人	24人	85人	162人
	割合	42.8%	25.2%	45.5%	9.4%	2.4%	8.6%	16.4%
合計	人数	426人	253人	451人	96人	24人	90人	166人
	割合	42.4%	25.2%	44.9%	9.6%	2.4%	9.0%	16.5%

小さい頃から習い事やスポーツ活動に参加していた	親と自分との関係がよくなかった	両親の関係がよくなかった	引越しや転校をした	大きな病気をした	両親が離婚した	親と死別した	親から虐待を受けた	親が過保護であった
7人	5人	1人	2人	1人	0人	0人	0人	1人
50.0%	35.7%	7.1%	14.3%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%
601人	79人	115人	197人	23人	71人	18人	17人	81人
60.7%	8.0%	11.6%	19.9%	2.3%	7.2%	1.8%	1.7%	8.2%
608人	84人	116人	199人	24人	71人	18人	17人	82人
60.6%	8.4%	11.6%	19.8%	2.4%	7.1%	1.8%	1.7%	8.2%

親が過干渉であった	経済的に苦しい生活を送った	我慢することが多かった	あてはまるものはない	合計
1人	2人	4人	0人	14人
7.1%	14.3%	28.6%	0.0%	100.0%
71人	64人	171人	43人	990人
7.2%	6.5%	17.3%	4.3%	100.0%
72人	66人	175人	43人	1,004人
7.2%	6.6%	17.4%	4.3%	100.0%

[5]統計上の有意差の検定はできなかったものの、小学校や中学校の頃に、家庭以外で経験したこととして、15～39歳のひきこもり群は、一般群に比べ、様々な大人との出会いや社会体験、自然体験活動などの家庭以外での経験が少ないことがわかった。

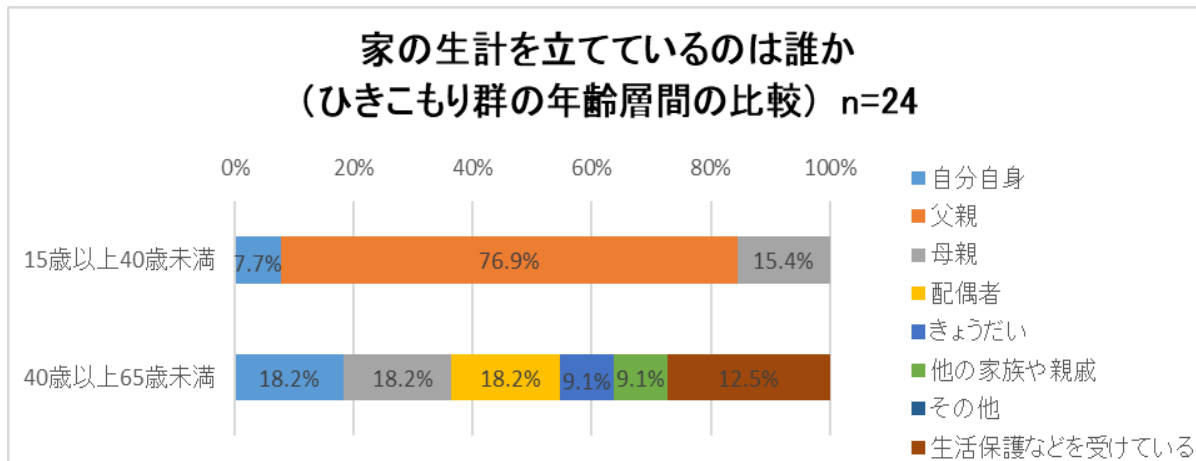


ひきこもり*Q33:小中学生の頃、家庭以外で経験したこと

		困ったときに、親身に話を聞き、助言してくれる大人との出会い	日々、あいさつなど、声をかけてくれる近所の大人との出会い	地域の運動会やお祭り、清掃活動、防災訓練への参加	ボランティアや就労体験などの社会体験	キャンプやハイキングなどの自然体験活動	将来や進路を考えるうえで参考になる大人との出会い	異年齢の人(先輩・後輩)との交流	あてはまるものはない	合計
ひきこもり群 (n=14)	人数	1人	2人	4人	1人	2人	1人	1人	7人	14人
	割合	7.1%	14.3%	28.6%	7.1%	14.3%	7.1%	7.1%	50.0%	100.0%
一般群 (n=990)	人数	294人	414人	421人	216人	335人	180人	501人	170人	990人
	割合	29.7%	41.8%	42.5%	21.8%	33.8%	18.2%	50.6%	17.2%	100.0%
合計	人数	295人	416人	425人	217人	337人	181人	502人	177人	1,004人
	割合	29.4%	41.4%	42.3%	21.6%	33.6%	18.0%	50.0%	17.6%	100.0%

(2) 15～39 歳と 40～64 歳の年齢層間の比較

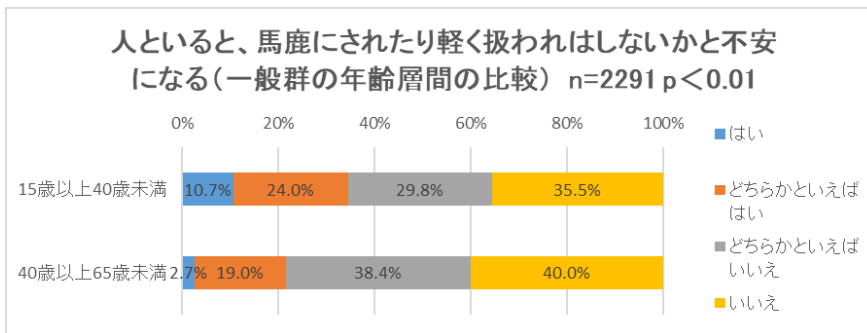
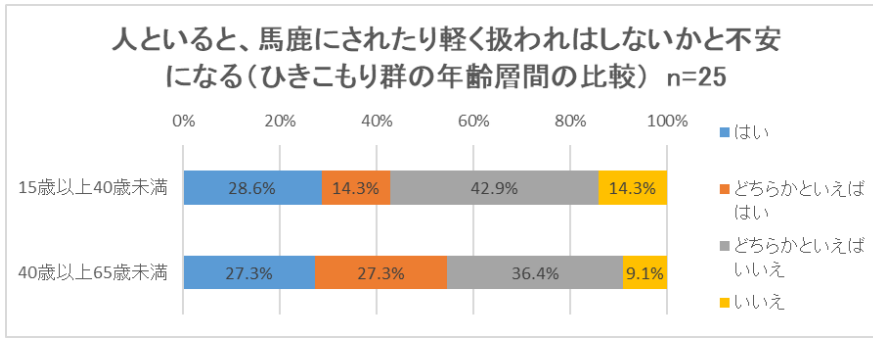
[1] 統計上の有意差の検定はできなかったものの、家の生計を立てているものについて比較すると、15～39歳のひきこもり群は両親が92.3%（父親76.9%、母親15.4%）であるのに対し、40～64歳のひきこもり群は両親が18.2%（父親0%、母親18.2%）であり、両親以外の家族36.4%（配偶者18.2%、兄弟9.1%、他の家族や親戚9.1%）や生活保護(27.3%)であった。



Q3: 年齢区分 × Q28: 家の生計を立てているのは誰か
ひきこもり群

		自分自身	父親	母親	配偶者	きょうだい	他の家族や親戚	その他	生活保護などを受けている	合計
15歳以上 40歳未満	人数	1人	10人	2人	0人	0人	0人	0人	0人	13人
	%	7.7%	76.9%	15.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
40歳以上 65歳未満	人数	2人	0人	2人	2人	1人	1人	0人	3人	11人
	%	18.2%	0.0%	18.2%	18.2%	9.1%	9.1%	0.0%	27.3%	100.0%
合計	人数	3人	10人	4人	2人	1人	1人	0人	3人	24人
	%	12.5%	41.7%	16.7%	8.3%	4.2%	4.2%	0.0%	12.5%	100.0%

[2] 15～39歳の一般群と40～64歳の一般群を比較すると、15～39歳の一般群の方が対人関係に不安を抱いている割合が高い傾向にあった。



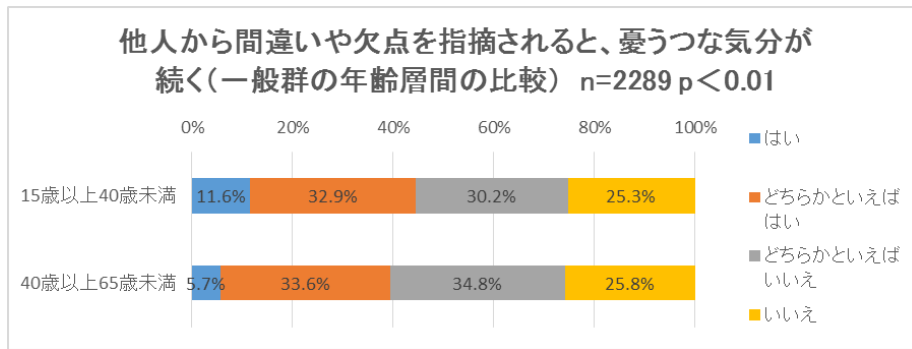
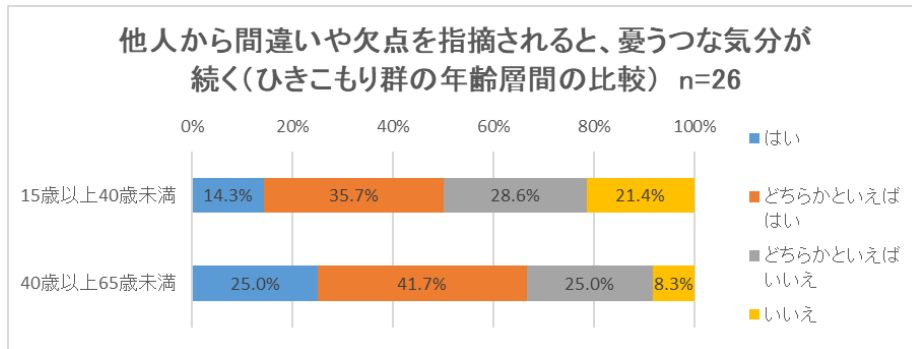
「人という、馬鹿にされたり軽く扱われはしないかと不安になる」という質問に、15～39歳のひきこもり群と40～64歳のひきこもり群の比較では統計上の有意差は確認できないが、15～39歳の一般群と40～64歳の一般群を比較すると、15～39歳の一般群の方が「はい」又は「どちらかといえばはい」と答える割合が高い。(p<0.01)

Q3: 年齢区分×Q34: 自分自身にどれ位あてはまるか-9. 人という、馬鹿にされたり軽く扱われはしないかと不安になる
ひきこもり群

		はい	どちらか といえ ば はい	どちらか といえ ば いいえ	いいえ	合計
15歳以上	人数	4人	2人	6人	2人	14人
40歳未満	%	28.6%	14.3%	42.9%	14.3%	100.0%
40歳以上	人数	3人	3人	4人	1人	11人
65歳未満	%	27.3%	27.3%	36.4%	9.1%	100.0%
合計	人数	7人	5人	10人	3人	25人
	%	28.0%	20.0%	40.0%	12.0%	100.0%

一般群

		はい	どちらか といえ ば はい	どちらか といえ ば いいえ	いいえ	合計
15歳以上	人数	105人	236人	294人	350人	985人
40歳未満	%	10.7%	24.0%	29.8%	35.5%	100.0%
40歳以上	人数	35人	248人	501人	522人	1306人
65歳未満	%	2.7%	19.0%	38.4%	40.0%	100.0%
合計	人数	140人	484人	795人	872人	2291人
	%	6.1%	21.1%	34.7%	38.1%	100.0%



「他人から間違いや欠点を指摘されると、憂うつな気分が続く」という質問に、15～39歳のひきこもり群と40～64歳のひきこもり群の比較では統計上の有意差は確認できないが、15～39歳の一般群と40～64歳の一般群を比較すると、15～39歳の一般群の方が「はい」又は「どちらかといえばはい」と答える割合が高い。(p<0.01)

Q3: 年齢区分×Q34: 自分自身にどれ位あてはまるか-11.他人から間違いや欠点を指摘されると、憂うつな気分が続く

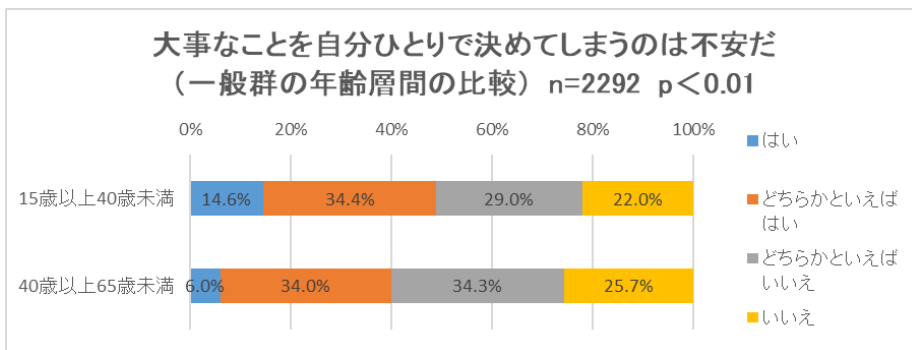
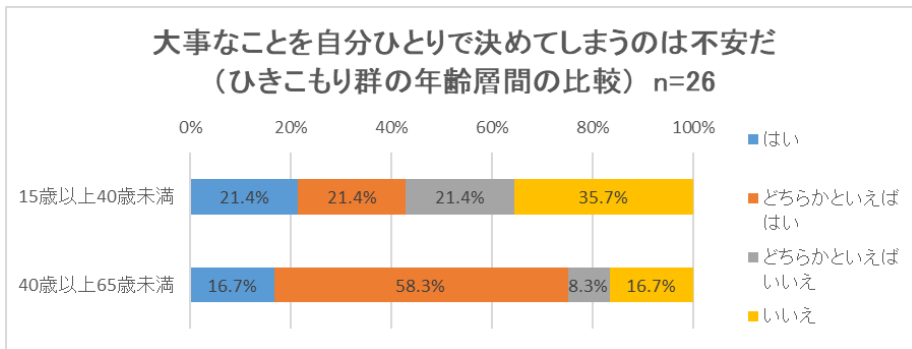
ひきこもり群

	はい	どちらかといえ ばはい	どちらかといえ ばいいえ	いいえ	合計
15歳以上 40歳未満	2人 14.3%	5人 35.7%	4人 28.6%	3人 21.4%	14人 100.0%
40歳以上 65歳未満	3人 25.0%	5人 41.7%	3人 25.0%	1人 8.3%	12人 100.0%
合計	5人 19.2%	10人 38.5%	7人 26.9%	4人 15.4%	26人 100.0%

一般群

	はい	どちらかといえ ばはい	どちらかといえ ばいいえ	いいえ	合計
15歳以上 40歳未満	114人 11.6%	324人 32.9%	297人 30.2%	249人 25.3%	984人 100.0%
40歳以上 65歳未満	75人 5.7%	439人 33.6%	454人 34.8%	337人 25.8%	1305人 100.0%
合計	189人 8.3%	763人 33.3%	751人 32.8%	586人 25.6%	2289人 100.0%

[3] 15～39歳の一般群と40～64歳の一般群を比較すると、15～39歳の一般群の方が大事なことを一人で決めてしまうことに不安を抱いている割合が高い傾向にあった。



「大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ」という質問に、15～39歳のひきこもり群と40～64歳のひきこもり群の比較では統計上の有意差は確認できないが、15～39歳の一般群と40～64歳の一般群を比較すると、15～39歳の一般群の方が「はい」又は「どちらかといえばはい」と答える割合が高い。(p<0.01)

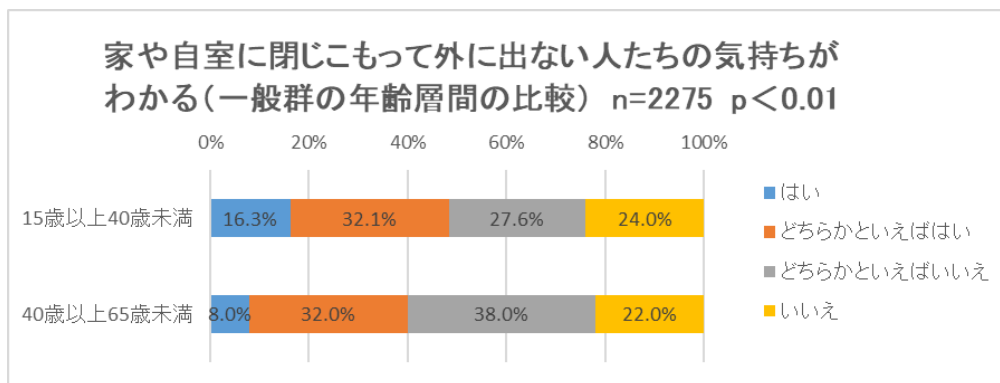
Q3:年齢区分×Q34:自分自身にどれ位あてはまるか-13.大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ
ひきこもり群

		はい	どちらかとい えば はい	どちらかとい えば いいえ	いいえ	合計
15歳以上	人数	3人	3人	3人	5人	14人
40歳未満	%	21.4%	21.4%	21.4%	35.7%	100.0%
40歳以上	人数	2人	7人	1人	2人	12人
65歳未満	%	16.7%	58.3%	8.3%	16.7%	100.0%
合計	人数	5人	10人	4人	7人	26人
	%	19.2%	38.5%	15.4%	26.9%	100.0%

一般群

		はい	どちらかとい えば はい	どちらかとい えば いいえ	いいえ	合計
15歳以上	人数	144人	339人	286人	217人	986人
40歳未満	%	14.6%	34.4%	29.0%	22.0%	100.0%
40歳以上	人数	79人	444人	448人	335人	1306人
65歳未満	%	6.0%	34.0%	34.3%	25.7%	100.0%
合計	人数	223人	783人	734人	552人	2292人
	%	9.7%	34.2%	32.0%	24.1%	100.0%

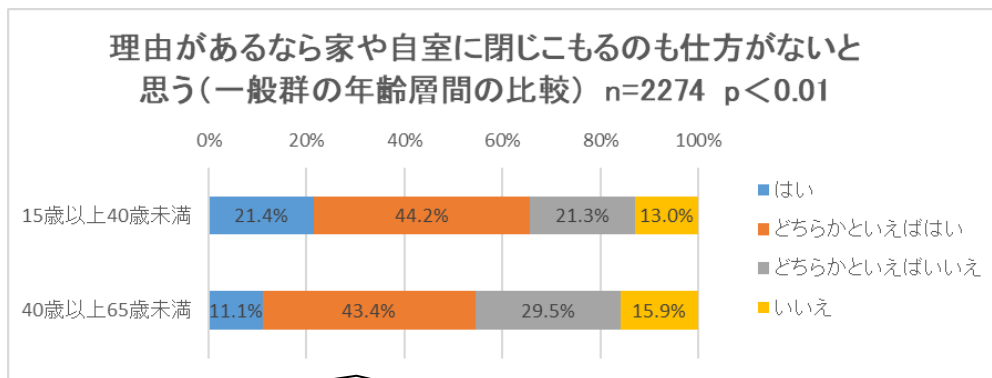
[4] 15～39歳の一般群と40～64歳の一般群を比較すると、40～64歳の一般群の方がひきこもりについて理解や共感を示さない傾向があった。



「家や自室に閉じこもって外に出ない人の気持ちがわかる」という質問に、「はい」と答える割合が、15～39歳の一般群より40～64歳の一般群の方が「はい」と答える割合が低い。(p<0.01)

**家や自室に閉じこもって外に出ない人たちの気持ちがわかる
一般群**

		はい	どちらかとい えはい	どちらかとい えいいえ	いいえ	合計
15歳以上 40歳未満	人数	160人	316人	271人	236人	983人
	%	16.3%	32.1%	27.6%	24.0%	100.0%
40歳以上 65歳未満	人数	103人	414人	491人	284人	1292人
	%	8.0%	32.0%	38.0%	22.0%	100.0%
合計	人数	263人	730人	762人	520人	2275人
	%	11.6%	32.1%	33.5%	22.9%	100.0%

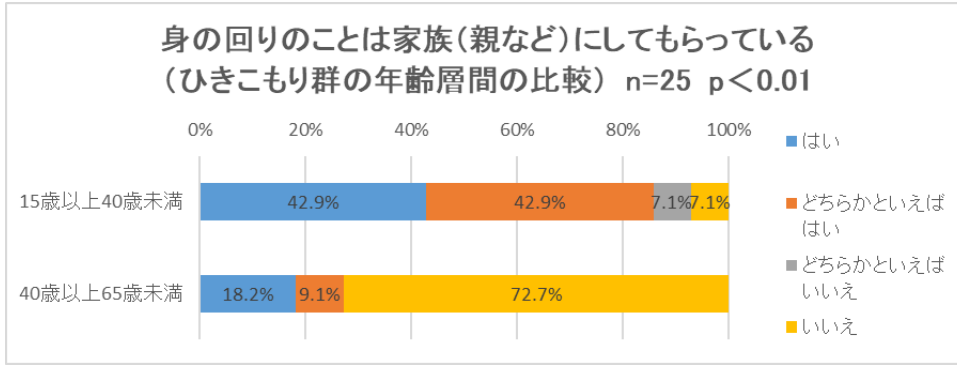


「理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う」という質問に、「はい」と答える割合が、15～39歳の一般群より40～64歳の一般群の方が「はい」と答える割合が低い。(p<0.01)

**理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う
一般群**

		はい	どちらかとい えはい	どちらかとい えいいえ	いいえ	合計
15歳以上 40歳未満	人数	210人	434人	209人	128人	981人
	%	21.4%	44.2%	21.3%	13.0%	100.0%
40歳以上 65歳未満	人数	144人	561人	382人	206人	1293人
	%	11.1%	43.4%	29.5%	15.9%	100.0%
合計	人数	354人	995人	591人	334人	2274人
	%	15.6%	43.8%	26.0%	14.7%	100.0%

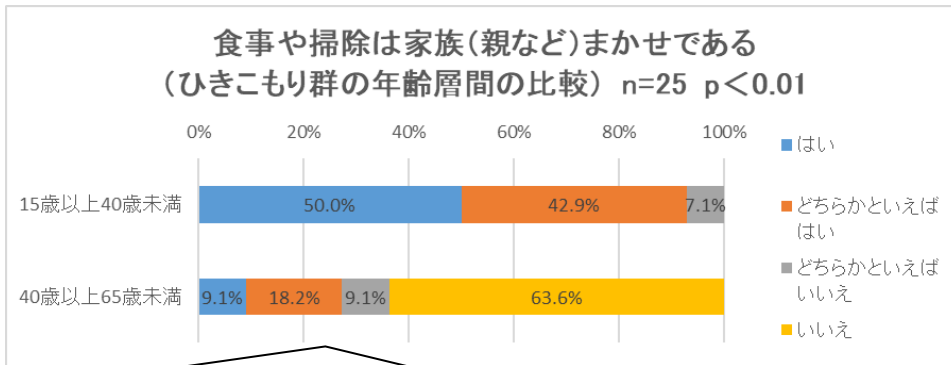
[5] 15～39歳のひきこもり群と40～64歳のひきこもり群を比較すると、40～64歳のひきこもり群の方が身の回りのことを自分でしている割合が高い。



「身の周りのことは家族(親など)にしてもらっている」という質問に「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、15～39歳のひきこもり群では85.8%と高いが、40～64歳のひきこもり群では27.3%と、40～64歳のひきこもり群の方が身の回りのことを自分でしている傾向が高い傾向があった。(p<0.01)

**身の回りのことは家族(親など)にしてもらっている
ひきこもり群**

		はい	どちらかといえばはい	どちらかといえばいいえ	いいえ	合計
15歳以上 40歳未満	人数	6人	6人	1人	1人	14人
	%	42.9%	42.9%	7.1%	7.1%	100.0%
40歳以上 65歳未満	人数	2人	1人	0人	8人	11人
	%	18.2%	9.1%	0.0%	72.7%	100.0%
合計	人数	8人	7人	1人	9人	25人
	%	32.0%	28.0%	4.0%	36.0%	100.0%

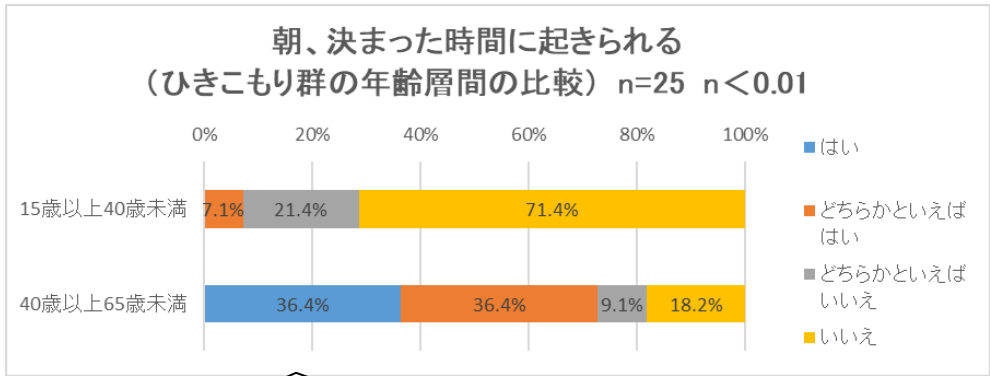


「食事や掃除は家族(親など)まかせである」という質問に「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、15～39歳のひきこもり群では92.9%、40～64歳のひきこもり群では27.3%と、40～64歳のひきこもり群の方が身の回りのことを自分でしている傾向があった。(p<0.01)

**食事や掃除は家族(親など)まかせである
ひきこもり群**

		はい	どちらかといえばはい	どちらかといえばいいえ	いいえ	合計
15歳以上 40歳未満	人数	7人	6人	1人	0人	14人
	%	50.0%	42.9%	7.1%	0.0%	100.0%
40歳以上 65歳未満	人数	1人	2人	1人	7人	11人
	%	9.1%	18.2%	9.1%	63.6%	100.0%
合計	人数	8人	8人	2人	7人	25人
	%	32.0%	32.0%	8.0%	28.0%	100.0%

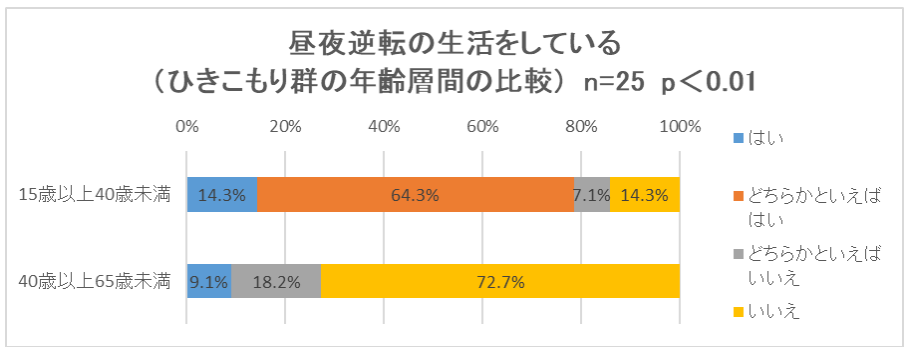
[6] 15～39歳のひきこもり群と40～64歳のひきこもり群を比較すると、40～64歳のひきこもり群の方が規則的な生活をしている割合が高い。



「朝、決まった時間に起きられる」という質問に「はい」又は「どちらかといえばはい」と答える割合が39歳以下のひきこもり群では7.1%、40歳以上のひきこもり群では72.8%と、40～64歳のひきこもり群の方が、朝、決まった時間に起きられる傾向があった。(p<0.01)

**朝、決まった時間に起きられる
ひきこもり群**

		はい	どちらかとい えはい	どちらかとい えいいえ	いいえ	合計
15歳以上 40歳未満	人数	0人	1人	3人	10人	14人
	%	0.0%	7.1%	21.4%	71.4%	100.0%
40歳以上 65歳未満	人数	4人	4人	1人	2人	11人
	%	36.4%	36.4%	9.1%	18.2%	100.0%
合計	人数	4人	5人	4人	12人	25人
	%	16.0%	20.0%	16.0%	48.0%	100.0%

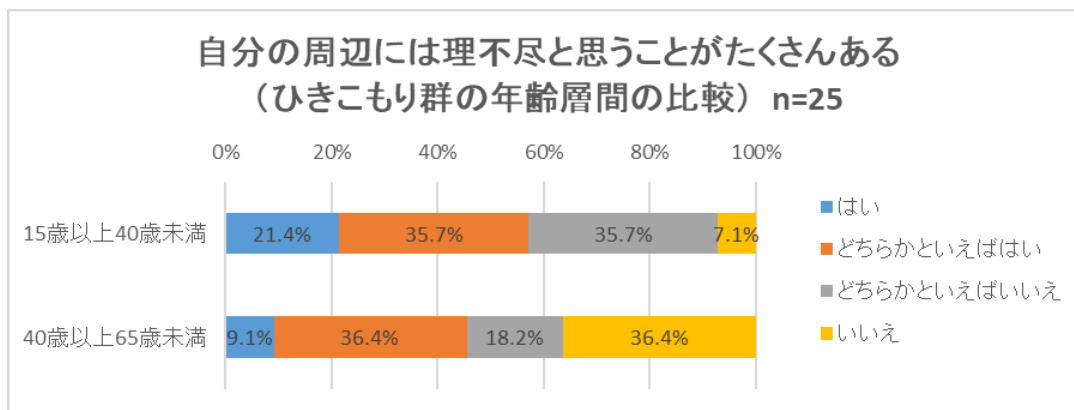


「昼夜逆転の生活をしている」という質問に「はい」又は「どちらかといえばはい」と答える割合が15～39歳のひきこもり群では7.1%、40～64歳のひきこもり群では72.8%と、40～64歳のひきこもり群の方が、昼夜逆転の生活をしていない傾向があった。(p<0.01)

**昼夜逆転の生活をしている
ひきこもり群**

		はい	どちらかとい えはい	どちらかとい えいいえ	いいえ	合計
15歳以上 40歳未満	人数	2人	9人	1人	2人	14人
	%	14.3%	64.3%	7.1%	14.3%	100.0%
40歳以上 65歳未満	人数	1人	0人	2人	8人	11人
	%	9.1%	0.0%	18.2%	72.7%	100.0%
合計	人数	3人	9人	3人	10人	25人
	%	12.0%	36.0%	12.0%	40.0%	100.0%

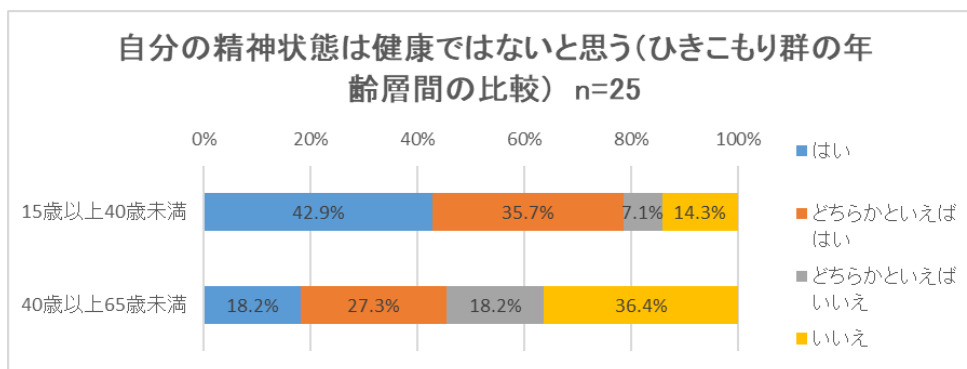
[7] 統計上の有意差の確認はできなかったものの、自分の周辺には理不尽と思うことがたくさんあると思うかどうかについて、「はい」と答える割合が15～39歳のひきこもり群は21.4%であるのに対し、40～64歳のひきこもり群は9.1%であった。



**自分の周辺には理不尽と思うことがたくさんある
ひきこもり群**

		はい	どちらかといえばはい	どちらかといえばいいえ	いいえ	合計
15歳以上 40歳未満	人数	3人	5人	5人	1人	14人
	%	21.4%	35.7%	35.7%	7.1%	100.0%
40歳以上 65歳未満	人数	1人	4人	2人	4人	11人
	%	9.1%	36.4%	18.2%	36.4%	100.0%
合計	人数	4人	9人	7人	5人	25人
	%	16.0%	36.0%	28.0%	20.0%	100.0%

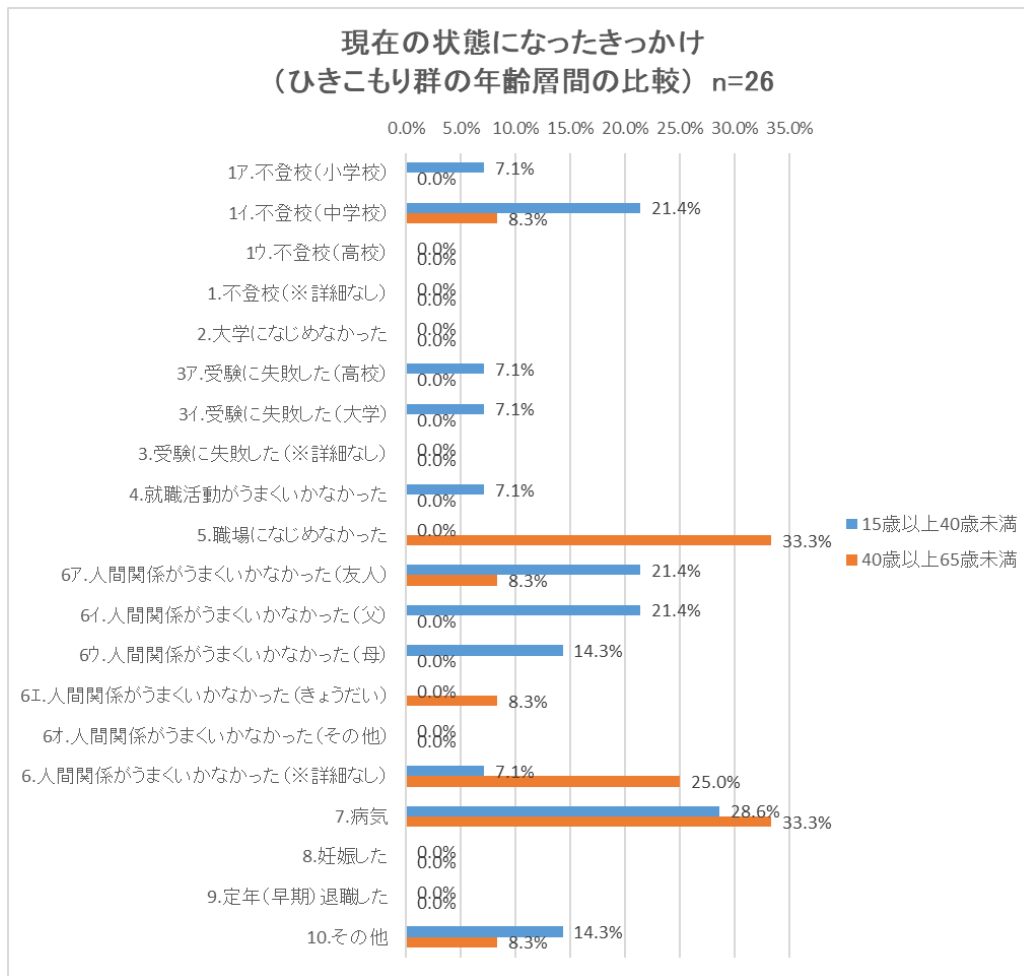
[8] 統計上の有意差の検定はできなかったものの、自分の精神状態は健康ではないと思うかどうかについて、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答える割合が15～39歳のひきこもり群は78.6%であるのに対し、40～64歳のひきこもり群は45.5%であった。



**自分の精神状態は健康ではないと思う
ひきこもり群**

		はい	どちらかといえばはい	どちらかといえばいいえ	いいえ	合計
15歳以上 40歳未満	人数	6人	5人	1人	2人	14人
	%	42.9%	35.7%	7.1%	14.3%	100.0%
40歳以上 65歳未満	人数	2人	3人	2人	4人	11人
	%	18.2%	27.3%	18.2%	36.4%	100.0%
合計	人数	8人	8人	3人	6人	25人
	%	32.0%	32.0%	12.0%	24.0%	100.0%

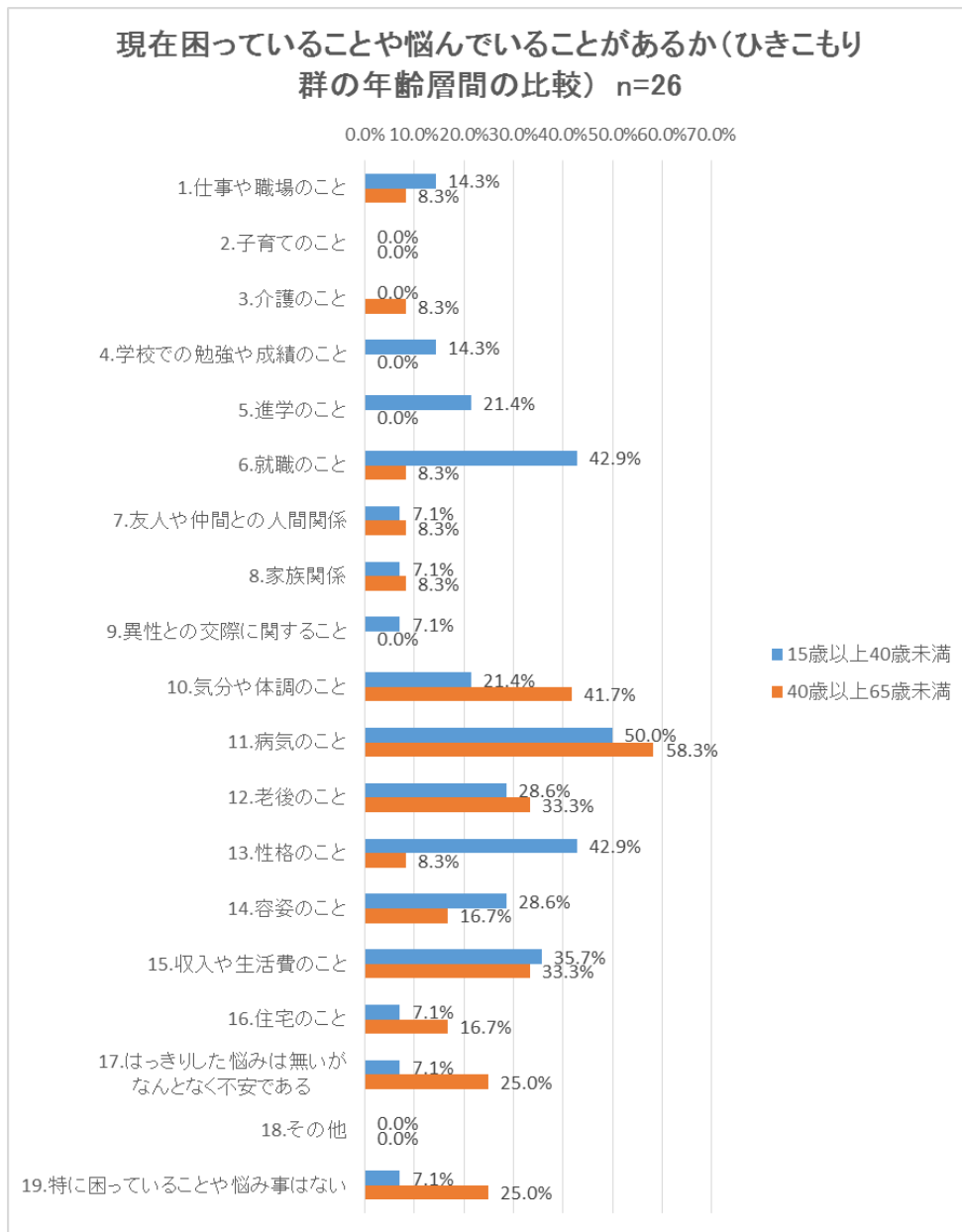
[9] 統計上の有意差の検定はできなかったものの、ひきこもり状態になったきっかけとして15～39歳のひきこもり群については、「不登校」(21.4%)等が挙げられるが、40～64歳のひきこもり群では、「職場になじめなかった(33.3%)」等が挙げられていた。



**現在の状態になったきっかけは
ひきこもり群**

		17.不登校 (小学校)	14.不登校 (中学校)	17.不登校 (高校)	1.不登校 (※詳細なし)	2.大学に なじめな かった	37.受験に 失敗した (高校)	34.受験に 失敗した (大学)	3.受験に 失敗した (※詳細なし)	4.就職活 動がうまく いかなか った	5.職場に なじめな かった		
15歳以上	人数	1人	3人	0人	0人	0人	1人	1人	0人	1人	0人		
40歳未満	%	7.1%	21.4%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	7.1%	0.0%	7.1%	0.0%		
40歳以上	人数	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	4人		
65歳未満	%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%		
合計	人数	1人	4人	0人	0人	0人	1人	1人	0人	1人	4人		
	%	3.8%	15.4%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%	3.8%	0.0%	3.8%	15.4%		
		67.人間関係がうまく いかなかった(友人)	64.人間関係がうまく いかなかった(父)	67.人間関係がうまく いかなかった(母)	61.人間関係がうまく いかなかった(きょうだい)	68.人間関係がうまく いかなかった(その他)	6.人間関係がうまく いかなかった(※ 詳細なし)	7.病気	8.妊娠した	9.定年(早期)退職した	10.その他	合計	
15歳以上	人数	3人	3人	2人	0人	0人	1人	4人	0人	0人	2人	14人	
40歳未満	%	21.4%	21.4%	14.3%	0.0%	0.0%	7.1%	28.6%	0.0%	0.0%	14.3%	100.0%	
40歳以上	人数	1人	0人	0人	1人	0人	3人	4人	0人	0人	1人	12人	
65歳未満	%	8.3%	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	25.0%	33.3%	0.0%	0.0%	8.3%	100.0%	
合計	人数	4人	3人	2人	1人	0人	4人	8人	0人	0人	3人	26人	
	%	15.4%	11.5%	7.7%	3.8%	0.0%	15.4%	30.8%	0.0%	0.0%	11.5%	100.0%	

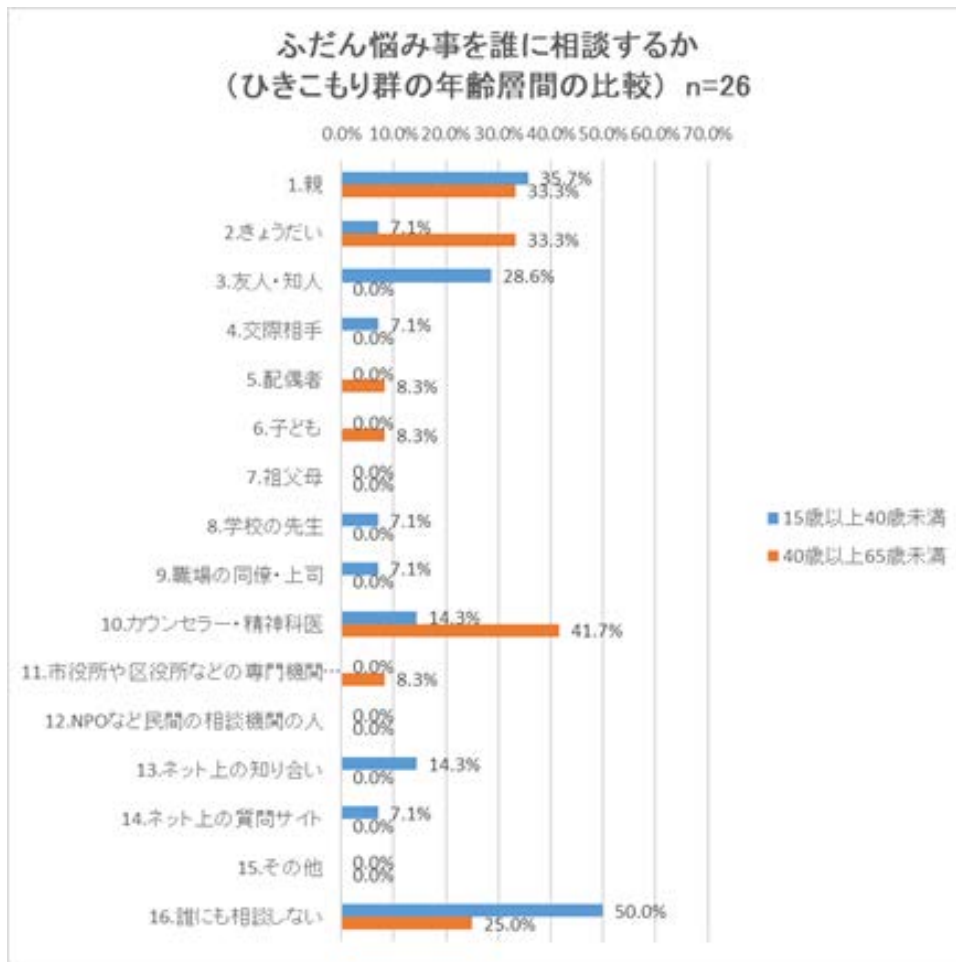
[10] 統計上の有意差の検定はできなかったものの、「現在困っていることや悩んでいることがあるか」について、15～39歳のひきこもり群は「就職のこと」(42.9%)、「性格のこと」(42.9%)などが40～64歳のひきこもり群に比べて多く挙げられており、40～64歳のひきこもり群は「気分や体調のこと」(41.7%)、「はっきりした悩みは無いがなんとなく不安である」(25.0%)などが15～39歳のひきこもり群に比べて多く挙げられていた。



現在困っていることや悩んでいることがあるか
ひきこもり群

		1.仕事や職場のこと	2.子育てのこと	3.介護のこと	4.学校での勉強や成績のこと	5.進学のこと	6.就職のこと	7.友人や仲間との人間関係	8.家族関係	9.異性との交際に関すること	10.気分や体調のこと		
15歳以上	人数	2人	0人	0人	2人	3人	6人	1人	1人	1人	3人		
40歳未満	%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%	21.4%	42.9%	7.1%	7.1%	7.1%	21.4%		
40歳以上	人数	1人	0人	1人	0人	0人	1人	1人	1人	0人	5人		
65歳未満	%	8.3%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	8.3%	8.3%	8.3%	0.0%	41.7%		
合計	人数	3人	0人	1人	2人	3人	7人	2人	2人	1人	8人		
	%	11.5%	0.0%	3.8%	7.7%	11.5%	26.9%	7.7%	7.7%	3.8%	30.8%		
		11.病気のこと	12.老後のこと	13.性格のこと	14.容姿のこと	15.収入や生活費のこと	16.住宅のこと	17.はっきりした悩みは無いがなんとなく不安である	18.その他	19.特に困っていることや悩み事はない			合計
15歳以上	人数	7人	4人	6人	4人	5人	1人	1人	0人	1人			14人
40歳未満	%	50.0%	28.6%	42.9%	28.6%	35.7%	7.1%	7.1%	0.0%	7.1%			100.0%
40歳以上	人数	7人	4人	1人	2人	4人	2人	3人	0人	3人			12人
65歳未満	%	58.3%	33.3%	8.3%	16.7%	33.3%	16.7%	25.0%	0.0%	25.0%			100.0%
合計	人数	14人	8人	7人	6人	9人	3人	4人	0人	4人			26人
	%	53.8%	30.8%	26.9%	23.1%	34.6%	11.5%	15.4%	0.0%	15.4%			100.0%

[11] 統計上の有意差の検定はできなかったものの、「ふだん悩み事を誰に相談するか」という質問では、15～39歳のひきこもり群が「誰にも相談しない」(50.0%)、「親」(35.7%)などが多く挙げられており、40～64歳のひきこもり群は「カウンセラー」(41.7%)、「きょうだい」(33.3%)などが多く挙げられ、「ネット上の知り合い」や「ネット上の質問サイト」と答えるものはいなかった。



ふだん悩み事を誰に相談するか
ひきこもり群

		1.親	2.きょうだい	3.友人・知人	4.交際相手	5.配偶者	6.子ども	7.祖父母	8.学校の先生		
15歳以上 40歳未満	人数	5人	1人	4人	1人	0人	0人	0人	1人		
	%	35.7%	7.1%	28.6%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%		
40歳以上 65歳未満	人数	4人	4人	0人	0人	1人	1人	0人	0人		
	%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	8.3%	8.3%	0.0%	0.0%		
合計	人数	9人	5人	4人	1人	1人	1人	0人	1人		
	%	34.6%	19.2%	15.4%	3.8%	3.8%	3.8%	0.0%	3.8%		
		9.職場の同僚・上司	10.カウンセラー・精神科医	11.市役所や区役所などの専門機関の人	12.NPOなど民間の相談機関の人	13.ネット上の知り合い	14.ネット上の質問サイト	15.その他	16.誰にも相談しない	合計	
15歳以上 40歳未満	人数	1人	2人	0人	0人	2人	1人	0人	7人	14人	
	%	7.1%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%	7.1%	0.0%	50.0%	100.0%	
40歳以上 65歳未満	人数	0人	5人	1人	0人	0人	0人	0人	3人	12人	
	%	0.0%	41.7%	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	100.0%	
合計	人数	1人	7人	1人	0人	2人	1人	0人	10人	26人	
	%	3.8%	26.9%	3.8%	0.0%	7.7%	3.8%	0.0%	38.5%	100.0%	